

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2025年度）

学科	氏名	科目名	履修年次	単位	専門科目	実務経験	授業内容との関係性
人間心理	室城 隆之	司法・犯罪心理学	3	2	合計 14 単位	家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床(アセスメント、心理教育、カウンセリング)及び夫婦・家族臨床に従事	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		カウンセリング概論	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	堀内 美穂子	精神保健	1	2		産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		関係行政論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		専門セミナーI	3	4			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		福祉心理学	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
現代社会	崎本 武志	観光概論	1	2	合計 14 単位	株式会社JTBで勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		鉄道・交通論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		ヘリテージツーリズム論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		クリエイティブツーリズム論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	奥山 正樹	環境概論	1	2		環境省(庁)で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然環境事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、国土庁(当時)、JESCO、福島環境再生事務所など他分野の行政や特殊会社も経験。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		自然遺産論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
経営社会	小田原 由佳	ビジネス会計基礎	1	2	合計 14 単位	公認会計士。大手監査法人で大会社の会社法監査および上場企業等の財務諸表監査や内部統制監査のほか、新規上場支援業務や会計コンサルティング業務に従事していた。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		原価計算I	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	南馬越 一義	ファッションビジネス入門	1	2		株)ビームスで店長やバイヤー、クリエイティブディレクターなど歴任。2010年「ビームス創造研究所」所長となり「ファッションを軸にモノをつくり、コトを起こす」新事業を開始。20年よりビームス ディレクターズ ルームクリエイティブディレクター。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		ファッションマーケティング論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	山田 洋介	ファッションビジネス特論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		起業概論	1	2		大日本印刷にてデジタル放送事業やインターネットコンテンツ事業など新規事業開発の担当を歴任。また社内スタートアップとしてスポーツメディア事業を立ち上げるなど社内アントレプレナーとしても企業経営を実践し、マーケティングを活用したメディア・コンテンツ関連の事業開発・起業を経験。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
マス・コミュニケーション	神田 洋	スポーツジャーナリズム論I	2	2	合計 14 単位	共同通信社にて記者として勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		スポーツジャーナリズム論II	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	本多 悟	出版論I	2	2		総合出版社・光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。出版業界の最新動向も授業に反映させていく。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		出版論II	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	井上 一郎	マーケティング論	1	2		総合広告会社第3位旭通信社(現ADKマーケティング・ソリューションズ)入社、出版社宣伝会議入社(月刊版促会議編集長)、ADK復社(第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長など)	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		メディア産業論I	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
情報文化	廣田 有里	広告論	1	2	合計 14 単位	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		We b デザイン	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		情報ネットワーク	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		e-コマースシステム	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	八木 徹	Webサービス開発	3	2		複数の企業における勤務を通じ、大規模計算機システムの構築サポートや各種シミュレーターの開発に従事	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		プログラミングI	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
こどもコミュニケーション	我謝 美左子	プログラミングII	2	2	合計 14 単位	社会福祉法人母子生活支援施設母子指導員 子ども家庭支援センター 嘱託相談員	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		情報処理概論	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		子ども家庭支援論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		子ども家庭福祉	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	吉岡 三貴	社会福祉	1	2		国立小・中学校非常勤講師として勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		幼児と表現	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	守屋 志保	健康・スポーツ科学	1	2		第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイ	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		身体表現の技術	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	蛸原 正貴	グループ体験	2	2		公立小学校教諭として勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
			2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2025年度）

学科	氏名	科目名	履修年次	単位	専門科目	実務経験	授業内容との関係性
人間心理	室城 隆之	司法・犯罪心理学	3	2	合計 14 単位	家庭裁判所調査官として勤務。28年間、非行臨床(アセスメント、心理教育、カウンセリング)及び夫婦・家族臨床に従事	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		カウンセリング概論	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	堀内 美穂子	精神保健	1	2		産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインターカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		関係行政論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		専門ゼミナールI	3	4			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		福祉心理学	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用

教員名	室城 隆之(T-0203)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	司法・犯罪心理学/犯罪心理学				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	心2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	司法・犯罪分野の心理学理論と心理学的支援について学ぶ						
授業の概要	この授業では、司法・犯罪分野の心理に関する支援について、基本的な理論と実践に関する知識を修得する。最初に、犯罪の原因に関する生物学的、社会学的、心理学的諸理論について学習する。次に、犯罪者の捜査、司法手続き、処遇、立ち直りという一連のプロセスにおいて心理学が果たす役割と心理的支援、また、犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。さらに、家庭裁判所で扱われる家事事件とそれに対する心理的支援についても学ぶ。最後に、各種犯罪の特徴についても考察する。 この授業は、基本的には講義形式で実施するが、視聴覚教材も使用する。また、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。 なお、資料の配付、課題の提出等では、Google Classroom を使用する。また、オンライン授業（オンデマンド授業）を実施する際も、Google Classroomを使用する。						
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学科の「心理学的な視点をもって、社会集団や社会問題について多角的に考えることができる。」というディプロマ・ポリシーに関連する。 具体的な到達目標は、以下のとおりである。 （１）犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。 （２）司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法，研究と倫理 予習:テキストを読み、犯罪心理学の対象と方法および倫理について調べておく(100分)。 復習:犯罪心理学の研究対象、方法、研究における倫理をについて説明できる(100分)。
第2回	犯罪の原因（１） 生物学的要因 予習:テキストを読み、犯罪心理学の生物学的要因について調べておく(100分)。 復習:生物学的要因についての研究史、新しい生物学的理論について説明できる(100分)。
第3回	犯罪の原因（２） 社会学的要因 予習:テキストを読み、犯罪心理学の社会学的要因について調べておく(100分)。 復習:社会学的要因について、3つの理論とその代表的な研究者およびその理論について説明できる(100分)。
第4回	犯罪の原因（３） 心理学的要因，環境との相互作用，犯罪原因の統合的理解 予習:テキストを読み、犯罪心理学の心理学的要因について調べておく(100分)。 復習:心理学的要因について、代表的な研究者およびその理論について説明できる。犯罪原因の統合的理解モデルについて説明できる(100分)。
第5回	犯罪捜査と心理学 予習:テキストを読み、犯罪者プロファイリング、虚偽検出、目撃証言について調べておく(100分)。 復習:犯罪者プロファイリングの歴史と方法、虚偽検出の方法、目撃証言に関する様々な実験について説明できる(100分)。
第6回	非行・犯罪に対する司法手続き～アセスメントを中心に 予習:テキストを読み、非行・犯罪者に対するアセスメントについて調べておく(100分)。 復習:非行・犯罪者に対するアセスメントについて、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。
第7回	非行・犯罪者の処遇・矯正 予習:非行・犯罪者の処遇について調べておく(100分)。 復習:非行・犯罪者の処遇について、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。
第8回	家事事件と心理的支援 予習:家庭裁判所における家事事件について調べておく(100分)。 復習:家庭裁判所の家事事件における家庭裁判所調査官による心理的支援について説明できる(100分)。
第9回	犯罪者の立ち直り 被害者支援と犯罪予防 予習:テキストを読み、犯罪からの立ち直りおよび被害者支援と犯罪予防について調べておく(100分)。 復習:犯罪者に対する新しい処遇、犯罪者の立ち直りに関する諸理論について説明できる。また、被害者支援と犯罪予防の理論と実際について説明できる。(100分)。

第10回	犯罪各論（１） 暴力犯罪，殺人 予習:参考書などで、暴力犯罪，殺人について調べておく(100分)。 復習:暴力犯罪の種類，暴力犯罪や殺人を起こす加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第11回	犯罪各論（２） 性犯罪，放火 予習:参考書などで、性犯罪，放火について調べておく(100分)。 復習:性犯罪，放火の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第12回	犯罪各論（３） 窃盗等の財産犯，その他の犯罪 予習:参考書などで、窃盗等の財産犯について調べておく(100分)。 復習:財産犯の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第13回	犯罪各論（４） 少年非行 予習:少年非行について調べておく(100分)。 復習:代表的な少年非行と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第14回	まとめ～司法・犯罪心理学の課題 予習:被害者支援の内容および司法・犯罪心理学の課題について調べ、自分の考えをまとめておく(100分)。 復習:被害者支援の内容について説明できる。これまでの講義内容を振り返る(100分)。

成績評価方法・基準	到達目標（１）「犯罪・非行，犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける」及び「（２）司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ」について，毎回の講義終了時に提出するリアクション・ペーパー（45％）と定期試験（55％）を合計して評価する。なお、リアクション・ペーパーの評価はその授業への出席が前提であり、出席せずに提出した場合には評価に加えない。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『Progress & Application司法・犯罪心理学』	越智啓太	サイエンス社	978-4-7819-1481-7	
参考書	『犯罪心理学－犯罪の原因をどこに求めるのか』 大淵憲一 培風館			
その他	授業内容に関する質問は，毎回提出するリアクション・ペーパーに記載すること。それ以外の連絡は，tmuroki@edogawa-u.ac.jpにメールをすること。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。２８年間，非行臨床（アセスメント，心理教育，カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／人間心理学科(3)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城 隆之(T-0203)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	カウンセリング概論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	心2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	カウンセリングの理論と実践を学ぶ						
授業の概要	この科目は、臨床心理学の実践としてのカウンセリングについて、その基礎となる諸理論を体系的に学ぶことを目的とする。また、カウンセリング理論の1つである交流分析理論について詳細に学ぶことによって、理論を実際に活用することができるようになることを目標とする。パワーポイントを用いた講義が中心となるが、演習を用いた体験的な学習や、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。なお、毎回の講義開始時に資料を配布する。 この科目では、資料の配付、課題の提出等では Google Classroom を使用する。また、オンライン授業（オンデマンド授業）を実施する際も、Google Classroomを使用する。						
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに、人間心理学科のディプロマポリシーである「個人の多様性を理解し、それを受け入れ可能な社会の構築・維持について考えることができる。」に関連しており、以下を到達目標とする。 1. カウンセリングの構造、理論を概説できる。 2. カウンセリングの理論の1つである交流分析の理論および技法について概説し、活用できる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	カウンセリングとは何か 予習:カウンセリングとは何かについて調べ、自分の見解を持つ。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの定義、目標、特徴、カウンセリングのものの見方を説明できる。(100分)
第2回	カウンセリングの構造と基本的な技法 予習:カウンセリングの構造と基本的な技法について調べておく。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの構造、基本的な技法を説明できるようにする。(100分)
第3回	カウンセリングのプロセスと技法 (1) カウンセリングのプロセスと面接初期の技法 予習:カウンセリングの流れ(プロセス)と技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングのプロセス、技法を説明できるようにする。(100分)
第4回	カウンセリングのプロセスと技法 (2) カウンセリングのプロセスと面接中期・後期の技法 予習:カウンセリングの中期・後期の技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの中期・後期の技法を説明できるようにする。(100分)
第5回	精神分析療法のカウンセリング 予習:精神分析療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、精神分析療法と精神分析療法のカウンセリングの違いを説明できるようにする。(100分)
第6回	認知・行動療法のカウンセリング 予習:認知・行動療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、認知・行動療法のカウンセリングの特徴、技法について説明できるようにする。(100分)
第7回	人間性心理学のカウンセリング 予習:人間性心理学(ヒューマニスティック・アプローチ)について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、人間性心理学のカウンセリングの特徴、種類を説明できるようにする。(100分)
第8回	集団療法・家族療法のカウンセリング 予習:集団療法・家族療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、集団療法・家族療法のカウンセリングの特徴、技法を説明できるようにする。(100分)
第9回	交流分析(1) 自我状態 予習:テキストを読み、交流分析と自我状態について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、交流分析、自我状態について説明できるようにする。(100分)
第10回	交流分析(2) やりとり分析 予習:テキストを読み、やりとり分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、様々なやり取りについて説明できるようにする。(100分)

第11回	交流分析(3) 脚本分析 予習:テキストを読み、脚本分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、脚本とは何か、どのように形成されるかについて説明できるようにする。(100分)
第12回	交流分析(4) 脚本化された行動(ラケットとゲーム) 予習:テキストを読み、脚本化された行動について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ラケットとゲームについて説明できるようにする。(100分)
第13回	ゲシュタルト療法 予習:テキストを読み、ゲシュタルト療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ゲシュタルト療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)
第14回	再決断療法 予習:テキストを読み、再決断療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、再決断療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)

成績評価方法・基準	カウンセリングの構造、理論および交流分析の理論および技法の理解度を問うための、毎回の講義終了時に提出するリアクションペーパー（45%）およびカウンセリングの構造、理論の理解度および交流分析の理論および技法を活用できるかを問う最終レポート（55%）によって評価する。リアクションペーパーについては、毎回、次の講義の際に講評する。なお、リアクションペーパーの評価はその授業への出席が前提であり、出席せずに提出した場合には評価に加えない。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「生きづらさを手放す」－自分らしさを取り戻す再決断	室城隆之	春秋社	978-4-393-36551-9	
参考書	「はじめてのカウンセリング入門(上)」－カウンセリングとは何か 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40368-8 「はじめてのカウンセリング入門(下)」－ほんものの傾聴を学ぶ 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40369-5			
その他	・本科目は公認心理師の受験資格にはなっていないが、公認心理師を目指す学生は受講することを推奨する。 ・授業内容に関する質問は、毎回提出するリアクション・ペーパーに記載すること。それ以外の連絡は、tmuroki@edogawa-u.ac.jpにメールをすること。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。２８年間、非行臨床（アセスメント、心理教育、カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	精神保健				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	心2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	身体・心理・社会的支援とwell-being						
授業の概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、精神保健の意義・課題を考える。また、ライフサイクルの各段階で生じる精神保健の課題を知り、その対処に必要な各種専門機関や支援機関の役割と多職種による連携支援についても概説する。この科目の学びは、社会学部（2）「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」、人間心理学科（1）「学術的な知見とエビデンスに基づいて、こころの基礎的メカニズムを理解し、ヒトの行動について科学的に考えることが出来る」（2）「個人の多様性を理解し、それを受入可能な社会の構築・維持について考える事ができる」とのディプロマ・ポリシーに基づく。 授業資料は原則Google classroomに前々日までに配信する。 第6回及び第14回のテストは、授業時間内に実施し、Google formsを使用した試験問題を配信するため、必ず充電したパソコンを持参する事。 教員への質問（評価対象外）は、各授業配布Google classroomのコメント欄に授業実施週の週末(日) 17：00までに投稿すること。 都度の欠席連絡は不要。但し、試験回については授業当日の授業開始前までに担当教員（horiuchi@edogawa-u.ac.jp）に欠席理由を申し出ること。 公欠の場合を除き、対面以外の受験や後日受験は認めない。						
到達目標	1. 精神の健康についての基本的考え方と歴史的変遷を理解する 2. 現代社会におけるライフサイクルに応じた精神保健の諸課題と、地域の支援体制のしくみを理解する 3. 精神保健の維持・増進のために機能している専門機関と関係職種の活動と多職種の連携について理解し、その知識を活用することで、自らの健康を守り、必要に応じ周囲の人々を支援することができる						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション：精神保健とは何か　ー精神保健の歴史と課題ー 予習：「精神保健」とは何か、各自下調べを行う(100分) 復習：精神の健康について基本的考え方を説明できる（100分）
第2回	ライフサイクルからみた精神保健（1）エリクソンの発達課題（出生前、乳幼児期、学童期） 予習：エリクソンのライフサイクルと各段階の課題について調べ、ノートにまとめておく（100分） 復習：出生前から学童期に生じる精神保健の課題とその支援の現状を説明できる(100分)
第3回	ライフサイクルからみた精神保健（2）エリクソンの発達課題（思春期、青年期、成人期、老年期） 予習：思春期や青年期に生じる精神保健の課題について考え、ノートにまとめておく(100分) 復習：思春期や青年期に生じる精神保健の課題と成人期、老年期の課題の概要とその特徴をできる（100分）
第4回	各種健康障害と精神保健 予習：人々が生涯において罹患し、心の健康に影響をあたえる疾患について調べてノートにまとめておく（100分） 復習：各種疾患により生じる精神保健の課題と支援の現状について説明できる（100分）
第5回	精神の健康と支援 予習：精神の健康とは何か、定義について調べてノートにまとめておく(100分) 復習：精神の健康について、国際的な視点による定義とその実践について説明できる(100分)
第6回	精神保健における家族アプローチ及びミニテスト（出題範囲：第1～6回授業） 予習：精神の健康の保持・増進における家族の役割について考え、ノートにまとめておく（100分） 復習：精神保健活動において、家族支援や家族教育がなぜ重要視されるのか、説明できる（100分）
第7回	学校精神保健 予習：就学期において生じる精神保健の課題を3個考え、その概略を調べノートにまとめておく（100分） 復習：就学期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる（100分）
第8回	青年期精神保健 予習：青年期において生じる精神保健の課題を3個考え、その概略を調べ、ノートにまとめておく（100分） 復習：青年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)
第9回	成人期・老年期精神保健 予習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題を3個考え、その概略を調べ、ノートにまとめておく（100分） 復習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)
第10回	認知症疾患とターミナルケア 予習：認知症疾患の内容とその疾患の特徴を調べておく（100分） 復習：認知症疾患の特徴を概説し、治療や生活支援の課題について自らの考え方を述べる事が出来る（100分）

第11回	障害者の社会参加と精神保健 予習：障害者福祉の視点から、3つの障害種別とは何か調べ、ノートにまとめておく（100分） 復習：障害者の社会参加や障害者就労の現状と課題について説明できる（100分）
第12回	アルコールを含む薬物依存をめぐる精神保健の課題 予習：アディクションとは何か調べておく（100分） 復習：アディクション問題に関連した社会的課題について説明できる（100分）
第13回	地域精神保健における災害精神保健と自殺予防対策 予習：サイコロジカルファーストエイドとは何か、ノートにまとめておく 日本における自殺者の数と動向と特徴をノートにまとめておく（100分） 復習：災害時に生じる精神保健的課題とケアについて、自らの考えを説明できる 日本の自殺者の現状とその特徴について説明できる（100分）
第14回	総括・評価 授業総括および総括テスト 予習：授業の総括を行う（100分） 復習：ノートを整理する（100分）

成績評価方法・基準	原則、全授業対面授業とする。 えどへんは必ず入力すること。試験実施回を除き欠席連絡は不要である。 理解度や出欠確認のため、出欠票又は授業時間内で回答できるリアクションペーパー等の提出を指示する場合がある（成績評価対象外）。 授業時の提出物の提出がなく、えどへん入力のみの場合は欠席として扱う。 よって途中退出する場合は、教員宛、退出理由と退出時間をメールで連絡する事。 評価は、授業内に実施する第6回ミニテスト（30％）・第14回の総括テスト（70％）の合計点で評価する。 但し最終成績評価については、各テストの受験者の得点分布を踏まえ、粗点修正を行う場合がある。
-----------	---

参考書	新・精神保健福祉士養成講座第3版 2 精神保健の課題と支援，日本ソーシャルワーク教育学校連盟編，
その他	教員への個別連絡の必要性がある場合は、horiuchi@edogawa-u.ac.jpへメールをすること。 他学科履修希望者は、他学科履修届を提出すること。 感染症等による公欠は、証明書類提出と共に申し出ること（電子送信可）。 なお、評価テストの授業回の欠席は、当日の授業開始前までにメールにて担当教員 horiuchi@edogawa-u.ac.jp に連絡のこと。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインターカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／人間心理学科(1)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	関係行政論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	心3群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	心理的支援に必要な法律と制度						
授業の概要	本科目は公認心理師受験資格取得のための指定科目である。公認心理師を目指す人は必ず履修すること。予習が行われたことを前提の授業を実施する。 公認心理師が活動することが期待される主要5分野（保健・医療，教育，福祉，司法・犯罪，産業・労働）に関連する法制度を理解する。法律の成立目的や法制度の仕組みを知り，要支援者の守秘義務と通告義務等，法に準拠した判断に基づく支援活動を行う力を修得するため，すべての授業回においてディスカッションやグループワークを行う。 資料の配付や課題（確認テストやリアクションペーパー）提示にはGoogle Classroomを使用し，原則全授業，対面授業を実施する。事情によりMeetを活用したリアルタイム授業，もしくは授業動画配信を行う場合は，必要なURL及び変更指示等をClassroom内にて提示する。						
到達目標	(1) 日本国憲法をはじめとした法の上位性を確認し，各支援分野の活動の根拠となる法制度について説明することができる (2) 支援が必要な事例に対して，複数の法律を活用した多角的な支援方略を検討し，自らの意見を他関係職種に伝達し連携するための基礎的コミュニケーション力を修得する この科目は，社会学部 (5)「現代の社会における諸課題の解決をはかりながら，持続可能な社会の構築に貢献できる」，(6)「優しさと温かみに満ち，総合的な判断能力をもつことが出来る」及び人間心理学科 (2)「心理学，臨床心理学，カウンセリング等に関する教育・研究を深め，専門知識と実践力を有し，真の人間を理解することが出来る」(3)心理学的視点を持って，社会集団や社会問題について多角的に考えることができる」とのディプロマポリシーに関連し，公認心理師として法制度を遵守・活用しつつ，要支援者を支援する方略をグループセッション等を通じて身につけるものである。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	公認心理師法と日本における関連法規 予習：公認心理師の職責や精神保健等の学びを振り返っておく(100分) 復習：公認心理師が法律を学ぶ意義・必要性を説明できる（100分）
第2回	保健・医療分野に関する法制度（1）－医療分野－ 予習：国民皆保険制度とは何か、調べておく（100分） 復習：日本の医療制度の特徴と医療機関の定義、関連法について説明できる（100分）
第3回	医療・医療分野に関する法制度（2）－保健分野－ 予習：保健分野で展開されている心理的支援の提供機関について、ノートに書き出しておく（100分） 復習：公衆衛生が公的社会保障制度となった理由と、サービス提供機関の役割・施策について説明できる（100分）
第4回	福祉分野に関する法制度（1）－児童福祉 母子父子寡婦支援－ 予習：児童福祉法の設立時期と設立目的をノートに書き出しておく（100分） 復習：児童福祉法における公認心理師の役割と心理的支援について説明できる（100分）
第5回	福祉分野に関する法制度（2）－障害福祉・高齢者福祉－ 予習：障害者基本法、高齢者福祉法、障害者総合支援法の設立時期と設立目的をノートに書き出しておく（100分） 復習：障害者や高齢者福祉領域における心理的支援の提供機関と、今日的な課題について説明できる（100分）
第6回	教育分野に関する法制度（1） 予習：日本国憲法に定められる教育に関する法律とその内容をノートに書き出しておく（100分） 復習：教育基本法・学校教育法・学校保健安全法についてその概要を説明できる（100分）
第7回	教育分野に関する法制度（2） 予習：スクールカウンセラーの配置開始時期とその目的をノートに書き出しておく（100分） 復習：チーム学校の機能と構成、各構成員の役割について説明できる(100分)
第8回	司法・犯罪分野に関する法制度（1）－事件発生から処遇決定まで－ 予習：刑罰の意義と、少年事件・成人事件の処遇決定の流れのイメージ図をノートに書き出しておく（100分） 復習：少年事件の事件の取り扱いと、成人事件の取り扱いの違いや、処遇決定機関について説明できる（100分）
第9回	司法・犯罪分野に関する法制度（2）－社会復帰支援と家事事件－ 予習：少年院、家庭裁判所と保護観察所の機能、パグ条約について調べ、ノートに書き出しておく（100分） 復習：処遇を受ける少年や成人の支援機関と支援方略、心理的支援が発生する家事事件について説明できる(100分)

第10回	産業・労働分野に関する法制度（1）制度編 予習：労働三法及び、労働安全衛生法とは何か、ノートに概要をまとめておく（100分） 復習：労働分野におけるメンタルヘルス対策発展の歴史と労働環境保護に関する法律について説明できる(100分)
第11回	産業・労働分野に関する法制度（2）支援編 予習：「電通事件」「高橋まつりさん自殺事件」の2つの事件概要を調べ、2人の死に共通する労働環境についてノートにまとめておく（100分） 復習：日本の労働時間や三六協定、非正規雇用者や障害者就労に対する支援の課題について、法律を使って説明できる(100分)
第12回	横断的な心理的支援の展開 予習：公認心理師が汎用性のある資格となった理由について、自身の意見をノートにまとめておく（100分） 復習：授業内で提示された課題について、支援にあたり判断根拠とする法律名と支援方針を説明できる（100分）
第13回	法制度の限界と今後 予習：尊厳死に関する法整備の現状と、支援の限界はどのような時に発生すると考えるか、自身の意見をノートにまとめておく(100分) 復習：法制度の限界と課題について、社会背景や法律を使って自分の意見を述べるができる（100分）
第14回	総括・評価 総括（30分）及び総括テスト（60分） 本講義を通じて、自分がどのような学びを今後深めていくべきかを振り返る 予習：各分野ごとに、印象に残ったテーマと、印象に残った理由をノートにまとめておく（100分） 復習：各分野において心理学的支援に関連する法律について説明できる（100分）

成績評価方法・基準	授業時間内で提示される課題やディスカッションへの取り組み姿勢（30％）、授業内総括テスト（70％）により評価する。 課題はGoogle Classroom内でGoogle Forms等により提示し、評価はシステムを通じてフィードバックされる。 定期試験期間中のテストは行わない。 原則、欠席連絡は不要だが、テスト実施回においては、授業開始前までに担当教員 horiuchi@edogawa-u.ac.jp に連絡をすること。 対面以外の受験や再試験については、公欠の場合にのみ対応する。
-----------	---

参考書	公認心理師の基礎と実践23 関係行政論 元永拓郎編 遠見書房
その他	エドヘンは、各授業で必ず入力すること。出席が評価の所定日数に達しない場合は、成績評価を行わない。 試験回以外の欠席連絡は不要。公欠届は、書類が揃ってから申請を行うこと。 授業においては、想定課題の提示等により、ディスカッションや意見表明が発言が求められ、この内容も評価の対象とする。 質問等については、Google Classroom内の課題シート、又は授業該当日のClassroomへのコメント欄に授業実施週の（水）17:00迄に各自投稿すること。 授業内総括テストは、授業実施時間内で行われる。 個別の相談・必要事項の連絡は、horiuchi@edogawa-u.ac.jp を利用すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインターカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健センター等に勤務、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(5)／社会学部(6)／人間心理学科(2)／人間心理学科(3)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)			履修開始年次	3年	単位※1	4単位
年度	2025年度	科目名	専門ゼミナールI				
学期※2	2025年度前期、2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	心3群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	地域保健・医療臨床						
授業の概要	資料の配付や課題提示はGoogle Classroom等を活用し、原則一部授業（第13回）を除き、授業は対面にて実施する。基本的に充電済みパソコンを持参すること。 オンライン授業が必要となった場合は、Meetを利用したりリアルタイム授業を行う。Meet参加時は必ずカメラ・オンで参加する事。本ゼミでは事例検討や研究発表における意見交換を重視し、授業内での質問や課題に関して積極的に発言を求める。これらの作業を通じて自己の思考プロセスを言語化し自己洞察を深め、支援に寄与する研究テーマを見出すことを目標とする。 前期は、地域で発生する人々の心理的課題の事例を通じて、背景にある社会・文化的課題を踏まえて事例をアセスメントし、複数の視点から支援方略やクライアントの生活課題を検討する力を身につける。 前期後半から後期は卒業論文の作成に向けてサンプル論文を購読し、演習も織り交ぜつつ具体的な論文の読み方・分析手法・執筆方法を学ぶ。 年間を通じて自分の研究テーマをイメージしながら関連論文を探索・精読し、12月には卒業研究に向けた研究計画を決定、卒業研究に必要な準備を整える。						
到達目標	1. 支援対象者の心理的課題について、社会文化的背景について調べた上で、事例をアセスメントし、支援方略やその課題を明らかに出来る 2. 地域で発生する支援事例の背景要因について、研究テーマを探索し、先行研究の知見について学び、その内容を概説できる 3. 自らが定める研究テーマの社会的意義について説明し、倫理的配慮を含めた適切な方法で調査・研究を行うことができる 本科目は、社会学部の（３）「自分の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」（４）「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる」、及び、人間心理学科の（３）「心理学的な視点を持って、社会集団や社会問題について多角的に考えることができる」、（５）「データに基づいて、自らの考えをまとめ適切に表現するとともに、それについてのディスカッションができる」というディプロマ・ポリシーに基づく。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション　ー自分の心理学的関心を見つけようー 予習：自分の心理学的興味について各自ノートにいくつかリストアップしておく（100分） 復習：自分の興味はどこにあるのか、その理由は何か、他者に伝わるようノートにまとめる（100分）
第2回	地域臨床とは何か　ー地域臨床における事例と心理支援者が果たすべき役割ー 予習：地域で発生する支援事例を3つ考え、書き出してみる(100分) 復習：地域における臨床支援活動で求められる心理支援者の役割について説明できる(100分)
第3回	事例検討の進め方　ー事例検討の着眼点を知るー 予習：対人の際に必要な情報は何か、ノートに書きだしておく（100分） 復習：提示事例に対して、対人支援に必要な情報と社会・文化的な背景と支援課題をまとめる(100分)
第4回	事例検討1　医療現場における心理支援の事例から 予習：医療現場における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分) 復習：医療現場における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる（100分）
第5回	事例検討2　保健領域における心理支援の事例から 予習：保健領域における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分) 復習：保健領域における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる（100分）
第6回	事例検討3　教育領域における心理支援の事例から 予習：教育領域における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分) 復習：教育領域における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる（100分）
第7回	事例検討4　青年期における心理支援の事例から 予習：青年期における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分) 復習：青年期における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる（100分）
第8回	事例検討5　成人期における心理支援の事例から 予習：成人期における事例について、自分なりの見立てをノートにまとめておく(100分) 復習：成人期における事例の支援に必要な知識と支援の在り方について概説できる（100分）
第9回	対人支援に役立つ研究・論文とは何か 予習：テキスト第1章「論文とは何なのか？」を熟読し、研究と論文の違いを考える（100分） 復習：研究と論文の違いについて説明・論述する（100分）
第10回	研究における測定と統計分析の手法 予習：教科書の第2章「研究における測定」、3章「測定から統計へ」を熟読し、自身の統計知識を確認する（100分）

	復習：記述統計の意味、分析の意味について説明できる（100分）
第11回	卒業研究に向けたイメージづくり ―研究テーマの設定と社会的意義― 予習：自分はどのような研究をしたいのか、研究タイトルを考える(100分) 復習：興味・関心を持った研究テーマについて、現在どのような社会の実情（社会背景）があるのか説明する（100分）
第12回	CiNi・Google Scholar等を使った文献収集と図書館利用 ―キーワードの決定と文献検索― 予習：論文検索に利用するキーワードを3つ決定し、CiNi, Google Scholar等や図書館を使って文献を検索する(100分) 復習：自分の研究テーマに合致する先行研究の書誌情報一覧を作成・提出する
第13回	論文執筆の手法と手順 ―調査研究と文献研究―（指定動画の視聴） 予習：書誌情報一覧に基づき、論文や書籍の所在を明らかにし、入手方法を調べる(100分) 復習：自分の研究テーマに関連する文献を最低3つ選ぶ（100分）
第14回	研究計画の作成 ―研究テーマ・研究目的・方法― 予習：夏休みに講読する参考図書・文献等を入手する（100分） 復習：入手した文献を要約し、自身の研究テーマ・先行研究の知見をまとめ・自身の研究計画（案）発表スライドを完成、提出する（100分）
第15回	研究計画（案）発表とディスカッション① 予習：発表の予行演習を行い、修正を行う（100分） 復習：ディスカッションや指摘を踏まえ、卒業研究に向け研究計画を再編する（100分）
第16回	研究計画（案）発表とディスカッション② 予習：発表の予行演習を行い、必要な修正を行う（100分） 復習：ディスカッションや指摘を踏まえ、卒業研究に向け研究計画を再編する（100分）
第17回	SPSSを使った統計分析（演習） ―記述統計量・信頼性係数算出の意味― 予習：最新のSPSSソフトを動かせる状態にしておく（100分） 復習：記述統計量・信頼性係数の結果を図表を使って論述する（100分）
第18回	サンプル論文講読1 ―探索的因子分析― 予習：探索的因子分析についてテキスト4章を精読し理解する（100分） 復習：探索的因子分析の活用場面について説明することができる（100分）
第19回	サンプル論文講読2 ―確定的因子分析とt検定― 予習：確定的因子、t検定について、テキスト5章を精読し理解する（100分） 復習：確定的因子分析やt検定の活用場面について説明することができる（100分）
第20回	論文講読3 ―1要因分散分析と相関係数・偏相関係数― 予習：1要因分散分析と相関係数についてテキスト6章を精読し理解する（100分） 復習：1要因分散分析の活用場面について説明することができる（100分）
第21回	論文講読4 ―2要因分散分析と χ^2 検定― 予習：2要因分散分析と χ^2 検定について、テキスト7章を精読し理解する（100分） 復習：2要因分散分析の活用場面について説明することができる（100分）
第22回	SPSSを使った統計分析（演習） ―平均値の差の検定の実践― 予習：t検定と分散分析、 χ^2 検定の違いについて説明できるようにする（100分） 復習：SPSSを使用したt検定、 χ^2 検定、分散分析結果を図表を使って論述する（100分）
第23回	卒業研究計画の作成 予習：研究テーマ、研究仮説・統計分析方法を考える（100分） 復習：卒業研究計画発表の為のスライドを作成する（100分）
第24回	卒業研究計画発表およびディスカッション① 予習：研究計画を発展させ、卒業研究計画発表において、スライドと説明内容を考える（100分） 復習：発表時のディスカッションで指摘された点に基づき、内容をブラッシュアップさせる（100分）
第25回	卒業研究計画発表およびディスカッション② 予習：卒業研究計画発表において、スライドと説明内容を考える（100分） 復習：発表時のディスカッションで指摘された点に基づき、内容をブラッシュアップさせる（100分）
第26回	卒業研究の手順① ―調査系論文の進め方― 予習：研究倫理についての資料に目を通す（100分） 復習：倫理審査票と調査票表紙を作成する（100分）

第27回	卒業研究の手順②ーシステムティック・レビューの進め方とPRISMAー 予習：システムティック・レビューとは何か、調べておく（100分） 復習：システムティック・レビューの定義と意義について概説し、包括／除外規定を示すフローチャートを作成する（100分）
第28回	卒業研究発表会から学ぶー4年ゼミ発表会への参画及び評価ー ※3・4限通しで発表会を実施します。 予習：論文執筆に必要な要素について、授業内容を復習しておく（100分） 復習：現在の自身の研究計画の課題を明確にする（100分）

成績評価方法・基準	前期の事例検討（30％），研究計画（案）の発表（20％），後期卒業研究計画・プレゼンテーション（40％），年間を通じたディスカッションや演習授業への参画(10％）により総合的に評価する
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方【改訂版】	浦上昌則・脇田貴文	東京図書	978-4-489-02349-1	2020年刊行
参考書	テンプレートで学ぶはじめての心理学論文・レポート作成 長谷川桐・鵜沼秀幸 東京図書 ISBN：978-4-489-0229-1			
その他	質問・相談がある場合は、担当教員 horiuchi@edogawa-u.ac.jp まで、メールにて連絡をすること			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学 メンタルマネジメント相談室においてインターカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(3)／社会学部(4)／人間心理学科(3)／人間心理学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内 美穂子(D-0104)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	福祉心理学				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	心2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	福祉分野における心理的支援						
授業の概要	日本や海外の社会福祉の歴史，近年の社会福祉の概念・関連法や多職種協働による支援体制を学び，要支援者の尊厳を重視した支援について考察できることを目的とする。 原則全回対面授業とし，講義資料はGoogle Classroomを通じて配布する。 テストは第7回・第14回授業時に実施する。テストは、Google formsを使用して出題するため、必ずパソコンをフル充電の状態を持参すること。						
到達目標	1．社会福祉の定義や歴史，基本理念と法制度について基本的な内容を説明できる 2．社会福祉領域で活動するために必要な児童福祉・家庭福祉・高齢者福祉・障害者福祉等 それぞれの領域で生じる支援課題を説明できる 3．各領域の支援に関して，支援の根拠となる法律や支援機関と多職種の役割・活動内容を説明できる この科目は社会学部の（5）「現代の社会における諸課題の解決をはかりながら，持続可能な社会の構築に貢献できる」，（6）「優しさと温かみに満ち，総合的な判断能力を持つことが出来る」，人間心理学科(2)「個人の多様性を理解し、それを受け入れ可能な社会の構築・維持について考えることができる」，（3）「心理学的な視点を持って、社会集団や社会問題について多角的に考えることができる」のディプロマ・ポリシーに基づく。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方，到達目標や評価の方法，課題の提出方法について説明する 予習：シラバスを通読し，「福祉」はどのような目的で必要とされるのかについて各自の考えを明らかにし，ノートにまとめておく(100分) 復習：シラバスを基本として，自らがこの科目で学ぶ「目的」「内容」「到達目標」を説明できる(100分) 授業内課題：Google formsを使ったリアクションペーパーに、社会において福祉が必要な理由・自らが福祉を学ぶ目的・関心のあるテーマについて記載・提出する。
第2回	社会福祉の歴史と動向，基本理念 予習：日本国憲法第25条の内容について，ノートにまとめておく(100分) 復習：日本における社会福祉の発展の歴史と考え方、諸外国との違いについて説明できる(100分)
第3回	社会福祉の制度と法律 予習：日本の福祉3法・福祉6法の概要をノートにまとめておく(100分) 復習：社会福祉法・児童福祉法・障害者福祉法・高齢者関連の法律について概要を説明できる（100分）
第4回	福祉現場における心理社会的課題と支援 予習：「ノーマライゼーション」「ソーシャル・インクルージョン」「エコロジカルモデル」とは何か，調べてノートにまとめておく(100分) 復習：要支援者の尊厳の尊重に根ざした福祉的支援の考え方と福祉用語，地域の支援者について説明できる(100分)
第5回	児童福祉分野における活動と支援 予習：児童福祉分野における心理的支援の事例にどのようなものがあるか，想定した内容をノートにまとめておく(100分) 復習：児童福祉分野で支援対象となる事例やその支援機関について説明できる(100分)
第6回	特別授業：犯罪被害者心理と支援について 千葉県警察本部 犯罪被害者支援室に勤務する心理職より，犯罪被害者支援の仕組み等や実際の支援について話を伺う 予習：犯罪被害者がどのような場面で発生しなぜ支援が必要となるのかについて考え，質問したいことを書き出しておく（100分） 復習：犯罪被害者がなぜ支援を必要とするのか，支援の窓口や支援方略を説明できる（100分）
第7回	家庭支援分野の活動と支援 及び ミニテスト（出題範囲：第1～7回授業） 予習：「相対的貧困率」「DV」とは何かについて調べ，ノートにまとめておく(100分) 復習：家庭支援分野で支援対象となる事例とその支援機関について説明できる(100分)
第8回	犯罪被害者・加害者支援 予習：犯罪加害者や犯罪被害者に関する支援が必要とされる理由を書きだしてみる（100分） 復習：犯罪加害や被害に関する支援の目的や支援組織について，概要を説明できる（100分）
第9回	障害者福祉分野の活動と支援 ―障害の受容から就労支援・福祉サービス利用まで― 予習：障害福祉制度における3障害の種別と，障害者総合支援法の内容について調べ，ノートにまとめておく(100分) 復習：障害者の生活支援と障害者就労に関する支援機関とその役割，心理学的支援方略について説明できる(100分)
第10回	高齢者福祉分野の活動と支援 ―高齢者の生活支援と認知症疾患の現状― 予習：日本における高齢化率の動向と認知症の種類について調べ，ノートにまとめておく(100分) 復習：高齢者福祉の今日的課題について説明できる(100分)

第11回	福祉における心理学的支援 予習：「認知行動療法」「社会技能訓練」「回想法」「セルフヘルプグループ」「遊戯療法」について調べノートにまとめておく(100分) 復習：福祉分野で実践されている心理学的支援とその効果について説明できる（100分）
第12回	虐待をめぐる支援　－被虐待児(者)の心理アセスメントと家族支援－ 予習：「児童虐待防止法」と「高齢者虐待防止法」「障害者虐待防止法」の正式名称とその対象、対象行為の違いについて調べ、ノートにまとめる（100分） 復習：被虐待児者の支援の活動実態と今日的な課題を説明できる（100分）
第13回	障害及び高齢者等の家族・介護者支援 予習：障害・高齢の家族や介護者はどのような時に支援を必要とするのか、自分の考えをノートに書きだしてみる(100分) 復習：障害・高齢者の家族・介護者支援が必要な理由について説明できる(100分)
第14回	総括・評価テスト 予習：全授業の総括を行い、自己学習により疑問を解消しておく（100分） 復習：テスト内容の不明点について追加学習を行いノートを整理する（100分）

成績評価方法・基準	各授業回において、えどへんの入力には必ず行うこと。各人の入力忘れによる修正には対応しない。 不定期に行われる出欠票又はリアクションペーパーによる出席確認の提出物がない場合は、欠席とみなす。 質問は、授業時もしくは、科目のクラスルーム　コメント欄に授業実施週の週末（日）17:00　までに入力すること。 ＜評価方法＞ 成績評価は原則、第7回授業時間内に実施するミニテスト（30%）、14回目　総括・評価テスト（70%）を合計して評価する。 出題範囲は第7回ミニテストが第1～第7回授業内容、第14回総括テストが第1～13回授業内容とする。 定期試験期間中のテストは行わない。
-----------	--

参考書	①公認心理師の基礎と実践　福祉心理学　中島　健一　編、遠見書房 ②福祉心理学　山中　克夫・四宮　美枝子・宮本　信也　編、医歯薬出版株式会社
その他	本科目は公認心理師受験資格取得者希望者の履修必須科目であるが、福祉領域の支援に興味のある学生であれば誰でも履修可能である。 授業は予習がなされたことを前提に全回対面により実施し、実務経験を活かし事例等も扱うため、オンライン配信は行わない。 学校感染症や忌引き等による公欠届は、書類が整ってから申し出ること（電子メールによる添付連絡可）。 原則、欠席連絡は不要だが、試験の授業回においては、授業開始前までにメールにて担当教員に連絡すること。 えどへんに加え、授業時に欠席票又はリアクションペーパーにより出席を確認する場合があります、えどへん入力のみで提出物がない場合は欠席とみなす。 質問は、Google Classroom内のコメント欄に記入すること。 その他連絡は、horiuchi@edogawa-u.au.jpにて対応する。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学　メンタルマネジメント相談室においてインターカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。 県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(5)／社会学部(6)／人間心理学科(2)／人間心理学科(3)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2025年度）

学科	氏名	科目名	履修年次	単位	専門科目	実務経験	授業内容との関係性
現代社会	崎本 武志	観光概論	1	2	合計 14 単位	株式会社JTBで勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		鉄道・交通論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		ヘリテージツーリズム論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		クリエイティブツーリズム論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	奥山 正樹	環境概論	1	2		環境省(庁)で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然環境事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、国土庁(当時)、JESCO、福島環境再生事務所など他分野の行政や特殊会社も経験。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		自然遺産論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		国立公園論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用

教員名	崎本 武志(T-0304)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	観光概論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	日本の観光に関する見方を根本から変えるきっかけとする。						
授業の概要	この講座では、世界および日本における観光について理解するとともに、観光政策や観光業界および各関連産業・資源・制度・組織について、幅広く学習します。 第1回から第3回までは日本の観光について概説します。観光を学ぶ意義や歴史的な変化、日本にとって観光がいかに重要であるかについて、さまざまな角度から触れていきます。第4回からは観光政策や産業のあり方、環境および文化と観光との関連や世界遺産など、具体的な事項を中心に取りあげていきます。これらの学びを通して、皆さんにとって身近なところから観光を意識し、観光を通して世界や日本の情勢についての知識や知見を習得することを目的とします。 なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meet を使用します。また、フィードバックレポートはGoogle Form を使用して提出していただきます。						
到達目標	世界の情勢や日本の構造変化とともに、観光のあり方や観光産業も変革を迫られています。外部からは見えにくい観光のあり方を知り、人類と観光と関係性や観光の持つ可能性を追求します。受講の結果、世界の観光や人的・物的交流に関する関心が高まり、大学を卒業されてからもビジネスやレジャーなどのさまざまな面で観光を生かし、豊かな社会の創造に携わられることを望みます。 本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（１）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（３）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（４）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（５）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス（イントロダクション）：観光とは何か？について考える 予習：「観光とは何か」について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：「観光とは遊びか？学びか？」について考え、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第2回	観光を学ぶ意義と、さまざまな観光用語 予習：「観光を学ぶ意義」について考え、観光用語をインターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：今まで体験した中で印象に残っている観光・旅行体験をまとめ、今回学んだ用語のどれに当たるのか？について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第3回	日本の観光をとりまく、さまざまな変化について 予習：現在の日本の観光をとりまく、さまざまな変化や問題点について調べてみましょう。【100分程度】 復習：外国人観光客がもたらす異文化について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第4回	観光を学ぶ方法と、観光に関わる資源について（世界遺産検定試験について） 予習：観光に関する検定試験や資格試験について調べ、他の検定試験や資格試験との違いについて考えてみましょう。【100分程度】 復習：観光に関する検定試験や資格試験の学習で何が得られるのかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第5回	文化遺産・自然遺産と観光との関係性について 予習：世界遺産について調べ、観光と世界遺産との関係について考えてみましょう。【100分程度】 復習：観光と世界遺産との関係について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第6回	日本の観光政策とクールジャパンについて 予習：クールジャパン政策について調べ、日本の観光政策について考えてみましょう。【100分程度】 復習：観光とクールジャパンについてどのように考えましたか。自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第7回	近隣・地元観光とインバウンドの重要性 予習：日本の観光における問題点について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：近隣・地元観光やインバウンドの重要性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第8回	観光情報提供の重要性と旅行業界の変化について 予習：日本の旅行業界のあり方や観光情報の提供方法について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の旅行業界を含めた観光業界全体について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第9回	温泉と観光の深い関係について 予習：日本の温泉について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の温泉および温泉に関する産業について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第10回	観光のまなざしについて 予習：観光とは何かについて、原点に返って考えてみましょう。【100分程度】 復習：近所に存在する観光および観光のまなざしについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

第11回	日本国民と観光について 予習：結局「日本国民にとって観光とは何か」について、時代背景を念頭に置いて考えてみましょう。【100分程度】 復習：日本国民はどのように観光と向き合うべきかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第12回	観光と祝祭日・記念日について 予習：観光と年中行事・祝祭日などとの関係性について調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光と年中行事がどの程度関係性があるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第13回	観光と年中行事ーコンテンツツーリズムについて 予習：コンテンツツーリズムや聖地巡礼について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本における年中行事や、コンテンツツーリズムと各産業との関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	観光と人財一本講義の総まとめ 予習：観光業界における人材や適性について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光業界で求められる人材像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日当日の23：59を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・講義に関する理解習熟度を測る毎回のフィードバックレポートの提出回数（50％） ・観光の現況を理解し、観光全般のあり方についての考察がなされているかを問う期末レポートの提出（50％） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点点評価します。
-----------	--

参考書	『新しい時代の観光学概論 持続可能な観光振興を目指して』 著者 島川崇 、出版社 ミネルヴァ書房 『現場に立つから、おもしろい——世界をつなぐ、ひと・モノ・しくみ』 著者 江戸川大学現代社会学科（監修）、土屋薫・阿南透・大塚良治・川瀬由高・佐藤秀樹（編）、出版社 春風社
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	鉄道・交通論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ポストコロナの鉄道・交通はどのように変わるのか？						
授業の概要	この講座は日本の鉄道・交通の体系について理解するとともに、各業界で日常活用されている基本ルールを中心に学習します。第1回から第3回までは日本の交通体系を支えている交通産業の概説を中心に進めます。第4回以降は各交通機関の現場で日常的に活用されている「運賃・料金計算の基本」「各約款」の内容を学びます。ここでは、各交通機関と利用者との契約関係を理解し、現場で必要とされる知識を習得することを目的とします。 この講義は、結果として毎年9月に行われる国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）の「国内旅行実務」科目の事前学習ともなるので、受験希望者には有効な事前学習の機会となります。この国家資格を取得すると、旅行業だけでなく地方自治体や最近旅行業に積極的に参入している交通業界への就職にも有利となります。 鉄道ファンの方はもちろん、鉄道や交通に興味・関心のない方でも楽しく、役に立つ内容を盛り込んでいます。事前知識は必要ありませんので、ぜひ積極的に受講してください。 なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meet を使用します。また、フィードバックレポートはGoogle Form を使用して提出していただきます。						
到達目標	日本の構造変化とともに鉄道・交通産業も変質を迫られています。外部からは見えにくい鉄道・交通産業の実情を知り、鉄道・交通産業の日本における役割を理解します。受講の結果、交通および観光産業に関する知識や関心を高めることを目的とします。さらに興味関心が高い方は、国内旅行業務取扱管理者資格の取得にもチャレンジされることを望みます。 本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（１）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（３）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（４）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（５）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス 講座の概要 交通業界に関する歴史および全体像について
第2回	日本の鉄道を学ぶ意義について 予習：日本の鉄道路線について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の鉄道を学ぶ意義について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第3回	身近な鉄道路線について追究する（ＪＲ常磐線・ＴＸ線を事例として） 予習：皆さんの身近な鉄道路線や最寄駅について、調べてみましょう。【100分程度】 復習：鉄道を学ぶことによって習得できる知見はどのような分野があるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第4回	ＪＲとは何か・ＪＲと私鉄・第三セクター鉄道について学ぶ 予習：ＪＲと私鉄の違い、および第三セクター鉄道とは何かについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：ＪＲと私鉄および第三セクター鉄道の違い、在来線と新幹線の違いについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第5回	路線名や駅名、列車種別について学ぶ 予習：日本の鉄道路線の名前や駅名に着目し、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の鉄道路線や種別が多岐にわたっている点について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第6回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR運賃制度の進化について学ぶ 予習：交通における「運賃」と「料金」の違いについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：幹線と地方交通線との違い、運賃と料金の制度のあり方について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第7回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR運賃・料金について 予習：ＪＲにおける運賃の制度について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：運賃の割引制度や区間がどのようにになっているかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第8回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR料金制度の進化について 予習：ＪＲの料金制度について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：乗車券類の有効期間や割引制度について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第9回	運賃・料金 実践編 予習：実際に鉄道を利用する立場に立って、旅行行程をたててみましょう。【100分程度】 復習：払戻制度や繁忙期・閑散期について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第10回	団体旅行・国際観光旅行に関する運賃と料金について 予習：団体割引運賃・料金と指定席・自由席・グリーン車について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：団体割引運賃・料金と指定席・自由席・グリーン車の料金設定について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

第11回	観光地と交通との関係について 予習：観光地に行くための交通手段について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光地と交通手段について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第12回	交通業界の現場について（鉄道・交通関連業界関係者による講演予定） 予習：鉄道など交通業界の現場を実際に見ながら、問題点について考えてみましょう。【100分程度】 復習：交通業界での現場を実際に学んでどのように考えたか、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第13回	交通の魅力発出のために必要なことについて学ぶ（鉄道・交通関連業界による講演予定） 予習：交通産業の持続可能性について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：持続可能な交通業界を実現するには何が必要か、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	鉄道・交通に関する課題と将来像ーまとめ 予習：鉄道・交通に関する課題について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：鉄道・交通に関する将来像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日当日の23：59を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・講義に関する理解習熟度を測る毎回のフィードバックレポートの提出回数（50％） ・観光の現況を理解し、観光全般のあり方についての考察がなされているかを問う期末レポートの提出（50％） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点点評価します。
-----------	--

参考書	「観光交通ビジネス」塩見英治編著 成山堂書店刊
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	ヘリテージツーリズム論/近代化遺産論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	日本の「遺産」と「観光」とのよりよい関係性を追究する。						
授業の概要	この講座では、世界および日本における文化遺産や自然遺産について理解するとともに、これらを活かした観光政策や観光業界および各関連産業・資源・制度・組織をいかにして発展させていくかについて、深く追究することを目的とします。 第1回から第3回までは世界および日本の文化遺産や自然遺産、そしてそれらを活かした観光についての政策や枠組みについて概説します。文化遺産や自然遺産と観光がいかに密接な関係性を有しているかについて、さまざまな角度から触れていきます。第4回からはこれらに関する具体的な事項を中心にあげていきます。これらの学びを通して、世界および日本における文化遺産や自然遺産から観光を意識していただき、世界や日本の情勢についての幅広い知識や知見を習得することを目的とします。 なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meet を使用します。また、フィードバックレポートはGoogle Form を使用して提出していただきます。						
到達目標	文化遺産や自然遺産は、日本や世界にとってかけがえのない宝です。そして、これらの維持を自律したかたちで図るためには、観光の力は極めて重要です。このメカニズムの学びを通して、日本や世界の遺産や観光のあり方についての理解を深め、大学を卒業されてからビジネスやレジャー、まちづくりなどのさまざまな面で持続可能な社会の創造に携わられることを望みます。 本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（１）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（３）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（４）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（５）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。 なお、本科目はNPO法人世界遺産アカデミーが主催する「世界遺産検定」に関する内容を多く盛り込んだかたちで進めてまいります。近年就職活動にも役立つ「世界遺産検定」の受検を奨励するとともに、受検を考えておられる方の受講を歓迎します。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス（イントロダクション）：ヘリテージツーリズムとは何か？について考える 予習：ヘリテージ（遺産）とツーリズム（観光）について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムの重要性について考え、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第2回	ヘリテージツーリズムを学ぶ意義 予習：いまなぜヘリテージツーリズムが重要なのかについて考え、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：今まで体験した中で印象に残っている観光・旅行体験をまとめ、今回学んだ用語のどれに当たるのか？について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第3回	ヘリテージツーリズムの世界的なしくみー世界遺産について 予習：世界遺産のあり方について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：世界遺産がもたらすヘリテージツーリズムについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第4回	ヘリテージツーリズムの学びと、世界遺産検定試験について 予習：ヘリテージツーリズムに関する検定試験について調べ、他の検定試験や資格試験との違いについて考えてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムに関する検定試験や資格試験の学習で何が得られるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第5回	ヘリテージツーリズムの日本的なしくみー日本の遺産と文化政策について 予習：日本の遺産と観光についてインターネットなどで調べ、考えてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムと日本の文化政策について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第6回	ヘリテージツーリズムの日本的なしくみー日本の遺産と自然保護について 予習：日本の遺産と自然保護について、インターネットなどで調べ、考えてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムと日本の自然保護政策について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第7回	日本のヘリテージツーリズムー日本の世界遺産について 予習：日本の世界遺産について、インターネットなどで調べ、考えてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムと日本の世界遺産について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第8回	ヘリテージツーリズムと観光情報提供について 予習：ヘリテージツーリズムと観光情報の提供方法について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムと観光情報の提供方法について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第9回	日本国民と観光ーヘリテージツーリズムのまなざしについて 予習：日本国民にとって観光とは何か、について、原点に返って考えてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムのまなざしについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第10回	観光資源とヘリテージツーリズムのまなざしについて 予習：観光資源とは何か、について、原点に返って考えてみましょう。【100分程度】

	復習：日本の特徴的な観光資源とヘリテージツーリズムのまなざしについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第11回	ヘリテージツーリズムと観光産業との関係性について 予習：日本の観光産業のヘリテージツーリズムへの貢献について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の観光産業とヘリテージツーリズムとの関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第12回	ヘリテージツーリズムと各地の世界遺産について 予習：日本各地、世界各国の世界遺産について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本各地、世界各国の世界遺産が、どこにどのようなものがあるかについて、具体的に調査してください【100分程度】
第13回	近隣・地元観光とヘリテージツーリズム 予習：近隣・地元の観光資源とヘリテージツーリズムについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：近隣・地元観光とヘリテージツーリズムの重要性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	ヘリテージツーリズムの将来一本講義の総まとめ 予習：ヘリテージツーリズムの未来について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：ヘリテージツーリズムの将来像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日当日の23:59を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・講義に関する理解習熟度を測る毎回のフィードバックレポートの提出回数（50%） ・観光の現況を理解し、観光全般のあり方についての考察がなされているかを問う期末レポートの提出（50%） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点評価します。
-----------	---

参考書	『きほんを学ぶ世界遺産100 <第3版> 世界遺産検定3級公式テキスト』 著者 世界遺産検定事務局（編）、出版社 マイナビ出版 『くわしく学ぶ世界遺産300 <第4版> 世界遺産検定2級公式テキスト』 著者 世界遺産検定事務局（編）、出版社 マイナビ出版
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本 武志(T-0304)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	クリエイティブツーリズム論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	日本における地域資源を観光資源に変えるには						
授業の概要	この講座では、地域資源や人的資源、自然・文化などのあらゆる事物を観光資源として価値の創造を行う、いわゆる「クリエイティブツーリズム」について取り扱います。ここでは、世界および日本における観光資源について理解するとともに、クリエイティブツーリズムに関係する事例について、幅広く学習します。 第1回から第3回までは日本の地域資源や人的資源、自然・文化がどのように観光資源に結び付くか、について概説します。日本の資源に観光の価値を付与し、地域の持続可能な発展を図る手法について、さまざまな角度から触れていきます。第4回からはクリエイティブツーリズムに関する政策や産業のあり方、環境および文化と観光との関連や世界遺産など、具体的な事項を中心に取りあげていきます。これらの学びを通して、皆さんにとって身近なところから観光に関する価値の創造について意識していただき、これらの知識や知見を習得することを目的とします。 なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meet を使用します。また、フィードバックレポートはGoogle Form を使用して提出していただきます。						
到達目標	激動の国際社会の中で、日本の魅力創出は必須です。クリエイティブツーリズム論では、日本のさまざまな魅力を掘り起こし、観光への価値創造を追求し、日本各地の持続可能性を図るための魅力ある地域づくりについて学んでいただきます。受講の結果、地域創造に関する関心を高め、ビジネスやレジャー、まちづくりなどのさまざまな面で観光資源を活用し、豊かな社会の創造に携わられることを望みます。 本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（１）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（３）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（４）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（５）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス（イントロダクション）：クリエイティブツーリズムとは何か？について考える 予習：「クリエイティブツーリズムとは何か」について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：「クリエイティブツーリズム」について考え、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第2回	クリエイティブツーリズムとさまざまなツーリズム 予習：「ツーリズム」について考え、ツーリズムに関する用語や種類について、文献やインターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：今まで体験した中で印象に残っている観光・旅行体験をまとめ、今回学んだ用語のどれに当たるのか？について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第3回	日本の地域資源と観光資源について 予習：日本の地域資源と観光資源にはどのようなものがあるか、調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の地域資源と観光資源の種類や特徴について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第4回	日本の地域産業と観光産業について 予習：日本の地域産業と観光産業にはどのようなものがあるか、調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の地域産業と観光産業の種類や特徴について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第5回	日本の文化遺産・自然遺産とクリエイティブツーリズムとの関係性について 予習：文化遺産とクリエイティブツーリズムについて調べ、これらの関係について考えてみましょう。【100分程度】 復習：文化遺産とクリエイティブツーリズムとの関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第6回	日本の文化とクリエイティブツーリズムとの関係性について 予習：自然遺産とクリエイティブツーリズムについて調べ、これらの関係について考えてみましょう。【100分程度】 復習：自然遺産とクリエイティブツーリズムとの関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第7回	インバウンドのあり方とクリエイティブツーリズム 予習：日本のインバウンドについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：インバウンドの重要性とクリエイティブツーリズムについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第8回	観光産業がもたらすクリエイティブツーリズム 予習：日本の公的観光事業や観光情報提供のあり方について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の公的観光事業や観光情報提供のあり方について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第9回	近隣・地元観光とクリエイティブツーリズムについて 予習：地元観光・マイクロツーリズムについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：地元観光やマイクロツーリズムとクリエイティブツーリズムについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

第10回	日本と海外の文化のちがいとクリエイティブツーリズム 予習：日本と海外の文化のちがいについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本と海外の文化のちがいについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第11回	地域活性化とクリエイティブツーリズム 予習：観光と地域活性化について、時代背景を念頭に置いて考えてみましょう。【100分程度】 復習：日本は今後どのように地域活性化を図っていくかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第12回	コンテンツツーリズムとクリエイティブツーリズム 予習：コンテンツツーリズムとは何か、についてインターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：コンテンツツーリズムとクリエイティブツーリズムとの関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第13回	クリエイティブツーリズムと人財について 予習：クリエイティブツーリズムをもたらす人材のあり方について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：クリエイティブツーリズムをもたらす人材像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	クリエイティブツーリズムからみた日本の未来一本講義の総まとめ 予習：クリエイティブツーリズムと日本の未来について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：クリエイティブツーリズムからみた日本の未来について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後に200字以上のフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日当日の23:59を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・講義に関する理解習熟度を測る毎回のフィードバックレポートの提出回数（50％） ・観光の現況を理解し、観光全般のあり方についての考察がなされているかを問う期末レポートの提出（50％） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点点評価します。
-----------	---

参考書	『新しい時代の観光学概論 持続可能な観光振興を目指して』著者 島川崇、出版社 ミネルヴァ書房 『現場に立つから、おもしろい——世界をつなぐ、ひと・モノ・しくみ』著者 江戸川大学現代社会学科（監修）、土屋薫・阿南透・大塚良治・川瀬由高・佐藤秀樹（編）、出版社 春風社
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	奥山正樹			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	環境概論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	環境問題の基礎を学ぶ						
授業の概要	現代社会の重要問題である環境問題について、過去及び現在の代表的な環境問題を対象に、それぞれの原因や対策について学び、持続可能な社会の構築に向け、環境問題解決のために必要なこととは何かを考える。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。 まず学期が始まる際にGoogleClassroom（学習マネジメントシステム）の環境概論のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりする。原則としては教室での対面授業であるが、感染症の流行等、場合によってはリアルタイムもしくはオンデマンドによるオンライン授業とする。						
到達目標	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその原因と対策を説明できる。 この科目は社会学部の「2 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5 現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、現代社会学科の「1 社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「5 持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	シラバスの説明、環境問題とは何か、講師紹介、環境問題の定義を理解し、本科目で対象とする範囲を確認する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	地球温暖化問題 地球温暖化のメカニズムや進行状況を理解し、対策の基本を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	地球温暖化対策 地球温暖化への対策の現状と困難さ、今後の取り組み方向について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	エネルギーと環境 エネルギー問題は地球温暖化問題と表裏一体。技術的な課題や新規技術などについて学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	生態系 地球温暖化と並び解決が困難な生物多様性劣化問題について、生態系の基礎を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	生物多様性 生物多様性劣化問題のうち絶滅防止、外来種問題について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	廃棄物問題 廃棄物問題と市場経済、規制、技術的進展について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	海洋プラスチックごみ問題 近年の話題であるプラスチックごみ問題について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第9回	水質汚濁問題 最も身近な環境問題である水質汚濁問題を有機汚濁と化学物質汚染の両面から理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分

第10回	大気汚染問題 健康被害に直結する大気汚染問題と現状の取り組み状況を理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第11回	化学物質問題 文明の発達に伴い発生する様々な化学物質と対策の取り組みを学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	放射能汚染問題 福島第一発電所事故によって生じた放射能汚染について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	都市と交通 都市化に伴い発生する様々な問題と環境をつなげて理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	講義まとめ これまでの講義をまとめ重要箇所の復習を行う 予習：全体講義の復習200分

成績評価方法・基準	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその現状、原因と対策を問う定期試験40%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）60%を合計して評価する。
-----------	--

参考書	『文系のための環境科学入門【新版】』 藤倉良・藤倉まなみ 有斐閣
その他	
参考URL	環境省 https://www.env.go.jp/index.html EICネット www.eic.or.jp

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然環境事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、国土庁（当時）、JESCO、福島環境再生事務所など他分野の行政や特殊会社も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(3)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	奥山正樹			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	自然遺産論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	「自然遺産」という自然環境を守り活かす考え方						
授業の概要	自然環境と社会とのかかわりを、自然遺産という切り口でとらえ、日本の自然環境の概況と自然環境を資源として活用してきた様々な方法について学ぶ。またその前提的な基礎知識として自然遺産の価値の理解に必要な、生態学、生物学に関する基礎的な知識を学ぶ。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。 まず学期が始まる際にGoogleClassroom（学習マネジメントシステム）の自然遺産論のクラスに学生が参加登録する。原則としては教室での対面授業であるが、感染症の流行等、場合によってはリアルタイムもしくはオンデマンドによるオンライン授業とする。						
到達目標	日本の自然環境の概況を理解し、代表的な自然環境である世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題について説明できる。 この科目は社会学部の「2 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5 現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、現代社会学科の「1 社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「4 資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」「5 持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針） 世界自然遺産とは何か、ごく簡単な説明 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	日本の世界自然遺産 日本の世界自然遺産5か所のそれぞれの自然環境の特徴とO U Vの理解 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	奄美・沖縄の遺産登録 日本で最近に登録された新しい世界自然遺産の概要を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	生物と環境 生態系の基本となる気象などの環境と生物の関係を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	生態系と生物多様性 生物と生態系、生物多様性について概要を学び、生態系の成り立ちや生物種の価値について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	日本の生物多様性 日本の生物多様性の現状を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	自然の価値評価 自然環境を価値づける方法について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	世界文化遺産・エコパーク・ジオパーク 自然遺産と文化遺産の違い、世界自然遺産に類似の制度としてのエコパーク、ジオパークについて学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第9回	絶滅危種の保護 絶滅の危険にさらされている生物の実態や全体の現状について学ぶ

	予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第10回	外来生物対策 生物多様性の問題の一つである外来生物問題について現状と対策を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第11回	保護地域 生物多様性の確保のための地域保全政策として、国立公園、自然環境保全地域等を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	自然資源としてのウナギ 生物多様性の恵みの一つである食について、ウナギを例にその現状と対策について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	鳥獣保護と管理 クマの出没を例に、鳥獣保護と管理の問題を考える。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	海外の自然遺産と全体ふりかえり 海外の世界自然遺産の登録状況を概観し、全体の復習と重要事項の確認を行う 予習：全体の講義内容の復習200分

成績評価方法・基準	日本の自然環境の概況、世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題に関する定期試験40%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）60%を合計して評価する。
-----------	---

参考書	
その他	
参考URL	『自然公園の手びき』 自然公園財団発行（オンライン） https://www.npfj.or.jp/publish/tebiki2022/

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然環境事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、国土庁（当時）、JESCO、福島環境再生事務所など他分野の行政や特殊会社も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	奥山正樹			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	国立公園論/国立公園及び世界遺産論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	自然保護の最重要ツール、「国立公園」を知る						
授業の概要	世界の国立公園の潮流、現況と保護地域の中の国立公園の価値評価、管理運営上の問題と解決へ向けて辿った経緯、現在の課題を学び、主に制度面の発達史を意識した学習を通して国立公園という存在を多角的に理解・把握する。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについて的小レポートを課す。 まず学期が始まる際にGoogleClassroom（学習マネジメントシステム）の国立公園論のクラスに学生が参加登録する。原則としては教室での対面授業であるが、感染症の流行等、場合によってはリアルタイムもしくはオンデマンドによるオンライン授業とする。						
到達目標	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題について説明することができる。 この科目は社会学部の「2 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5 現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」、現代社会学部の「1 社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「4 資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」「5 持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針）、国立公園の概要と歴史の基本事項を学び、本科目の対象範囲を確認する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	日本の国立公園 日本における35の国立公園の概要を紹介する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	日本の国立公園制度の成立過程と、地域制公園制度の特徴、管理上の課題について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	国土全体の土地利用計画と自然保全地域、国立公園との関係について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	日本の国立公園の指定と対象地域、指定基準の変遷について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	公園計画（保護計画および利用計画）の内容、意義、実際の運用について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	施設整備計画や実際の整備の進め方、様々な施設について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	廃屋化が進む日本の国立公園の利用拠点と集団施設地区の再整備について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第9回	地域制国立公園の基本的な制度である許認可調整について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第10回	エコツーリズムの推進制度とその課題、国立公園との関係について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分

第11回	日本の観光振興、インバウンド政策と国立公園満喫プロジェクトについて学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	近年の国立公園制度の推移と、各地域での様々な新しい取り組みについて学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	国立公園の管理制度と現地での管理を担っているレンジャーの仕事について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	ここまでの講義内容の全体を復習し、重要事項を確認する 予習：全体講義の復習200分

成績評価方法・基準	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題についての定期試験40％、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）60％を合計して評価する。
-----------	--

参考書	『国立公園論』 国立公園研究会・自然公園財団 南方新社
その他	
参考URL	『自然公園の手びき』 自然公園財団 https://www.npfj.or.jp/publish/tebiki/

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然環境事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、国土庁（当時）、JESCO、福島環境再生事務所など他分野の行政や特殊会社も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2025年度）

学科	氏名	科目名	履修年次	単位	専門科目	実務経験	授業内容との関係性
経営 社会	小田原 由佳	ビジネス会計基礎	1	2	合計 14 単位	公認会計士。大手監査法人で大会社の会社法監査および上場企業等の財務諸表監査や内部統制監査のほか、新規上場支援業務や会計コンサルティング業務に従事していた。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		原価計算I	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	南馬越 一義	ファッションビジネス入門	1	2		株) ビームスで店長やバイヤー、クリエイティブディレクターなど歴任。 2010年「ビームス創造研究所」所長 となり「ファッションを軸にモノをつくり、コトを起こす」新事業を開始。20年よりビームス ディレクターズ ルームクリエイティブディレクター。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		ファッションマーケティング論	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		ファッションビジネス特論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	山田 洋介	起業概論	1	2		大日本印刷にてデジタル放送事業やインターネットコンテンツ事業など新規事業開発の担当を歴任。また社内スタートアップとしてスポーツメディア事業を立ち上げるなど社内アントレプレナーとしても企業経営を実践し、マーケティングを活用したメディア・コンテンツ関連の事業開発・起業を経験。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		マーケティング特論	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用

教員名	小田原 由佳(T-0701)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	ビジネス会計基礎／ビジネス会計I				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	貸借対照表と損益計算書の基礎的知識の修得						
授業の概要	本科目では、企業の作成する財務諸表の構造を理解し、財務諸表を利用して企業の財務状況を多面的に考察するための基礎的な知識の修得を目指します。財務諸表とは、企業の経営活動の結果を公表するために作成される計算書です。主要な財務諸表のしくみと財務諸表分析の基本的な計算方法を説明し、企業評価の基礎知識を身に付けます。そのために、ビジネス会計基礎では、財務諸表の役割を理解し、主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書のしくみと基本概念の理解を深めることで財務諸表分析の基礎となる知識の修得を目指します。 注) オンライン授業を実施する場合には、GoogleMeetを利用したライブ形式で行う。講義資料等の配付はエドクラテスを基本とし、一部GoogleClassroomを利用する。						
到達目標	本科目は、財務諸表の役割を理解し、主要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の基本的なしくみと基本概念に関する知識の修得を目指します。 本科目は、社会学部および経営社会学科の次にあげるディプロマ・ポリシーに関連しています。 【社会学部ディプロマ・ポリシー】 (2)教養としての基礎知識及び先行する学問分野における基礎的・専門的知識を身につける。 【経営社会学科ディプロマ・ポリシー】 (2)企業経営や組織運営に関する理論と実践の基本的知識を修得し、現実の課題に応用する素養を身につけている。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	財務諸表とは 【予習】 テキスト第1章を読んで不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】 テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第2回	貸借対照表（1） 貸借対照表のしくみ 【予習】 テキスト第2章第1節を読んで不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】 テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第3回	貸借対照表（2） 資産の概念と流動資産 【予習】 テキスト第2章第2節1～3を読んで不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】 テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第4回	貸借対照表（3） 固定資産と繰延資産 【予習】 テキスト第2章第2節4～5を読んで不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】 テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第5回	貸借対照表（4） 負債とは 【予習】 テキスト第2章第3節を読んで不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】 テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第6回	貸借対照表（5） 純資産とは 【予習】 テキスト第2章第4節を読んで不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】 テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第7回	貸借対照表（6） 貸借対照表の作成 【予習】 テキスト第2章を読み、貸借対照表の勘定科目の表示区分について理解を深めておく（100分） 【復習】 配付された演習問題を繰り返し解き、貸借対照表の構造の理解を深める（100分）
第8回	【小テスト】 財務諸表の役割および貸借対照表のしくみと基本概念の理解度の確認のための小テストを実施 【予習】 テキスト第1章～第2章、第1回～第7回までの授業のノートおよび授業で配付したプリントの演習問題の復習を行う（150分） 【復習】 小テストの解き直しを行い、財務諸表の基本概念および貸借対照表の基本構造の理解を深める（50分）
第9回	損益計算書（1） 損益計算書のしくみ

	【予習】テキスト第3章第1節を読み、不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第10回	損益計算書（2） 損益計算のルールと売上総利益 【予習】テキスト第3章第2節～第3節を読み、不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第11回	損益計算書（3） 営業利益と経常利益 【予習】テキスト第3章第4節～第5節を読み、不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第12回	損益計算書（4） 税引前当期純利益と当期純利益 【予習】テキスト第3章第6節～第7節を読み、不明な語句や疑問点について調べ、テキストの例題を解く（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付された演習問題を解いて理解を深める（100分）
第13回	損益計算書（5） 損益計算書の作成 【予習】テキスト第3章を読み、損益計算書の勘定科目の表示区分について理解を深めておく（100分） 【復習】配付された演習問題を繰り返し解き、損益計算書の構造の理解を深める（100分）
第14回	ビジネス会計Ⅰの総まとめ【確認テスト】 ビジネス会計Ⅰで学んだ財務諸表の役割、貸借対照表と損益計算書のしくみと基本概念の理解度の確認するための確認テストを実施する 【予習】テキスト第1章～第3章までを読み返し、授業で配付された演習問題の解き直しおよび確認テスト対策問題を解く（150分） 【復習】確認テストの解き直しを行い、財務諸表の役割、貸借対照表、損益計算書の仕組みと基本概念に関する理解を深める（50分）

成績評価方法・基準	財務諸表の役割、貸借対照表のしくみと基本概念の理解を問う小テスト3分の1、財務諸表の役割、貸借対照表および損益計算書のしくみと基本概念の理解を問う確認テスト3分の2を合計して評価します。講義内で実施するテストは、テスト終了後に解答を配付し解説を行います。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス会計検定試験公式テキスト3級【第5版】	大阪商工会議所編	中央経済社		
参考書	ビジネス会計検定試験公式過去問題集3級（大阪商工会議所編／中央経済社）			
その他	・第1回目の授業からテキストを使用しますので、必ずテキストを購入して持参して下さい。 ・講義スケジュールは、必要に応じて変更する場合があります。受講前に必ずエドクラテスを確認してください。 ・講義には電卓を使用します。対面授業時のスマートフォン等の電卓機能の使用は認めていません。 ・講義内容は連続性がありますので、毎回の講義に出席することが大切です。 ・ビジネス会計応用（2年次配当科目）を併せて受けることにより、「ビジネス会計検定試験3級」を受験するための知識を修得することができます。 【連絡先】odawara@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	公認会計士。大手監査法人で上場企業等の会計監査をはじめ、株式公開支援業務や会計コンサルティング業務に従事していた。
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	小田原 由佳(T-0701)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	原価計算Ⅰ／原価計算（2級工業簿記）Ⅰ				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	日商簿記検定試験2級工業簿記の基礎知識の修得①						
授業の概要	本科目は、原価計算の基礎知識を修得し、応用できる能力を身につけることを目的としています。原価計算とは、企業が製造する製品のコスト（原価）を正確に把握するための重要な手法の一つです。そして、この原価計算の計算結果の基づいて企業の製造活動を記録・計算の対象とする簿記が工業簿記です。原価計算Ⅰでは、原価計算の定義および原価の概念について学び、原価計算の第1段階である費目別計算および第2段階の部門別計算の計算手法について演習問題を中心に理解を深めます。 注）オンライン授業を実施する場合には、GoogleMeetを利用したライブ形式で実施する。講義資料等の配付はエドクラテスを基本とし、一部GoogleClassroomを利用する。						
到達目標	本科目では、日商簿記検定試験2級工業簿記に挑戦するための原価計算の基礎的知識を身につけることを到達目標としています。具体的には、原価計算の前提となる原価の概念、費目別計算および部門別計算に関する基礎知識と計算手法を総合的に理解することを目指します。 本科目は、社会学部および経営社会学科の次にあげるディプロマ・ポリシーに関連しています。 【社会学部ディプロマ・ポリシー】 （2）教養としての基礎知識及び先行する学問分野における基礎的・専門的知識を身につける。 【経営社会学科ディプロマ・ポリシー】 （2）企業経営や組織運営の現場において、課題を自ら発見し、理論を応用して、創造的なアイデアを実践する専門的な能力を身につけている。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	原価計算とは 【予習】テキスト第1章1節を読んで不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第2回	原価の分類 【予習】テキスト第1章2節～4節を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第3回	材料費の計算（1） 材料費の分類および材料購入原価の計算 【予習】テキスト第2章1節～2節を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第4回	材料費の計算（2） 材料消費額の計算 【予習】テキスト第2章3節を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第5回	労務費の計算（1） 支払賃金の分類と計算 【予習】テキスト第3章1節を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第6回	労務費の計算（2） 消費賃金の分類と計算 【予習】テキスト第3章2節を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第7回	経費の計算 【予習】テキスト第4章を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第8回	【中間テスト】 原価計算の定義、原価概念、材料費計算、労務費計算および経費計算の基本的知識の理解の確認するための中間テストを実施する。 【予習】テキスト第1章～第4章までの授業ノートおよび配付プリントの演習問題の復習を行い、中間テスト対策問題に取り組む（150分） 【復習】中間テスト問題を解き直しを行い、原価計算の定義、原価概念、材料費計算、労務費計算および経費計算の基本的知識の理解を深める（50分）
第9回	製造間接費の計算（1） 製造間接費の意義と実際配賦

	【予習】テキスト第5章 1～2節を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第10回	製造間接費の計算（2） 製造間接費の予定配賦 【予習】テキスト第5章 3節を読みんで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第11回	部門別の計算（1） 部門別計算の目的と原価部門の設定および部門費の第1次集計 【予習】テキスト第6章 1節および2節(1)を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第12回	部門別の計算（2） 部門費の第2次集計 【予習】テキスト第6章 2節(2)を読んで設例を解き、不明な語句や疑問点について調べてノートにまとめる（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に配付した演習問題を解いて理解を深める（100分）
第13回	原価計算Ⅰの総まとめ 原価計算の定義・原価概念・費目別計算・部門別計算の基礎知識と基本的な計算方法を確認するための総合問題に取り組む。 【予習】テキスト第1章～第4章の設例と前回の講義までに配付した演習問題の復習に取り組む。（100分） 【復習】テキスト・講義資料を参考に総合問題を解き直して理解を深める（100分）
第14回	【確認テスト】 原価計算Ⅰで学んだ原価概念、費目別計算および部門別計算の基礎知識と計算方法の総合的な知識を確認するための確認テストを実施する。 【予習】原価計算Ⅰで学習したテキストの設例および授業中に配付した演習問題・総合問題の解き直しを行う（150分） 【復習】確認テストを解き直しを行い、原価概念、費目別計算及び部門別計算の基礎知識と計算方法に関する理解を深める（50分）

成績評価方法・基準	原価計算の定義、原価概念、材料費計算、労務費計算および経費計算の基本的知識の理解を問う中間テスト（50％）、原価の概念、費目別計算および部門別計算の基礎知識と計算方法の総合的な理解を問う確認テスト（50％）を合計して評価します。講義内で実施するテストは、テスト終了後に解答を配付し解説を行います。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本原価計算【第5版】	建部宏明・山浦裕幸・長屋信義	同友館出版		
参考書				
その他	・第1回目の授業からテキストを使用しますので、必ずテキストを購入して持参して下さい。 ・原価計算Ⅱ（3年次科目）と併せて受講することにより、「日商簿記検定試験2級工業簿記」の知識を身につけることができます。 ・講義スケジュールは、必要に応じて変更する場合があります。 ・講義には電卓を使用しますので、毎回持参してください。スマートフォン等の電卓機能の使用は認めません。 ・講義内容は連続性がありますので、毎回の講義に出席することが大切です。 【連絡先】 odawara@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	公認会計士。大手監査法人で上場企業等の会計監査をはじめ、株式公開支援業務や会計コンサルティング業務に従事していた。
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	南馬越一義(T-0202)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	ファッションビジネス入門／ファッションB入門I				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ファッション業界のカテゴリーに触れる						
授業の概要	人々のベーシックな営みに加え流行やおしゃれといった感覚的で、不透明な世界をビジネスの最前線に取り入れて成功して来たのがファッション業界である。本講座はファッションに興味があるが詳しくは知らない、あるいはもっと知りたいと思っている学生たち向けのファッション業界入門編として位置づける。具体的にはメンズ、レディース、ビューティ、ブライダル、スポーツなどファッション業界を構成する様々なカテゴリーの存在について理解し、多面的に考察説明できることを目的とする。 注1) この科目では、エドクラテスを活用して授業を実施する 注2) 新型コロナ感染対策の観点から、授業形態を対面とオンラインを組み合わせる。オンライン授業は、Google meetを使って行う。						
到達目標	ファッションにかかわる様々な業界にスポットを当て業界の仕組みやプレイヤー、企業活動の様子を知る。このことにより他の業界との違いを対比推測するといった基本動作を身につけ、第三者に対してファッション業界のポジショニングを説明できる程度の基礎知識の獲得を目的としている。この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファッションビジネスの現場で働く際に必要な基本的な知識とスキルの習得とを到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション/講義概要と進め方、ファッションとは？ 予習：ファッションの多様性について調べておく(120分) 復習：ファッション、モードの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第2回	ガールズファッションと市場 / ガールの歴史、ガールズコレクションという起爆剤 予習：Webで「ストリートスナップ」女子版を検索して閲覧しておく(120分) 復習：ガールズ市場の全体像について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第3回	メンズファッションと市場 / 平成男子の実態、男服の変化 予習：Webで「ストリートスナップ」男子版を検索して閲覧しておく(120分) 復習：平成男子の生態とファッション観について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第4回	化粧品業界について/ 最新コスメ、UVケア、美容関連 予習：百貨店の化粧品売り場に行きメーカーの特徴を調べておく(120分) 復習：化粧品業界の概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第5回	ブライダルビジネスの現状 / 結婚に対する意識、最新ウェディング事情 予習：最近の結婚事情についてWebで調べておく(120分) 復習：ブライダルビジネスの概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第6回	進化するスポーツウエア業界 / スポーツの広がり、スポーツウエアトレンド 予習：好きなスポーツウエアブランドを一つ選んで特徴を調べておく(120分) 復習：スポーツウエア業界とファッション業界の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第7回	キャラクタービジネスの概要 / キャラクターの分類、ハローキティの世界戦略 予習：好きなキャラクターを一つ選びホルダー企業について調べておく(120分) 復習：キャラクタービジネス業界の概要について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第8回	キャラクター調査演習 キャラクターの概要と開発経緯、ビジネス構造(キャラクターを1人1コ選び調査分析を行う) 予習：ピックアップしたキャラクターのライセンスホルダーを調べておく(120分) 復習：ピックアップしたキャラクターのビジネス構造について説明できる(80分)
第9回	ファッションビジネスの構造/時代の変化とファッション、ファッション業界の仕事 予習：Web検索でファッション業界の仕組みについて調べておく(120分) 復習：ファッションビジネスの構造について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第10回	アパレルメーカーとSPAのビジネス / ビジネスモデル、ZARA,H&M,GUその他の実態 予習：Web検索でアパレルSPAについて調べておく(120分) 復習：アパレルメーカーとSPAの違いについて説明できる/配布した資料を再読(80分)

第11回	素材産業と商社の役割 / ハイテク素材の現状、繊維専門商社の実態 予習：素材産業の概要について調べておく(120分) 復習：素材産業と商社の役割 について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第12回	ファッション小売業の概要 / 百貨店のビジネス、ショッピングセンターの戦略 予習：ショッピングセンターに行ってファッション売り場の状況を調べておく(120分) 復習：ファッション小売業の現状について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第13回	急成長するECとセレクトショップ/ファッション系ネット通販、BEAMS,ユナイテッドアローズ,アーバンリサーチなど 予習：好きなファッションECサイトのサイトマップを調べておく(120分) 復習：ECとセレクトショップのビジネスについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	ファッション業界の未来について/まとめと振り返り 予習：ファッションとAI活用についてネットで調べておく(120分) 復習：ファッション業界の未来について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファッションビジネスの現場で働く際に必要な基本的な知識とスキルの習得という科目到達目標に対して、平常点（授業中(オンライン含む)の発言、小課題の提出、予習復習などの努力等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。 演習課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。
-----------	---

参考書	「よくわかるアパレル業界」 織研新聞編集局著 日本実業出版社
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、南馬越 kminamim@edogawa-u.ac.jp 連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株) ビームスで店長やバイヤー、クリエイティブディレクターなど歴任。2010年「ビームス創造研究所」所長 となり「ファッションを軸にモノをつくり、コトを起こす」新事業を開始。20年よりビームス ディレクターズ ルームクリエイティブディレクター。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	南馬越一義(T-0202)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	ファッションマーケティング論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ファッション企業におけるマーケティング戦略						
授業の概要	グローバル競争化時代を迎え日本のファッション企業は自らのブランド商品力に磨きをかけ世界に市場を見出しはじめている。ファッションマーケティング論では消費者の満足を得る商品を作る売るために市場分析、商品政策、店舗政策、コミュニケーション施策はどうあるべきかなどファッション企業のマーケティング戦略について理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。 注1) この科目では、エドクラテスを活用して授業を実施する 注2) 新型コロナ感染対策の観点から、授業形態を対面とオンラインを組み合わせる。オンライン授業は、Google meetを使って行う。						
到達目標	ファッション分野で著しく成長をとげる企業の経営及びマーケティング戦略について学び様々な事例の中から企業活動の本質を見抜く力を養う。あわせて業界各論に対して議論できる応用的な知識の獲得を目的としている。この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファッションビジネスの現場で働く際に必要なマーケティング知識と応用スキルの習得を到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ファッションマーケティングとは/ファッションビジネス環境の変化 予習：一般的なマーケティングについて調べておく(120分) 復習：ファッションマーケティングの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第2回	ファッションマーケティングの構造／消費者動向、自社、競合他社動向含む3C分析、PEST分析その他 予習：Web検索でマーケティングにおける環境分析について調べておく(120分) 復習：環境分析の手法について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第3回	ブランドビジネスの創造/ブランドとブランディング戦略 予習：好きなブランドを一つピックアップし、その戦略について調べておく(120分) 復習：ブランドとブランディングの違いについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第4回	STP分析/市場細分化（消費者分類、感性、着用機会etc.）とターゲットポジショニング 予習：若者が好きなファッションを分類しておく(120分) 復習：市場細分化の手法について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第5回	流行のサイクルとアパレル企業の流行予測システム 予習：最近、流行っているモノ・コトについて調べておく(120分) 復習：アパレル業界における流行の作り方について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第6回	4P/アパレル企業のマーチャンダイジング戦略/ 商品構成、価格と原価 予習：アパレルの製造過程について調べておく(120分) 復習：アパレル商品の小売価格と原価の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第7回	4P/アパレル企業のチャネル戦略/ 店舗、流通 予習：アパレル実店舗とECショップについて調べておく(120分) 復習：アパレル実店舗とECの関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第8回	4P/アパレル企業のコミュニケーション戦略 予習：アパレル企業・ブランドの広告表現について調べておく(120分) 復習：ファッション広告の変遷と最新事情について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第9回	ブランド開発演習-1 / 仮想的なブランドを作る① ガイダンス、環境分析（消費者動向など）と仮説設定 予習：コラボができそうなブランドを幾つか探しておく(120分) 復習：仮説部分について再度検討を加える(80分)
第10回	ブランド開発演習-2 / 仮想的なブランドを作る② コンセプト、STPと4Pの具体化 予習：企画したブランドの4Pについて書く内容を決めておく(120分) 復習：企画したブランドの4Pについて再度検討を加える(80分)
第11回	ファッション小売業のマーケティング/店舗運営、 店舗開発 予習：アパレルショップを訪問し、売り場作りについて調べておく(1020分)

	復習：アパレル小売にとって重要なポイントとは？を説明できる/配布した資料を再読(80分)
第12回	ファッション小売（店舗）のマーチャンダイジング/品揃えとVMD仕入れ、販売業務と店舗の販促 予習：アパレルショップを訪問し、VMDについて調べておく(120分) 復習：バイイングとVMDのあり方について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第13回	ECサイトのマーケティング / デジタルマーケティングの実情 予習：アパレルブランドのWEB広告とプロモーションについて調べておく(120分) 復習：WEBプロモーションの重要性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	最新マーケティング事情 / 業界の未来予測と考察 予習：最近のAI活用事例について調べておく(120分) 復習：アパレル業界のAI活用と課題について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン(オンデマンド含む)授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファッションビジネスの現場で働く際に必要なマーケティング知識と応用スキルの習得という科目到達目標に対して、平常点（小課題の提出、積極的に取り組む姿勢、復習などの努力等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。ブランド開発演習課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。
-----------	--

参考書	「マーケティング戦略」和田充夫他著　有斐閣アルマ(出版社) その他
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、南馬越 kminamim@edogawa-u.ac.jp 連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株）ビームスで店長やバイヤー、クリエイティブディレクターなど歴任。2010年「ビームス創造研究所」所長 となり「ファッションを軸にモノをつくり、コトを起こす」新事業を開始。20年よりビームス ディレクターズ ルームクリエイティブディレクター。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	南馬越一義(T-0202)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	ファッションビジネス特論／ファッションEC論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	「クリエイティブディレクター論」 様々な業界でイノベーションを起こすクリエイティブディレクター達の方法論を実例から学ぶ						
授業の概要	今やファッションは衣服の流行だけにとどまらず、センスとイノベーションによって、人々の生活スタイルに変化をもたらすものとなっており、様々なジャンルのコンテンツにファッション性の高さが求められている。そんな現在、ファッション性、デザイン性とオーガナイズ力を持つクリエイティブディレクターの存在が重要な意義を持ち、各界で活躍しています。 本講義は各界で活躍するクリエイティブディレクターの仕事を検証し、その方法論を考察、説明できることを目的とする。 注1) この科目では、エドクラテスを活用して授業を実施する						
到達目標	クリエイティブディレクターの仕事を事例ごとに検証考察し、彼らの方法論を探る。 このことにより、各ディレクターの発想法、企画の組み立て、実行能力、コミュニケーション能力等を学び、自身で与えられた条件下での模擬的な事業、プロジェクト企画を立てることができるスキルの獲得を目標としている。 この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「企業経営や組織運営の現場において、課題を自ら発見し、理論を応用して、創造的なアイデアを実践する専門的な能力を身につけている。」に関連し、ライフスタイルに関連する様々な産業でファッション性が重要視される昨今、ビジネス最前線で、ファッションセンスとクリエイティブを武器に活躍できる人材の育成を到着目標にする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション/講義概要と進め方、クリエイティブディレクターとは？ 予習：ネットでクリエイティブディレクターについて調べてみる(60分) 復習：クリエイティブディレクターの概念が説明できる(60分)
第2回	クリエイティブディレクター南馬越一義の仕事① ビームスと地方創生 ローカルのモノづくりをディレクションで活性化 予習：地方創生、地域活性化について調べる(80分) 復習：ビームスが取り組む地方活性化について説明できる(60分)
第3回	クリエイティブディレクター南馬越一義の仕事② MAGO式地方創生 ローカルのモノづくりをディレクションで活性化 くまモンとけん玉 予習：ゆるキャラについて調べる(80分) 復習：MAGO(南馬越)が行ったくまモンとけん玉を使った地域活性施策について説明できる(60分)
第4回	クリエイティブディレクター南馬越一義の仕事③ MAGO式地方創生 ローカルのモノづくりをディレクションで活性化 有田焼400周年コラボ施策と佐賀県庁との佐賀PR施策 予習：有田焼の歴史と現状について調べる(80分) 復習：MAGO(南馬越)が行った有田焼400周年コラボ施策と佐賀県庁とのPR施策について説明できる(60分)
第5回	クリエイティブディレクター南馬越一義の仕事④ MGO式地方創生 ローカルのモノづくりをディレクションで活性化 小売店どうしのコラボ BEAMS JAPAN×三越伊勢丹 地方活性化プロジェクト “新しい物産展STAND 47”の取り組み 予習：百貨店が行っている物産展について調べる(80分) 復習：MAGO(南馬越)が三越伊勢丹と組んで行った“新しい物産展”について説明できる(60分)
第6回	クリエイティブディレクター南馬越一義の仕事⑤ MAGO式地方創生 ローカルのモノづくりをディレクションで活性化 スターバックスリザーブrostアリーとのコラボ。異業種（人気飲食店）とのグッズ制作の成功事例 予習：飲食店や食品ブランドのアパレルとのコラボやグッズ制作について調べる(80分) 復習：MAGO(南馬越)がスターバックスと組んで行ったグッズ制作について説明できる(60分)
第7回	クリエイティブディレクター南馬越一義の仕事⑥ MAGO式地方創生 ローカルのモノづくりをディレクションで活性化 スパメッツァおおたかをプロデュース。異業種（スーパー銭湯）にファッション性をプラス。ブランディングの成功事例 予習：温浴業界（銭湯、スーパー銭湯、健康ランド）の現状について調べる(80分) 復習：MAGO(南馬越)のスパメッツァおおたかを如何に人気ブランドにしたか説明できる(60分)
第8回	クリエイティブディレクター佐藤可士和の仕事 ロゴとグラフィックによって様々な企業をブランディングする佐藤可士和の妻さを検証する。

	予習：佐藤可士和の関わった、企業の広告、ロゴタイプを調べる(80分) 復習：佐藤可士和のロゴデザイン、ブランディングの方法論が説明できる(60分)
第9回	クリエイティブディレクター ヴァージル・アブローの仕事 レディメイドと3%アプローチ。デュシャン的なアイロニーから発想し、既製のものをほんのちょっとエディットして、全く新しい価値観を生み出したヴァージルの錬金術について。 予習：Webでファッション業界において活躍するクリエイティブディレクターについて調べる。(80分) 復習：ヴァージル・アブローが3%アプローチでクリエイティブした事例の説明ができる。(60分)
第10回	クリエイティブディレクター小西利行の仕事 言葉でブランディング。キャッチコピーでイノベーションを起こす小西利行の仕事術 予習：Webでコピーライターについて調べる(80分) 復習：コピーで様々な企業をブランディングする小西利行の仕事術について説明できる(60分)
第11回	クリエイティブディレクター松本恵奈の仕事 ギャル系からミニマルへ。自身のブランディングを変化させキャリアアップした松本恵奈の戦略とは。 予習：Webでギャルカルチャーについて調べる(80分) 復習：年齢ともに自身のブランディングを変化させキャリアアップした松本恵奈の変遷について説明できる。(60分)
第12回	クリエイティブディレクター ラフ・シモンズの仕事 ユースカルチャーとアートで、メンズファッションに影響を与え続けるラフ・シモンズの服作りとは。 予習：ドキュメンタリー映画『ディオールと私』について調べる(80分) 復習：ラフ・シモンズのクリエイションの源、アイデアソースと、服作りの方法を説明できる。(60分)
第13回	クリエイティブディレクター 藤原ヒロシの仕事 ストリートのキングと呼ばれ、そのストリートから世界のモードにも影響を与え続ける彼の仕事を検証し、方法論を考察する。 予習：裏原宿を調べる(80分) 復習：裏原から世界へ、藤原ヒロシのサクセスストーリーと、彼のコラボ術について説明できる。(60分)
第14回	クリエイティブディレクター総論 クリエイティブディレクター論の振り返り。プロダクト、サービスにとってのファッション性とクリエイティブディレクションの重要性を知る。 予習：webで各回に登場したクリエイティブディレクターの仕事を調べる(80分) 復習：各クリエイティブディレクターの方法論、クリエイティブディレクションの重要性を説明できる。(60分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、各ディレクターの発送法、企画の組み立て、実行能力、コミュニケーション能力等を学び、自身で与えられた条件下での模擬的な事業、プロジェクト企画を立てることができるスキルの獲得を科目到達目標に対して、平常点（授業中(オンライン含む)の発言、小課題の提出、予習復習などの努力等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。 演習課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。
-----------	--

参考書	「すべての仕事はクリエイティブディレクションである」 古川裕也著 株式会社宣伝会議 「佐藤可士和のクリエイティブシンキング」 佐藤可士和著 日本経済新聞出版社 「複雑なタイトルをここに」 ヴァージル・アブロー著 アダチプレス 「丘の上のパンク」 川勝正幸著 小学館
その他	・4年生で受講を希望される皆さん、本講義は「ファッションEC論」の枠で行われます。 ・授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、kmimamim@edogawa-u.ac.jp 南馬越メールアドレスに連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	（株）ビームスで店長やバイヤー、クリエイティブディレクターなど歴任。2010年「ビームス創造研究所」所長となり「ファッションを軸にモノをつくり、コトを起こす」新事業を開始。20年よりビームス ディレクターズ ルームクリエイティブディレクター。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	山田洋介			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	起業概論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	新たなビジネスで社会を変える起業・事業開発の基礎の学習						
授業の概要	この授業では、起業として事業を構築する概要や意義の習得と演習による事業プロセスの習得を目的とする。 起業の概要では、楽天やソフトバンクグループなど学生に身近な企業の起業の歴史や沿革を学ぶことで、起業家が如何に社会に必要なイノベーションを起こしてきたかを理解する。また、社内起業やそれに準ずる企業の新規事業開発の概要や重要性をリクルートや大日本印刷などじ例を交えながら理解する。 この授業ではビジネスモデルの基礎的な知識やその基本理論面の習得はもちろん、協力企業からゲスト講師に参加してもらい、実際の起業家・新規事業開発担当者の実践方法を直接学ぶ。						
到達目標	・事業とは何かを理解する ・事業構築の一つとしての起業のアプローチを理解する ・起業の重要性と魅力を理解する (1) 知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。 (2) 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。 と関連し 経営社会学科のディプロマポリシー (1) 企業経営や組織運営に関する理論と実践の基本的知識を修得し、現実の課題に応用する素養を身につけている。 (2) 企業経営や組織運営の現場において、課題を自ら発見し、理論を応用して、創造的なアイデアを実践する専門的な能力を身につけている。 と関連が深い						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	事業とは何か、起業とは何か 事業として歴史があり継続して行われている企業とスタートアップ企業それぞれの企業を例に「事業を起こす」スタートアップの意味を説明する 予習：GoogleCrassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第2回	起業の社会的重要性-産業の中の起業 産業の中で新旧企業の入れ替わり、新陳代謝が如何に経済を活性化させ社会を豊かにするかを海外の事例も交えて紹介 予習：GoogleCrassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第3回	新旧起業の事例研究1 楽天やソフトバンクなど誰もが知るようになったスタートアップ企業の沿革から起業の概要をアップルやグーグルなど海外の例も交えて展開 予習：GoogleCrassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第4回	新旧起業の事例研究2 ソニー、ホンダ、京セラなど誰もが知る企業も最初はスタートアップ企業であったことを理解するとともにスタートアップ企業と既存企業の違いを理解する 予習：GoogleCrassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第5回	新旧起業の事例研究3 メルカリ、ヤマップ、マザーハウス…現在進行系で事業構築をその事業構築ステージごとに紹介し、成長段階の理解をする 予習：GoogleCrassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第6回	起業家の生の声 現在進行系で起業に取り組んでいる起業家たちの奮闘の様子を本人たちから語ってもらうことで起業の現実を理解する 予習：GoogleCrassroomに up した資料を熟読し、起業家への質問を考える。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第7回	大手企業にとっての起業 新規事業開発-事業創造としての社内起業を詳しく説明 予習：GoogleCrassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)

第8回	起業を取り巻く機関、制度 ベンチャー投資家、ファンドなど資金面、公的サポートなど起業を巡る組織や制度の理解 予習：GoogleCassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第9回	起業のプロセスの理解 スタートアップ企業の事業開発のプロセスを分析することで起業のプロセスを理解する 予習：GoogleCassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第10回	スタートアップコンテストなど起業機会の理解 事業公募やスタートアップコンテストなど起業機会理解 予習：GoogleCassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第11回	事業構築の実践1 具体的な企業課題・社会課題を個人で選択し事業モデルの策定の検討 自らの興味関心や社会課題をもとに自らが行ってみたい事業を検討 予習：GoogleCassroomに up した資料を熟読し、事業計画書の素案を作成しておく。(100 分程度) 復習：授業内容の整理等を行うと共に、事業計画書の brush up を行う。(100 分程度)
第12回	事業構築の実践2 グループワーク 自らの考えた事業構想を発表し、共感する事業をグループで検討を行う 予習：GoogleCassroomに up した資料を熟読し、グループワークの準備を行う。(100 分程度) 復習：授業内容の整理等を行うと共に、事業計画書の brush up を行う。(100 分程度)
第13回	事業構築の実践3 顧客設定、提供価値設計など事業の計画をグループで行う 予習：GoogleCassroomに up した資料を熟読し、グループワークの準備を行う。(100 分程度) 復習：グループワークに基づき、事業計画書の brush up を行う。(100 分程度)
第14回	事業計画発表 各グループ間での評価と発表と講評 予習：事業計画発表準備を行う。(100 分程度) 復習：授業内容の整理等を行うと共に、事業計画書の最終確定を行う。(100 分程度)

成績評価方法・基準	評価方法：学則で定められた出席要件を満たした履修生を以下の評価基準で成績評価を行う。 ・ベンチャー企業の歴史、特徴について理解できているかどうか。事業の開発プロセスとポイントを、実例を用いながら説明する事ができるかどうか。以上、二つの到達目標について定期試験で評価を行う(評価配分60%)。 ・GWや発表など授業中の能動的な学習姿勢ならびに授業中の発言・質問内容等（オンライン式の場合、チャット記入も含む）から評価する(評価配分40%)。で評価
-----------	--

参考書	ベンチャー経営論（はじめての経営学） 長谷川 博和（著） 東洋経済新報社
その他	質問等の連絡は下記メールアドレスへ yamaday@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	大日本印刷にてデジタル放送事業やインターネットコンテンツ事業など新規事業開発の担当を歴任。 また社内スタートアップとしてスポーツメディア事業を立ち上げるなど社内アントレプレナーとしても企業経営を実践し、マーケティングを活用したメディア・コンテンツ関連の事業開発・起業を経験。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	山田洋介			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	マーケティング特論／M特講／サービスM論II				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	サービスの定義と基本的なマーケティング知識習得とCRM/ファンマーケティングの理解						
授業の概要	この授業では日本のGDPの7割、就業者数も7割を占めるサービス産業が占めている。また製品のマーケティングについても顧客との接点＝サービスの重要性が増しており、それらのサービスの基本理論を学ぶ サービス商品は、無形性や生産と消費の同時性など家電や自動車などの耐久消費財、食品や飲料、日用品などのモノ製品とは違う特徴をもっており、マーケティングの理論も大きく異なる。 また、サービスマーケティングでは顧客との関係維持と顧客の単価向上が重点施策になるためCRM,ファンマーケティングも合わせて理解をすすめる。 アプリやゲームといったスタートアップ企業が多く活躍する市場もサービス代表的なサービス産業である、サービス商品の特徴を理解し、サービス商品の開発し顧客価値の創造し提供するプロセスを体系的に学習することで、起業や既存企業での新規事業開発で活用できる能力を身につけることを目的とする。						
到達目標	・サービス商品とは何かを理解する ・サービス商品のマーケティングの構成とプロセス理解し、従来のモノのマーケティングとの違いを理解する ・サービス産業のマネジメントの仕組みを理解し、顧客との関係を中心にした収益化のポイントを学ぶ 本科目は社会学部のディプロマポリシー (1) 知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。 (2) 教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。 と関連し 経営社会学科のディプロマポリシー (1) 企業経営や組織運営に関する理論と実践の基本的知識を修得し、現実の課題に応用する素養を身につけている。 (2) 企業経営や組織運営の現場において、課題を自ら発見し、理論を応用して、創造的なアイデアを実践する専門的な能力を身につけている。 と関連が深い						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	・サービス産業とは何か サービス産業の分類、種類の理解と産業規模、特徴の理解 予習：Google Cassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第2回	・サービスとは何か？ サービス商品特徴などのサービスの概念・概要の理解 授業の後半で各自の予習に基づくGWによるディスカッションを行い発表を行う 予習：Google Cassroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第3回	・サービス商品の分類 各種サービスの分類を行い、それぞれのカテゴリーごとの特徴を理解する 授業の後半で各自の予習に基づくGWによるディスカッションを行い発表を行う 予習：Google Classroomに upした資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第4回	・モノとサービスの違い 形のある提供価値＝有体材と形のない提供価値＝無体財の特徴を理解しそれぞれのマネジメントを学習する。 授業の後半で各自の予習に基づくGWによるディスカッションを行い発表を行う 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第5回	サービスの品質 サービス商品にとっての品質の重要性、種類、測定・PDCAの設計の学習 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第6回	・サービス商品のプロモーション サービス商品の価値設定と認知促進方法の理解 サービス産業の現場でプロモーションを担当するゲスト講師を招き現場の取り組みを学ぶ また、サービス業におけるプロモーションの課題を提示し提案の実施を準備する（PBL） 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)

第7回	・サービスビジネスモデルの設計 1 誰に・何を・どのように一サービスビジネスのビジネスモデルを設計するプロセスをサービスマネジメントシステムとして学ぶ 授業の後半で各自の予習に基づくGWによるディスカッションを行い発表の準備を行う 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第8回	・サービスビジネスモデルの設計 2 誰に・何を・どのように一サービスビジネスのビジネスモデルを設計するプロセスをサービスマネジメントシステムとして学ぶ 授業の後半でGWで検討したサービスビジネスモデルの発表を行う 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第9回	・優れたサービスを生み出す仕組みと組織 高付加価値サービスを生み出すための人材戦略と機能的な組織のあり方を学ぶ 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第10回	・サービス産業の顧客戦略 利益の源泉としての顧客の設定と顧客管理の概要を理解する 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第11回	・顧客管理の戦略-CRM サービス商品は大量生産・大量消費型マーケティングではなく、一人ひとりの顧客を個別に関係を結ぶ長期的な顧客関係を維持することの重要性を理解する 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第12回	・サービスマーケティングとファンマーケティング サービスの顧客からファンへ育成することで顧客一人あたりの売上高をあげる活動ファンマーケティングを理解する。 授業の後半で各自の予習に基づくGWによるディスカッションを行い発表を行う 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第13回	・ディズニーランドのサービスマーケティング サービスマーケティングの代表事例としてディズニーランドを取り上げ、その戦略をこれまでの学習項目から分析する 授業の後半で各自の予習に基づくGWによるディスカッションを行い発表を行う 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)
第14回	・事業開発におけるサービスマーケティング概念の重要性 事業開発の計画・実行時に活用するサービスマーケティング理論の整理と活用プロセスの理解 予習：Google Classroomに up した資料を熟読し、授業での発言や質問の準備を行う。(100 分程度) 復習：授業中に指示した課題に取り組むと共に、授業内容の整理等を行う。(100 分程度)

成績評価方法・基準	評価方法：学則で定められた出席要件を満たした履修生を以下の評価基準で成績評価を行う。 ・サービスマーケティングと従来のモノのマーケティングとの違い、特徴について理解できているかどうか。サービスマーケティングの実施に置いて重要な顧客関係マネジメントを、実例を用いながら説明する事ができるかどうか。以上、二つの到達目標について定期試験で評価を行う(評価配分60%)。 ・サービス商品のマーケティング構成に関するGWや顧客関係管理計画の発表など授業中の能動的な学習姿勢ならびに授業中の発言・質問内容等（オンライン式の場合、チャット記入も含む）から評価する(評価配分40%)。で評価
-----------	--

参考書	サービス・マーケティング 【第2版】 近藤 隆雄 生産性出版
その他	質問等は下記メールアドレスへ yamaday@edogawa-u.ac.jp
参考URL	「授業では、GoogleClassroomを利用する。URL等については開講時に別途指示する」

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	大日本印刷にてデジタル放送事業やインターネットコンテンツ事業など新規事業開発の担当を歴任。 また社内スタートアップとしてスポーツメディア事業を立ち上げるなど社内アントレプレナーとしても企業経営を実践し、マーケティングを活用したメディア・コンテンツ関連の事業開発・起業を経験。

学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート / グループワーク / プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1) / 社会学部(2) / 経営社会学科(1) / 経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2025年度）

学科	氏名	科目名	履修年次	単位	専門科目	実務経験	授業内容との関係性
マス・コミュニケーション	神田 洋	スポーツジャーナリズム論I	2	2	合計 14 単位	共同通信社にて記者として勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		スポーツジャーナリズム論II	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	本多 悟	出版論I	2	2		総合出版社・光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。出版業界の最新動向も授業に反映させていく。	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		出版論II	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	井上 一郎	マーケティング論	1	2		総合広告会社第3位旭通信社(現ADKマーケティング・ソリューションズ)入社、出版社宣伝会議入社(月刊販促会議編集長)、ADK復社(第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長など)	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		メディア産業論I	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		広告論	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用

教員名	神田 洋(T-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	スポーツジャーナリズム論I				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	近代競技スポーツとジャーナリズム						
授業の概要	近代競技スポーツの誕生、伝播には報道が欠かせなかった。毎回テーマに関する課題記事を読んで予習し、スポーツとジャーナリズムのかかわりから、現代社会の普遍的な問題を探る。 スポーツの歴史を学ぶことでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点から現代スポーツを読み解く。日本と英国、米国の競技スポーツを主な題材とする。 課題提出はGoogle Classroomを使用						
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、漠然としたイメージを具体化できるよう論を組み立てる。地域や歴史の特性に注目しながら、気になるスポーツニュースの要点を掘り下げる力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」及びマス・コミュニケーション学科の「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション スポーツとは何か。報道の言説は何を「スポーツ」と呼んでいるか。スポーツを定義するときに考えるべき事柄を整理する。 予習：シラバスをよく読んで概要を理解しておく（100分） 復習：近代競技スポーツの定義を説明できるようにする（100分）
第2回	競技スポーツの誕生 フットボール黎明期を知ることで、近代競技スポーツ誕生につながったメディアの影響を学ぶ。 予習：フーリガンに関する課題記事を読み、モブフットボール、マスフットボールについて調べる（100分） 復習：サッカーの語源について説明できるようにする（100分）
第3回	社交と競争 近代競技スポーツの普及にはメディアが欠かせず、普及はスポーツが社交から競争へと向かう大きな流れでもあった。 予習：課題記事を読み、ネット球技で「サーブ」「サービス」というのはなぜか調べる（100分） 復習：欧州を起源とするスポーツの「アメリカナイズ」について説明できるようにする（100分）
第4回	“アメリカンスポーツ”の起源 ベースボールは本当に米国で生まれたのか。ベースボール誕生の歴史を紐解き、報道が果たした役割を学ぶ。 予習：課題記事を読み、18世紀の米国で広く読まれた「ポケットブック」について調べる（100分） 復習：ベースボール誕生とメディアのかかわりについて説明できるようにする（100分）
第5回	野球殿堂の嘘 野球殿堂はなぜ偽りの情報を基に建てられたか。野球が聖地を必要とした理由を、報道が果たした役割も踏まえて学ぶ。 予習：課題記事を読み、A.G.スボルディングについて調べる（100分） 復習：ブーアスティンが提唱した「疑似イベント」の概念を説明できるようにする（100分）
第6回	競技場が示すもの ルースが建てた家？ 野球場はなぜ広さが違っていいのか。スポーツジャーナリズムの寵児ルースがもたらしたものを検証する。 予習：課題記事を読み、ペープ・ルースの生涯について調べる（100分） 復習：野球規則のフィールド規定について説明できるようにする（100分）
第7回	スポーツルール考① 平等ってなんだ？ 英国と日本の「平等」意識の違いからスポーツジャーナリズムが求める物語を考察する。 予習：ボクシング軽量級の階級ごとの体重を調べる（100分） 復習：日英両国のスポーツにおける平等の考え方を説明できるようにする（100分）
第8回	スポーツルール考② スポーツをスポーツたらしめるルールとは。日常生活に解け込んだ非日常としてのスポーツとスポーツ報道を解釈する。 予習：競技スポーツを街中で行ったら違法となるプレーをリストアップする（100分） 復習：一般社会の法と競技ルールの違いを説明できるようにする（100分）
第9回	スポーツジャーナリズムの隆盛 1920年代の米国でスポーツジャーナリズムの発展につながった社会的背景を学ぶ 予習：ジャック・デンプシーについて調べる（100分） 復習：大量消費社会のメディアと偶像について説明できるようする（100分）

第10回	スポーツ、日本上陸 独自ルールを生まない国。文明開化によるスポーツ輸入がジャーナリズムに与えた影響を学ぶ。 予習：明治期の記事について問いに答えられるようにする（100分） 復習：ともに欧州から競技スポーツを輸入した日米の違いを説明できるようにする（100分）
第11回	日本のスポーツジャーナリズム黎明期 天狗倶楽部の面々。日本のスポーツジャーナリズム誕生の過程をたどる 予習：安部磯雄について調べる（100分） 復習：与えられた明治期の記事を読む（100分）
第12回	甲子園という文化 野球はなぜインターハイに参加しないか。異例尽くしの夏の祭典とスポーツジャーナリズムの結びつきの歴史を検討する。 予習：甲子園大会の始まりについて調べる（100分） 復習：甲子園大会と「野球害毒論」の関係について説明できるようにする（100分）
第13回	プロ野球から考えるスポーツジャーナリズム 長年日本のナンバーワン競技であったプロ野球と報道機関の関係、その功罪について歴史を中心に学ぶ。 予習：プロ野球の国際大会出場について調べる（100分） 復習：プロ野球の始まりとメディアの関係について説明できるようにする（100分）
第14回	マインド・スポーツ、健康スポーツ、アウトドア、アクションスポーツ スポーツニュースで扱われないスポーツの報道について考える。 予習：課題記事を読み、競技スポーツ以外の普及要因を考える（100分） 復習：授業の終わりに示した前期総括を説明できるようにする（100分）

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加42%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う授業内小テスト58%を合計して評価する。
-----------	--

参考書	中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』平凡社 内田隆三『ベースボールの夢』岩波新書 杉本厚夫『映画に学ぶスポーツ社会学』世界思想社 黒田勇編著『メディアスポーツへの招待』ミネルヴァ書房 坂上康博ら『スポーツの世界史』一色出版 J・コークリー、P・ドネリー『現代スポーツの社会学』南窓社 日本スポーツ社会学会『スポーツ社会学事典』丸善出版
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田 洋(T-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	スポーツジャーナリズム論II				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	現代スポーツの諸問題とスポーツジャーナリズム						
授業の概要	現代スポーツが抱える問題を主に報道から分析し、現代社会について考察する。 スポーツの歴史を検証することでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点からスポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツ報道を主な題材とする。 毎回の課題提出はGoogle Classroomを使用する。						
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、大きな定義を個別の事象の中に見いだせるよう論を組み立てる。各地域や歴史の特性を理解することで、現代日本のスポーツニュースを読み解く力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」及びマス・コミュニケーション学科の「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	プロスポーツの隆盛とアマチュアリズム衰退 忘れられた英雄ソープ。特権階級の権益のために使われたアマチュアリズムはどのように報じられてきたか。 予習：課題記事を読み、ジム・ソープについて調べる（100分） 復習：アマチュアリズムの歴史について説明できるようにする（100分）
第2回	「呪われた五輪」東京2020のレガシー① 散財の仕組み。かつて「公金ゼロ」の五輪があった。五輪とカネと報道機関。 予習：2020東京五輪の支出額について調べる（100分） 復習：五輪の商業化と公金投入について説明できるようにする（100分）
第3回	「呪われた五輪」東京2020のレガシー② 問題満載の五輪を維持するシステムとして報道機関が果たした役割を検証する。 予習：「想像の共同体」について調べる（100分） 復習：メディアイベントと「記憶」について説明できるようにする。
第4回	パラリンピックが変化を生む スポーツの新たな可能性。各大会の報道が伝えたもの。 予習：パラリンピック記録がオリンピックに迫る種目について調べる（100分） 復習：スポーツとハンディキャップの思想について説明できるようにする（100分）
第5回	スポーツとお金 大谷翔平はなぜ7億ドルを得るのか。集金システムとしてのメディアについて考察する。 予習：新人ドラフトを実施するスポーツリーグを調べる（100分） 復習：閉鎖型リーグと開放型リーグについて説明できるようにする（100分）
第6回	薬物問題から考える「逸脱」① 米国はなぜマグワイアを許したか。薬物問題報道からドーピングの定義を考察する。 予習：1998年のマグワイアについて調べる（100分） 復習：ドーピングの定義について説明できるようにする（100分）
第7回	薬物問題から考える「逸脱」② 米国はなぜマグワイアに怒ったか。薬物問題報道からスポーツにおける「逸脱」のメカニズムを考える。 予習：ホセ・カンセコについて調べる（100分） 復習：「過剰同調」と「過少同調」について説明できるようにする（100分）
第8回	スポーツは芸術か 大谷翔平と羽生結弦の「美しさ」は何が違うのか。スポーツジャーナリズムが言及する美について考える。 予習：スポーツ、文芸、美術を対象とした評論家の仕事の違いについて考える（100分） 復習：スポーツ芸術論争について説明できるようにする（100分）
第9回	スポーツとジェンダー 女性アスリートはどう描かれてきたか。ステレオタイプと解放、タイトルIX。スポーツ界の新たな問題、トランスジェンダー排斥についても報道を検討する。 予習：タイトルIXについて調べる（100分） 復習：女性の競技スポーツ参加の歴史について説明できるようにする（100分）

第10回	大学運動部は変わるか 日本の大学スポーツが目指す姿を検討する。報道が伝える不祥事と競技。 予習：Final Fourについて調べる（100分） 復習：大学スポーツのビジネス化の功罪について説明できるようにする（100分）
第11回	「みる」スポーツと「する」スポーツ 日本における「みる」スポーツの歴史を紐解き、ファンとジャーナリズムの関係を考える。 予習：インブリー事件について調べる（100分） 復習：応援団の役割について説明できるようにする（100分）
第12回	スポーツ報道の地理 民族名や地域名のスポーツ報道での使われ方を検証する。ワールドカップ報道を通じ、ステレオタイプが誰の視点なのかを考える。 予習：ラテン系という言葉の意味を調べる（100分） 復習：資料記事それぞれの問題点について説明できるようにする（100分）
第13回	発信するアスリート 大坂なおみの発言を通じ、アスリートの社会運動の歴史について学び、SNS時代の新たな形を考える。 予習：コリン・キャパニックについて調べる（100分） 復習：スポーツ選手の社会運動がどう報じられてきたか説明できるようにする（100分）
第14回	スポーツジャーナリズムを学ぶ理由 「なくてもいいもの」だから社会が見える 予習：13回の復習内容を読み返す（100分） 復習：スポーツジャーナリズムを学ぶ中で使った諸理論を説明できるようにする（100分）

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加42%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う小テスト58%を合計して評価する。 定期試験は実施しない。
-----------	--

参考書	中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』平凡社 J・コークリー、P・ドネリー『現代スポーツの社会学』南窓社 杉本厚夫『映画に学ぶスポーツ社会学』世界思想社 アンドリュー・ジンバリスト『オリンピック経済幻想論』ブックマン社 アンドリュー・ジンバリスト『60億円を投資できるMLBのからくり』ベースボールマガジン社 宮田由紀夫『暴走するアメリカ大学スポーツの経済学』東信堂 日本スポーツ社会学会編『スポーツ社会学事典』丸善出版
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	本多悟(D-0601)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	出版論I				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	出版の歴史、出版社の活動を学び、「出版コンテンツビジネス」の未来を探る						
授業の概要	出版とはなにかという本質的なところから始め、印刷以前、以降、そして現在のデジタル化時代まで、おもに日本の出版活動を世相に関連させながら学ぶ。 また出版社各社の歩みと現況を深く理解し、出版業界が今後進むべき道を考察する。 ※対面でもオンラインでも授業内容は同一。 この科目では、資料の配付等は原則としてGoogle Classroomを使用する。 オンライン授業実施時は、Google Meetを使用する。						
到達目標	出版形式と出版コンテンツの変容を社会背景を含めて理解できるようになる。 さらに、デジタル化、国際化している出版産業および出版社の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得する。 この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」（メディアコミュニケーション学部）と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス 出版とはなにか 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第2回	出版の歴史① 古代から近代、明治、大正へ 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第3回	出版の歴史② 昭和から平成、令和へ 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第4回	出版社研究① 講談社 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第5回	出版社研究② 小学館 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第6回	出版社研究③ 集英社 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第7回	出版社研究④ KADOKAWA 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第8回	出版社研究⑤ マガジンハウス 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第9回	出版社研究⑥ 今、注目すべき出版社 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)

第10回	出版流通の現在・過去・未来 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第11回	雑誌広告の現在、過去、未来 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第12回	出版社のIPビジネス、新規ビジネス 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第13回	出版物の著作権と海賊版対策 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第14回	2025年上半期の出版業界を振り返る 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)

成績評価方法・基準	期末レポートの評価50％、平常点（受講態度、授業への貢献度、提出課題など）50％を総合して評価する。 出版形式と出版コンテンツの変容を社会背景を含めて理解できているか、デジタル化・国際化している出版産業および出版社の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得できているかをおもな評価基準とする。 対面でもオンラインでも評価基準は同一。 秀　：　評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力とを身につけている。 優　：　評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力とを身につけている。 良　：　評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可　：　評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可：　学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。
-----------	--

参考書	三宅香帆著『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』集英社　2024年　1000円　ISBN-10:4087213129 菊地 健著『漫画ビジネス』クロスメディア・パブリッシング　2024年　1680円　ISBN-10:4295410152 小島俊一著『2028年 街から書店が消える日』プレジデント社　2024年　1700円　ISBN-10:4833425343 日本出版学会編『パブリッシング・スタディーズ』印刷学会出版部　2022年　2860円　ISBN-10:487085242X 川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本評論社　2012年　2970円　ISBN-10:4535586160 藤竹 暁、竹下俊郎編著『図説 日本のメディア [新版]—伝統メディアはネットはどう変わるか』NHK出版　2018年　1650円　ISBN-10:4140912537 能勢 仁・八木社一著『明治・大正・昭和の出版が歩んだ道』出版メディアパル　2022年　1980円　ISBN-10:4902251434 能勢 仁・八木社一著『昭和の出版が歩んだ道』出版メディアパル　2013年　1980円　ISBN-10:4902251264 植田康夫著『知の創生と編集者の冒険』出版メディアパル　2018年　1650円　ISBN-10:4902251345 難波功士著『創刊の社会史』筑摩書房　2009年　ISBN-10:4480064559 富川淳子著『ファッション誌をひもとく 改訂版』北樹出版　2017年　1836円　ISBN-10:4779305411 吉田則昭編『雑誌メディアの文化史 増補版』森話社　2017年　ISBN-10:486405116X 坂本佳鶴恵著『女性雑誌とファッションの歴史社会学—ビジュアル・ファッション誌の成立』新曜社　2019年　ISBN-10:4788516101 植田康夫著『雑誌は見ていた。』水曜社　2009年　2090円　ISBN-10:488065225 魚住 昭著『出版と権力 講談社と野間家の一一〇年』講談社　2021年　3850円　ISBN-10:4065129389 元木昌彦著『野垂れ死に ある講談社・雑誌編集者の回想』現代書館　2020年　1870円　ISBN-10:4768458785 滝田誠一郎著『ビッグコミック創刊物語』祥伝社　2012年　714円　ISBN-10:4396315813 伊藤彰彦著『最後の角川春樹』毎日新聞出版　2021年　2090円　ISBN-10:4620327107 赤木洋一著『「アンアン」1970』平凡社　2007年　740円　ISBN-10:4582853587 椎根 和著『popeye物語』新潮社　2008年　1575円　ISBN-10:4103066717 阪本 博著『『平凡』の時代』昭和堂　2008年　ISBN-10:481220822X 三島邦弘著『パルプ・ノンフィクション: 出版社つぶれるかもしれない日記』河出書房新社　2021年　1844円　ISBN-10:4309028683 西山雅子著『増補改訂版“ひとり出版社”という働きかた』河出書房新社　2021年　2002円　ISBN-10:4309300103 永江 朗著『小さな出版社のつづけ方』猿江商會　2021年　1870円　ISBN-10:4908260125 宣伝会議 書籍部編『雑誌広告2.0』宣伝会議　2019年　2420円　ISBN-10:4883354733 福井健策著『18歳の著作権入門』筑摩書房　2015年　902円　ISBN-10:4480689281 ほか、授業中にも紹介する。
その他	授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。 授業にゲストを招くことも想定しているため、スケジュール調整により、シラバスと授業内容がずれることがありうる。 本科目だけでも受講はできるが、「出版論Ⅰ」と「出版論Ⅱ」の両方で出版についての全体像がわかるようになっているので、「出版論Ⅱ」も受講することを推奨する。 教員への連絡先メールアドレスは、s-honda@edogawa-u.ac.jp。

参考URL	
-------	--

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	総合出版社・光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。 また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。 出版業界の最新動向も授業に反映させていく。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	本多悟(D-0601)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	出版論II				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	「出版コンテンツプロデューサー」としての編集者の仕事を学び、編集者の未来を探る						
授業の概要	多岐にわたるテーマを取り扱い、著作者の表現活動を支える編集者の仕事に焦点をあて講義を進める。 活字中心だった時代から、デジタル化、国際化が進行する現時点に至る役割の変化を学び、出版文化の担い手である編集者が今後「出版コンテンツプロデューサー」として進むべき道を考察する。 ※対面でもオンラインでも授業内容は同一。 この科目では、資料の配付等では原則としてGoogle Classroomを使用する。 オンライン授業実施時は、Google Meetを使用する。						
到達目標	編集者の仕事を社会背景を含めて理解できるようになる。 さらに、デジタル化、国際化している出版産業および編集者の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得する。 この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」（メディアコミュニケーション学部）と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス 編集者の仕事・役割 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第2回	編集者の仕事① 週刊誌編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第3回	編集者の仕事② コミック編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第4回	編集者の仕事③ 女性誌、ファッション誌、ライフスタイル誌編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第5回	編集者の仕事④ 文芸編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第6回	編集者の仕事⑤ ビジネス書、実用書編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第7回	編集者の仕事⑥ 児童書、図鑑編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第8回	編集者の仕事⑦ 芸能誌、グラビア誌編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第9回	編集者の仕事⑧ Web編集者 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)

第10回	編集者の仕事⑨ 編集者の企画術 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第11回	編集者の仕事⑩ 書籍企画書のプレゼンテーションと講評① 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第12回	編集者の仕事⑪ 書籍企画書のプレゼンテーションと講評② 予習：書籍企画書を作成し、事前に提出する。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第13回	編集者の仕事⑫ 越境する編集者 予習：書籍企画書を作成し、事前に提出する。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)
第14回	2025年の出版業界を振り返る 予習：シラバスに沿って、事前にインターネット上の関連記事を読んでおく。(100分) 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。(100分)

成績評価方法・基準	期末レポートの評価50％、平常点（受講態度、授業への貢献度、提出課題など）50％を総合して評価する。 編集者の仕事を社会背景を含めて理解できているか、デジタル化・国際化している出版産業および編集者の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得できているかをおもな評価基準とする。 対面でもオンラインでも評価基準は同一。 秀　：　評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力とを身につけている。 優　：　評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力とを身につけている。 良　：　評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可　：　評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可：　学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。
-----------	---

参考書	菊地 健著『漫画ビジネス』クロスメディア・パブリッシング 2024年 1680円 ISBN-10:4295410152 小倉健一著『週刊誌がなくなる日』ワニブックス 2022年 900円 ISBN-10:4847061977 豊田きいち著『編集』パイ インターナショナル 2016年 1980円 ISBN-10:4756248225 北尾修一著『いつもより具体的な本づくりの話を。』イースト・プレス 2022年 2200円 ISBN-10:478162104X 植田康夫著『知の創生と編集者の冒険』出版メディアパル 2018年 1650円 ISBN-10:4902251345 ムン ヨンジュ著『編集者の誕生と変遷』出版メディアパル 2016年 2640円 ISBN-10:4902251620 柳澤 健著『2016年の週刊文春』光文社 2020年 2530円 ISBN-10:4334952143 新谷 学著『「週刊文春」編集長の仕事術』ダイヤモンド社 2017年 1540円 ISBN-10:4478102090 新谷 学著『獲る・守る・稼ぐ 週刊文春「危機突破」リーダー論』光文社 2021年 1760円 ISBN-10:4334952607 石井 徹著『「少年マガジン」編集部で伝説の マンガ最強の教科書 感情を揺さぶる表現は、こう描け!』幻冬舎 2022年 1870円 ISBN-10:4344039750 佐藤敏章著『手塚番～神様の伴走者～』小学館 2018年 671円 ISBN-10:4094065210 都築響一著『園外編集者』朝日出版社 2015年 1815円 ISBN-10:4255008949 松田紀子著『悩んでも10秒 考えすぎず、まず動く! 突破型編集者の仕事術』集英社 2019年 1500円 ISBN-10:408788029X 箕輪厚介著『死ぬこと以外かすり傷』マガジンハウス 2018年 1340円 ISBN-10:4838730152 片山一行著『職業としての「編集者」』H&I 2015年 1980円 ISBN-10:4908110018 見城 徹著『編集者という病い』集英社 2009年 748円 ISBN-10:4087464180 仲俣暁生＋フィルムアート社編集部編『編集進化論 ―editするのは誰か?』フィルムアート社 2010年 ISBN-10:4845910543 森 功著『鬼才 伝説の編集人 齋藤十一』幻冬舎 2021年 1980円 ISBN-10:4344037286 松井清人著『異端者たちが時代をつくる 諦めばかりの現代社会を変えた6つの勇気物語』プレジデント社 2019年 ISBN-10:483345145X 木俣正剛著『文春の流儀』中央公論新社 2021年 1980円 ISBN-10:4120054101 新海 均著『カップ・ブックスの時代』河出書房新社 2014年 ISBN-10:4309624596 駒井 稔著『いま、息をしている言葉で。「光文社古典新訳文庫」誕生秘話』而立書房 2018年 2200円 ISBN-10:4880594105 鈴木涼美著『JJとその時代 女のコは雑誌に何を夢見たのか』光文社 2021年 1232円 ISBN-10:4334045839 赤木洋一著『「アンアン」1970』平凡社 2007年 740円 ISBN-10:4582853587 椎根 和著『popeye物語』新潮社 2008年 1575円 ISBN-10:4103066717 阪本 博著『「平凡」の時代』昭和堂 2008年 ISBN-10:481220822X 三島邦弘著『パルプ・ノンフィクション: 出版社つぶれるかもしれない日記』河出書房新社 2021年 1844円 ISBN-10:4309028683 西山雅子著『増補改訂版「ひとり出版社」という働きかた』河出書房新社 2021年 2002円 ISBN-10:4309300103 永江 朗著『小さな出版社のつづけ方』猿江商會 2021年 1870円 ISBN-10:4908260125 櫻井秀勲著『戦後名編集者列伝 売れる本づくりを実践した鬼才たち』編書房 2003年 ISBN-10:4434030116 withnews＋ノオト＋Yahoo! ニュース著『現場で使える Web編集の教科書』朝日新聞出版 2021年 1980円 ISBN-10:4023319554 ほか、授業中にも紹介する。
-----	---

その他	授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。 授業にゲストを招くことも想定しているため、スケジュール調整により、シラバスと授業内容がずれることがありうる。 本科目だけでも受講はできるが、「出版論Ⅰ」と「出版論Ⅱ」の両方で出版についての全体像がわかるようになっているので、「出版論Ⅰ」も受講することを推奨する。 教員への連絡先メールアドレスは、s-honda@edogawa-u.ac.jp。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	総合出版社・光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。 また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。 出版業界の最新動向も授業に反映させていく。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	井上 一郎(T-0302)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	マーケティング論/マーケティング論I				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	マーケティングのアウトラインを理解する。						
授業の概要	この講義は、初めてマーケティングを学ぶ学生を対象としています。 社会環境の変化、消費者の多様化を背景に、マーケティングは、国際企業から国内企業まで一般企業はもちろん、自治体や学校さらには社会貢献活動を行う非営利団体などにおいても、その重要性は高まっています。当然ながら、メディアビジネス、コンテンツビジネスにおいてもマーケティング発想は欠かせません。 マーケティング論Ⅰにおいては、マーケティングとは何か、なぜマーケティングが必要なのか、またどのようなマーケティング展開があるのかなどマーケティングのアウトラインについて理解し、マーケティング視点で企業や製品について分析できるための基礎力を身に付けることを目的とします。 そのために、基本的な理論を、国内企業や国際企業の事例に当てはめながら、基礎的知識を身につけます また、学生自身が多面的に考察できるように、座学的な講義だけでなく、身近な商品やサービスを題材にしたアクティブラーニング（演習）を実施します。演習は、受講者数に応じてグループ演習または個人演習となりますが、いずれの場合においても授業外における準備学習が必須となります。他に適時、講義時間外における観察やレポート（ミニ課題）を課します。 ※オンライン対応について 本講義では、各回の講義のリアクションペーパーを講義後（当日中）にオンライン（googleフォーム）にて提出します。 各講義のテキストはPDFにて、グーグルクラスルームにアップします。 本講義は基本的に対面で実施しますが、「オンライン」にて講義を実施する場合のオンラインツールは、原則としてGoogle meetsを使用します。 ※新型コロナ対策等から「オンライン」にて講義が実施される場合の補足 原則として、オンライン授業になった場合も、（対面で予定されている）講義時間、内容に変更はありません。						
到達目標	マーケティングの基礎的知識（用語、コンセプト、定義、構成要素等）を理解し、身の回りの商品やサービスをマーケティング視点で、分析的に説明できることです。（学部、学科の下記到達目標に対応）。 メディアコミュニケーション学部 1知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。 2教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。 3自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる。 4コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。 6新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。 7多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。 マスコミュニケーション学科 1現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。 2新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	第1回 マーケティングとは何か(オリエンテーション含む) 【予習&復習】 シラバスをよく読む、不明点など質問できるように準備する（100分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる（100分）
第2回	第2回 マーケティングの意味と要素を理解する 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる（150分）
第3回	第3回 身近な事例をマーケティングの要素（4P）で整理する 【予習&復習】 身近な事例を調べて、マーケティングの4P(Product,Price,Place,Promotion）について調べる（180分） 講義後、各自が調べたレポートをダウンロードしてして理解を深める（120分） 【レポート課題】 身近な事例を調べて、マーケティングの4Pに整理してレポートする。

第4回	第4回 演習：各自調べた事例を発表 【予習&復習】 各自、わかりやすく簡潔の発表できるように準備する（120分） 他の人の発表も参考に改善点を考察する（150分）
第5回	第5回 マーケティングの定義と拡張①定義の変遷 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてして基礎ノートを作成させる（150分）
第6回	第6回 マーケティングの定義の変遷と拡張②ソーシャルマーケティング 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる（150分）
第7回	第7回 企業の存在意義とブランディング 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる（150分）
第8回	第8回 製品とは①物財とサービス財 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる（150分）
第9回	第9回 コミュニケーション戦略①PR～広告1 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる（150分）
第10回	第10回 コミュニケーション戦略②広告2～プロモーション 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる（150分）
第11回	第11回 企業のマーケティング戦略の実例【実際の企業事例スタディ】 【予習&復習】 講義テーマの企業について事前に調べておく（120分） 講義後、事例企業スタディで得た知識をレポートする（180分）
第12回	第12回 価格戦略～価格の意義 & ミニ演習 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる（150分）
第13回	第13回 流通戦略 流通の役割と種類 【予習&復習】 事前テキストで講義テーマについて事前に調べておく（120分） 講義後、講義資料をエドクラテスからダウンロードしてしてノートを作成させる（150分）
第14回	第14回 マーケティングについての質疑&確認テスト 【予習&復習】 予習：授業について復習し、確認テストに備える（240分）。 復習：確認テストで不明瞭だった点を復習する。（180分）。

成績評価方法・基準	到達目標に対する達成状況を下記にて評価する。 1)授業への参加度 30%（①+②=最大30点まで加点）
-----------	---

	①リアクションペーパー：1回2点（各回の授業内容について理解したこと書いて提出）→到達目標(学部1,2,4)(学科1,2)に対応 ②教員の質問に対する回答、建設的な発言・質問：1回2点（1講義2回分=最大4点まで加点）→到達目標(学部1,2,3,6,7)(学科1,2)に対応 2)レポート課題1回（第3回に実施）10%：10点満点→到達目標(学部1,2,4,6,7)(学科1,2)に対応 3)授業内確認テスト60%：第14回に実施（60点満点）→到達目標(学部1,2)(学科1,2)に対応
--	---

参考書	『マーケティング〈第2版〉』 恩蔵直人 日経文庫 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』 コトラー、ケラー ピアソンエデュケーション 『コトラーのマーケティング3.0』 コトラー 朝日新聞出版
その他	井上が作成したテキスト（パワーポイント）を、講義内で画面に提示しながら進める。原則として講義終了後にエドクラテスにアップする。（pdfファイル） 本講義では、随時、質疑をしながら講義を進行しますので、講義への積極的な参加が求められます。（特にグループ演習の欠席は他の学生の迷惑になりますので欠席は厳禁です。） 【教員への連絡手段】 教員に連絡が必要な場合は、下記メールアドレス宛に連絡してください inouei@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	【略歴】 1989年総合広告会社旭通信社（現総合広告会社第3位ADK）入社。2002年出版社宣伝会議で「月刊販促会議」の編集長を務めたのち2004年ADKに複社。第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長などを経て2017年4月より江戸川大学（メディアコミュニケーション学部）に転じ、現在に至る。日本広告学会会員（常任理事）、日本マーケティング学会会員、日本商業学会会員、WOMマーケティング協議会理事など。 【主な実務実績】 VISAインターナショナル（クレジットカードの日常での普及促進）、BMW（1シリーズ日本導入キャンペーン）、ユニリーバ（リプトン、dove新製品キャンペーン）、東急ハンズ（リブランディング、リニューアルキャンペーン）、大塚食品クリスタルガイザー（リブランディングキャンペーン）、東北震災復刻支援ボランティアインフォメーションプロジェクト、コスモ石油エコカード基金（コンサルティング）、大塚ホールディングス（CSRコンサルティング）、三井広報委員会（三井ゴールデン匠賞の創設）など
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	井上 一郎(T-0302)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	メディア産業論Ⅰ				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	マスメディアを中心としたメディア産業についての発展過程、産業構造そして課題を認識する						
授業の概要	メディア産業はかつてない構造変化の中にあります。メディア産業論Ⅰにおいては、特に伝統的なメディアであるテレビ、ラジオ、新聞、雑誌の各メディア産業の発展過程（海外～国内）および隣接するイベント業界、広告業界等に注目し、これまでの発展過程と産業構造および課題について理解し、同時に、今後の可能性について議論していきます。 また、学生自身が多面的に考察できるように、座学的な講義だけでなく、各メディアの特定の課題について異なる立場に分かれ議論するディベート（討論）方式のアクティブラーニング（演習）を実施します。演習は、受講者数に応じてグループ演習または個人演習となりますが、いずれの場合においても授業外における準備学習と復習が必須となります。 ※オンライン対応について 本講義では、各回の講義のリアクションペーパーを講義後（当日中）にオンライン（googleフォーム）にて提出します。 各講義のテキストはPDFにて、グーグルクラスルームにアップします。 本講義は基本的に対面で実施しますが、「オンライン」にて講義を実施する場合のオンラインツールは、原則としてGoogle meetsを使用します。 ※新型コロナ対策等から「オンライン」にて講義が実施される場合の補足 原則として、オンライン授業になった場合も、（対面で予定されている）講義時間、内容に変更はありません。						
到達目標	本講義の到達目標は、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌各メディア産業および隣接するイベント業界、広告業界等の発展過程（海外～国内）、産業構造を学ぶことで、各メディア産業の役割や課題について理解し他者に説明できることです（下記学部、学科目標に対応）。 メディアコミュニケーション学部 1知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。 2教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。 3自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる。 4コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。 6新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。 7多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。 マスコミュニケーション学科 1現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。 2新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス～メディアとは何か 予習：シラバスについて事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：オリエンテーションおよび講義内容について復習し、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第2回	新聞業界：歴史とビジネス：編集と販売と広告そして電子版 予習：各回に関連するメディアや業界について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度）。 復習：講義でアップされたテキストを復習したり、講義でテーマとなったメディアについて調べたりして、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる。（120分程度）。
第3回	新聞社のデジタルへの取り組み(新聞電子版は有望か) 【レポート課題】 「新聞電子版は有望か」をテーマにしたレポート課題を課します。 予習：新聞各社電子版の特徴（無料版と有料版の違い、紙との違いなど）について調べる（120分程度）。 復習：次週の演習の向けて人に説明できるようにレポートを作成する（180分程度）
第4回	グループ演習①新聞のデジタル版は有望か？ 予習：各新聞社のデジタル版について事前に調べる（120分程度） 復習：自分たちの提案内容をブラッシュアップする（120分程度）
第5回	グループ演習②新聞のデジタル版の有効性についてプレゼンテーション

	予習：他者にわかりやすく説明できるように各自準備する 復習：各班のプレゼン内容から新聞デジタル版の可能性と課題について再確認する（120分程度）
第6回	出版業界：歴史と種類 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第7回	出版社のビジネス：委託販売と再販制度そして電子出版 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第8回	ラジオ業界：歴史と種類とビジネスモデル 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第9回	テレビ業界：歴史と種類とビジネスモデル 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第10回	テレビ局の具体的な取引方法①（広告収入コンテンツ販売収入など） 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第11回	テレビ局の具体的な取引方法②（視聴率の仕組み等） 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第12回	広告業界：歴史と種類とビジネスモデル 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第13回	イベント業界、印刷業界の産業動向 予習：各回に関連するメディア・コミュニケーション産業について事前に調べ、疑問点について質問できるようにしておく（100分程度） 復習：講義でアップされたテキストを復習しながら講義でテーマとなったメディア・コミュニケーション産業について調べ、不明な点をまとめ、自分の講義ノートを完成させる（120分程度）
第14回	講義で学んだメディア産業についての質疑および確認テスト 予習：これまでの講義内容について復習し、確認テストに備える（180分程度） 復習：確認テストで不明瞭だった点を復習する。（120分程度）

成績評価方法・基準	到達目標に対する達成状況を下記にて評価する。 1)授業への参加度 30%（①+②＝最大30点まで加点） ①リアクションペーパー（グーグルフォーム） 1回2点（各回の授業内容について理解したこと書いて提出 →到達目標(2)(3)、(学科1) に対応 ※後述 ②質問点 1回2点（1講義2回分＝最大4点まで加点）→到達目標(1)(3)、(学科1) に対応 2)レポート課題1回 10%：10点満点 第3回で実施 →到達目標(1)(2)(3)、(学科1) に対応
-----------	---

	3)授業内確認テスト 60%：第14回に実施（60点満点） →到達目標(1)(2)(3)、(学科1)に対応
--	--

参考書	
その他	井上が作成したテキスト（パワーポイント）を、講義内で画面に提示しながら進める。原則として講義終了後にエドクラテスにアップする。（pdfファイル） 本講義では、学生によるグループ演習を適時実施しますので講義への積極的な参加が求められます。（特に複数週にまたがるグループ演習の欠席は他の学生の迷惑になりますので欠席は厳禁です。） 【教員への連絡手段】 教員に連絡が必要な場合は、下記メールアドレス宛に連絡してください inouei@江戸川大学アドレス
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	【略歴】 1989年総合広告会社第3位旭通信社（現ADKマーケティングソリューションズ）入社、2002年出版社宣伝会議（月刊販促会議編集長）、2004年ADK復社（第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長など）を経て2017年4月より江戸川大学（メディアコミュニケーション学部マスコミュニケーション学科）に転じ、現在に至る。 【所属学会】 日本広告学会（常任理事、クリエイティブ委員会委員長）、日本商業学会、日本消費者行動研究学会、日本マーケティング学会ほか 【主な社会活動】 経済産業省 製造産業局 生活製品課 伝統的工芸品産業室(伝統的工芸品功労者等表彰審査委員)、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会(評議員)、一般社団法人クチコミマーケティング協会(運営委員)ほか。 【主な実務実績】 VISAインターナショナル（クレジットカードの日常での普及促進） BMW（1シリーズ日本導入キャンペーン） ユニリーバ（リプトン、dove新製品キャンペーン） 東急ハンズ（リブランディング、リニューアルキャンペーン）ほかプロジェクト コスモ石油エコカード基金（コンサルティング） 大塚ホールディングス（CSRコンサルティング） 三井広報委員会（三井ゴールデン匠賞企画運営）など
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	井上 一郎(T-0302)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	広告論/広告論I				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	広告等マーケティング・コミュニケーションの基本とコミュニケーションプランニング						
授業の概要	本講義の前半では、 広告,PR,プロモーションなどマーケティング・コミュニケーション要素の種類と定義を,後半では,マス本講義の前半では、 広告/コミュニケーション戦略における個別要素であるパブリッシングリレーションズ（PR）,広告,プロモーションの個別戦略について、後半ではマスメディアからソーシャルメディアまで統合したコミュニケーション・プランニングの実践について学ぶ。 また,学生自身が多面的に考察できるように,座学的な講義だけでなく,身近な商品やサービスを題材にしたアクティブラーニング（グループ演習）を実施する。 ※オンライン対応について 本講義では、各回の講義のリアクションペーパーを講義後（当日中）にオンライン（googleフォーム）にて提出します。 各講義のテキストはPDFにて、グーグルクラスルームにアップします。 本講義は基本的に対面で実施しますが、「オンライン」にて講義を実施する場合のオンラインツールは、原則としてGoogle meetsを使用します。 ※新型コロナ対策等から「オンライン」にて講義が実施される場合の補足 原則として、オンライン授業になった場合も、（対面で予定されている）講義時間、内容に変更はありません。						
到達目標	広告などマーケティング・コミュニケーションの基礎知識から、 国内外の企業が実際に行ったマスメディアを含むコミュニケーション・プランニングの事例学習およびミニ課題、 広告コミュニケーション開発演習を通して、 広告活動の意図を推測し、 分析的に説明できることです。（学部、学科の下記到達目標に対応）。 メディアコミュニケーション学部 1知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。 2教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。 3自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる。 4コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。 6新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。 7多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。 マスコミュニケーション学科 1現代社会に溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。 2新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	広告等マーケティングコミュニケーションの導入 予習内容：各メディアで展開されている広告コミュニケーション事例を観察し質問できるようにしておく（120分程度） 復習内容：テキストをもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する。（10分程度）
第2回	マーケティング戦略の基本とマーケティングコミュニケーションの位置づけ 予習内容：マーケティング、広告等についての基本を調べて質問できるようにしておく。（180分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する。（120分程度）
第3回	パブリックリレーションズ（PR）とは～定義と展開 予習内容：パブリックリレーションズ（PR）の定義や事例について調べて質問できるようにしておく（120分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する（120分程度）
第4回	広告とは～定義と展開 予習内容：広告の定義や事例について調べて質問できるようにしておく（100分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する（120分程度）
第5回	セールス・プロモーション（SP）とは～定義と展開 予習内容：セールスプロモーションの定義や事例について調べて質問できるようにしておく（100分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する（120分程度）

第6回	広告／コミュニケーション産業 予習内容：広告会社、PR会社、イベント会社など広告コミュニケーション産業について各社のWEBサイトや図書館にあるマスコミ就職読本など参考にして業務内容やどのような企業があるかなどについて調べて、質問できるようにしておく（120分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する。（120分程度）
第7回	消費者インサイトをいかに捉えるか&グループ演習のオリエンテーション 予習内容：消費者調査手法について調べて質問できるようにしておく（100分程度） 復習内容：消費者調査について改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する。（120分程度）
第8回	【グループ演習①】グループ毎にコンセプト&キャッチフレーズ企画の開発 各自考えてきたフラッシュアイデアを共有した上で、改めてグループ案としてのフラッシュアイデアを複数案作成する。 予習内容：あらかじめ告知されている演習課題について、各自キャッチフレーズのフラッシュアイデアを複数考えてくる（300分程度） 復習内容：必要に応じてgooglemeetsなどオンラインツールも活用してグループ案としてのコンセプトとキャッチフレーズのブラッシュアップを行う。（200分程度）
第9回	【グループ演習②】グループ毎に企画の完成 次週のプレゼンテーションに向けて企画案、企画書を完成させる 予習内容：各自前週の企画アイデアをもとにブラッシュアップ案を考えておく。（200分程度） 復習内容：次週のプレゼンに向けて必要に応じてgooglemeetsなどオンラインツールも活用して企画書のブラッシュアップを行う（200分程度）
第10回	【グループ演習③】グループ別にプレゼンテーション 予習内容：必要に応じてgooglemeetsなどオンラインツールも活用してプレゼン当日までに、グループ毎にプレゼンテーションの練習を行う。（300分程度） 復習内容：他グループのプレゼンと比較して、良かった点、悪かった点を各自振り返る。（100分）
第11回	コミュニケーション・プランニングの実際1：いかにして有効なメディア，顧客接点を選択するか 予習内容：自分が普段、製品を購入する際に、どのようなメディアや情報源を参考にしているかについて考えておく（120分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する。（120分程度）
第12回	コミュニケーション・プランニングの実際2：どのように伝えるか（プランニングフレーム） 予習内容：自分の気になった広告コミュニケーションの企業、製品が他にどのようなメディアを使っているのかWEBサイトで検索するなどして調べる。テレビCM、インターネット広告、SNS、イベントなど（100分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する。（100分程度）
第13回	ソーシャルメディアを活用したマーケティングコミュニケーションと課題 予習内容：twitter、インスタグラム、Youtubeなどで行われているオンラインの口コミマーケティング展開の良い事例および悪い事例（ステルマーケティング事例）についてクチコミマーケティング協会（https://womj.jp/）のガイドラインを確認した上で調べる（180分程度） 復習内容：講義内容をもとに、改めて分析視点を持って調べるとともに、講義ノートを作成する。（120分程度）
第14回	授業内確認テスト（60点満点） 予習：授業について復習し、確認テストに備える（240分程度） 復習：確認テストで不明瞭だった点を復習し、自分の講義ノートを完成させる。（120分程度）

成績評価方法・基準	到達目標に対する達成状況を下記にて評価する。 1)授業への参加度 30%（①+②＝最大30点まで加点） ①リアクションペーパー：（1回2点）（各回の授業内容について理解したこと毎回イントラネットに記入して提出）→到達目標(学部1,2,4)(学科1,2)に対応 ②教員の質問に対する回答、建設的な発言・質問：1回2点（1講義2回分＝最大4点まで加点）→到達目標(学部1,2,3,6,7)(学科1,2)に対応 2)レポート課題1回 10%：第3回に提出（10点満点）→到達目標(学部1,2,4,6,7)(学科1.2)に対応 3)授業内確認テスト 60%：第14回に実施（60点満点）→到達目標(学部1,2)(学科1,2)に対応
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広	石崎徹編著、五十嵐正毅、井上一郎ほか著	八千代出版	978-4-8429-1865-5	2024年発売

告第3版				
参考書	『R3コミュニケーション』 恩蔵直人、ADKR3プロジェクト（井上一郎ほか） 著 宣伝会議 『トリプルメディアマーケティング』 横山隆治、井上一郎ほか インプレス			
その他	講義は、井上が作成したパワーポイントのテキストとして講義内で画面に提示しながら進める。 （パワーポイントの主要部分は、「わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告第3版」をベースに作成） 本講義では、学生によるグループ演習を適時実施しますので講義への積極的な参加が求められる。 （特に複数週にまたがるグループ演習の欠席は他の学生の迷惑になりますので欠席は厳禁です。） 【教員への連絡手段】 教員に連絡が必要な場合は、下記メールアドレス宛に連絡してください inouei@江戸川大学アドレス			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）			
実務経験詳細	【略歴】 1989年総合広告会社第3位旭通信社（現ADKマーケティングソリューションズ）入社、2002年出版社宣伝会議（月刊販促会議編集長）、2004年ADK復社（第1クロスコミュニケーション局長、商材開発室長、ADKソーシャルデザインラボ所長など）を経て2017年4月より江戸川大学（メディアコミュニケーション学部マスコミュニケーション学科）に転じ、現在に至る。 【所属学会】 日本広告学会（常任理事、クリエイティブ委員会委員長）、日本商業学会、日本消費者行動研究学会、日本マーケティング学会ほか 【主な社会活動】 経済産業省 製造産業局 生活製品課 伝統的工芸品産業室(伝統的工芸品功労者等表彰審査委員)、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会(評議員)、一般社団法人クチコミマーケティング協会(運営委員)ほか。 【主な実務実績】 VISAインターナショナル（クレジットカードの日常での普及促進） BMW（1シリーズ日本導入キャンペーン） ユニリーバ（リプトン、dove新製品キャンペーン） 東急ハンズ（リブランディング、リニューアルキャンペーン）ほかプロジェクト コスモ石油エコカード基金（コンサルティング） 大塚ホールディングス（CSRコンサルティング） 三井広報委員会（三井ゴールデン匠賞企画運営）など			
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート / グループワーク / プレゼンテーション			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1) / メディアコミュニケーション学部(2) / メディアコミュニケーション学部(3) / メディアコミュニケーション学部(4) / メディアコミュニケーション学部(6) / メディアコミュニケーション学部(7) / マス・コミュニケーション学科(1) / マス・コミュニケーション学科(2)			

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2025年度）

学科	氏名	科目名	履修年次	単位	専門科目	実務経験	授業内容との関係性
情報文化	廣田 有里	Webデザイン	1	2	合計 14 単位	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		情報ネットワーク	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		e-コマースシステム	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		Webサービス開発	3	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	八木 徹	プログラミングI	2	2		複数の企業における勤務を通じ、大規模計算機システムの構築サポートや各種シミュレーターの開発に従事	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		プログラミングII	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		情報処理概論	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	Webデザイン/Webデザイン論				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	コンセプトから運用までWeb制作の知識を学ぶ						
授業の概要	インターネットの普及に伴い、様々な情報がWebページで伝えられている。今後、社会では情報を受けるだけでなく、発信する側になる力も必要になってくる。 Webは、本や雑誌、テレビなど従来の媒体に比べて複雑な構造をしているため、情報をユーザにとって分かりやすい形で提示できるようにデザインすることが重要である。中でも、Webサイトで「誰に何を伝えたいか」と「どのように提示するか」を考慮する設計をするべきである。 本講義では、Webサイトのデザインにおいて、コンセプトメイキングから制作・テスト・評価・運用を行うための知識と技術を学ぶことを目的とする。実際に、自分でテーマを決めてWebサイトをデザインし、構築する演習を行う。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部のメディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」「新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。」「多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサイトのデザインを例として、情報発信の基本スキルを身につける。 具体的には、以下の3点を習得する。 （１）情報をデザインすることの重要性を学び、設計に生かすことができる。 （２）Webサイトを作成する基本的な技術（HTML・CSS）を習得する。 （３）ユーザビリティを考慮したWebサイトを作成することができる。 （４）様々なデバイスやメディアを用いて多様化した社会に情報発信する能力を習得することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション・Webデザインへのアプローチ 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第2回	コンセプトと情報設計 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：講義の内容をもとに自分のWebサイトについての情報を収集する（100分）
第3回	デザインと表現手法 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：様々なWebサイトを閲覧して情報の構造を洗い出す（100分）
第4回	開発環境の設定とVSCodeの使い方、HTMLの基礎 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照してVSCodeに慣れておく（100分）
第5回	リストとハイパーリンク 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、本日使用したタグについてまとめておく（100分）
第6回	表とフォームの作成 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、本日使用したタグについてまとめておく（100分）
第7回	CSSの基礎 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、本日使用したスタイルについてまとめておく（100分）
第8回	CSSを用いたレイアウト 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、本日使用したスタイルについてまとめておく（100分）
第9回	レスポンスデザイン 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、本日使用したスタイルについてまとめておく（100分）
第10回	フォームのスタイル 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、本日使用したスタイルについてまとめておく（100分）

第11回	ディベロッパーツールでのデバッグ 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、ディベロッパーツールを使用して様々なHPを閲覧する（100分）
第12回	Webサイトの制作 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、ディベロッパーツールを使用して様々なHPを閲覧する（100分）
第13回	Webサイトの公開と運用 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	知的財産権 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（60%） 平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言） 筆記試験（30%）
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門Webデザイン		CG-ARTS協会	978-4-903474-52-6	
参考書				
その他	パソコンを持参すること。 授業に関する質問は担当教員の廣田（hirota@edogawa-u.ac.jp）までご連絡ください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	情報ネットワーク/情報ネットワーク論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	インターネットのしくみとネットワーク社会						
授業の概要	スマートフォンでメールをしたり、インターネットでこれから訪問する会社の情報を調べたりなど、情報ネットワークは私たちの生活に欠かせないインフラになっている。最近では、企業の発信する情報を受けるだけでなく、ブログやTwitter、Facebookを通してユーザ自身が積極的に情報発信することも盛んである。積極的なネットワーク活用には、ネットワークの基本的なしくみや頻繁に出てくる技術用語を理解している必要がある。 本講義では、ネットワークの中を情報がどのような形で流れ、どのようなしくみで相手に伝達されるかを技術的な面から理解する。また、ネットコミュニケーションがどのように発達し、生活に利用されているかを学ぶ。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」「多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関連性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の2項目を身につけることができる。 （１）インターネットの情報伝達のしくみを理解し、簡単なネットワークの診断を行うことができる。 （２）多様化した現代社会の中で、インターネットがどのように利用されているかを知り、メリット・デメリットを理解した上で適切に利用できるようになる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション コンピュータとネットワークの発展 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第2回	ネットワークの基礎知識 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第3回	データを相手に届ける技術 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第4回	ネットワークを構成する機器 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第5回	物理層 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第6回	データリンクの技術 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第7回	IPの機能としくみ－IPプロトコル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第8回	IPに関する技術 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第9回	パケットの経路を決めるルーティングプロトコル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第10回	トランスポート層の役割－TCPとUDP 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第11回	インターネットのアプリケーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

第12回	インターネットにつながるためのブロードバンドネットワーク 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第13回	情報セキュリティ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	ネットワークの導入 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%） 平常点（10%）（授業に取り組む姿勢と発言） 筆記試験（40%）
-----------	---

参考書	マスタリングTCP/IP 入門編 竹下隆史、村山公保、荒井透、苅田幸雄（著） オーム社（出版社） 図解入門TCP/IP 仕組み・動作が見てわかる みやたひろし（著）SBクリエイティブ（出版社）
その他	パソコンを持参すること。 授業に関する質問は担当教員の廣田（hirota@edogawa-u.ac.jp）までご連絡ください。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 ＜実務経験のある教員等＞
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	e-コマースシステム/e-コマースシステムI				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	eコマース入門						
授業の概要	eコマースとは、商品に関する情報の提供から、受注・納品にいたるビジネスプロセスを電子化して行う商取引のことである。eコマースの市場規模は、急速に拡大してきており、これには、インターネット人口の増加と共に、さまざまな技術的な進歩が貢献している。 本講義では、前半はeコマースの基本から、ユーザビリティ、コンテンツ・デザインなどのサイトを構築するための知識、インターネットマーケティングの基本的な技術を学び、後半はグループワークで店舗の企画を行い、企画内容のプレゼンテーションを行うことにより、eコマースサイトを企画・運営する力を身につけることを目的とする。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」「新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。」「多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。」とというディプロマ・ポリシーに関連し、以下の4項目を身につけることができる。 （１）eコマースの基本的なしくみ、発展の歴史、関連する法律を理解する。 （２）eコマースを支えるマーケティングの基本を理解する。 （３）eコマース形態の1つであるネットショップの企画・制作・運営の手順を理解するコンセプトを作成できるようになる。 （４）考えたコンセプトやサイトの特徴を、プレゼンを行い相手に伝えることができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション、eコマースとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトを例にして、自分が普段利用するeコマースについて特徴をまとめる（100分）
第2回	eコマースのビジネス環境 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたビジネスモデルを例にして、類似するサイトを調査して特徴をまとめる（100分）
第3回	ネットショップの出店形態と特徴 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された出店形態のうち特にASPサービスについて、いくつかのサービスを調査して特徴をまとめる（100分）
第4回	ネットショップのコンテンツ、ユーザビリティとデザイン 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたユーザビリティチェック項目をもとに、よく使用するサイトを調査してチェックの結果を検討しまとめる（100分）
第5回	インターネットマーケティング 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたマーケティングを例にして、実際にGoogleアナリティクスを使用して調査し結果をまとめる（100分）
第6回	ネットショップの企画－商材の選択 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された調査方法を例にして、類似する商品を販売するサイトを調査して特徴をまとめる（100分）
第7回	ネットショップの企画－競合調査 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された調査方法を例にして、類似する商品を販売するサイトを調査して特徴をまとめる（100分）
第8回	ネットショップの企画－サイトコンセプト 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトコンセプトを例にして、自分たちのサイトのコンセプトをまとめる（100分）
第9回	ネットショップの企画－プレゼンテーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：自分たちのサイトコンセプトについての評価を受け、ネットショップの企画を修正完成させる（100分）
第10回	ネットショップ制作の環境と操作 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイト構築方法で、サイトのデザインを構築する（100分）

第11回	ネットショップの制作－サイトの初期設定 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイト構築方法で、サイトの登録と初期設定を行う（100分）
第12回	ネットショップの制作－サイトのデザインの構築 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイト構築方法で、サイトのデザインを構築する（100分）
第13回	ネットショップの制作－画像の加工と商材の登録 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された画像の加工と商材の登録方法で、サイトの画像と商品の登録を行う（100分）
第14回	ネットショップの制作－プレゼンテーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：自分たちの制作したサイトについての評価を受け、サイトを修正完成させる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%） 筆記試験（40%） 平常点（10%）（課題への取り組みとグループワークでの発言）
-----------	---

参考書	改訂版ネットショップ検定公式テキスト ネットショップ実務士レベル1対応 一般財団法人ネットショップ能力認定機構（著）日本能率協会マネジメントセンター（出版） ネットマーケティング検定公式テキストインターネットマーケティング 基礎編 藤井裕之（著）インプレス（出版）
その他	パソコンを持参すること。 授業に関する質問は担当教員の廣田（hirota@edogawa-u.ac.jp）までご連絡ください。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	Webサービス開発/情報文化特講III				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	PythonによるWebサービス開発						
授業の概要	Webサービスとは、ユーザがWebブラウザを通して利用できるサービスを提供する仕組みである。Pythonは汎用性が高く、機械学習やIoTなどの標準言語としても利用され注目の言語である。 本講義では、Pythonのフレームワークの1つである「Django（ジャンゴ）」を使用することにより、様々な機能を持つWebサービスの構築方法を学ぶことができる。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」「新しい時代を豊かに生き抜くため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している。」「多様化した現代社会において、メディアコミュニケーション及び社会的関係性の全容を理解し、自ら情報を発信することができる能力を修得している。」とというディプロマ・ポリシーに関連し、Webサービスの開発を通じて以下の3点を習得することを目的とする。 （１）Webサービスとは何かを理解する。 （２）基本的なWebサービス開発方法を習得する。 （３）Python APIを活用する応用力を身につける。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション、Webサービスとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：Webサービスの種類と使用する言語を調べ、Webサービスとは何かを説明することができるようにノートにまとめる（100分）
第2回	Djangoの概要、開発環境の作成 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：PythonとDjangoをインストールし、開発環境の準備を完了する（100分）
第3回	DjangoによるWebアプリケーションの作成方法 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのプロジェクトの作成方法とファイル構成を理解し、プロジェクトを作成することができるようにする（100分）
第4回	ブログアプリケーションの作成－プロジェクトの作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoで新規プロジェクトを作成することができるようにする（100分）
第5回	ブログアプリケーションの作成－Bootstrapの利用－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Webアプリケーションへのデザインの適用方法を学び、Bootstrapを利用できるようにする（100分）
第6回	ブログアプリケーションの作成－入力フォームの作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでの入力フォームの作成方法を理解し、簡単な入力画面の作成を行うことができるようにする（100分）
第7回	ブログアプリケーションの作成－削除と更新－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのデータの更新方法を理解し、簡単な更新・削除処理を行うことができるようにする（100分）
第8回	ブログアプリケーションの作成－更新画面の作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのデータの更新・削除の方法を理解し、簡単な更新画面の作成を行うことができるようにする（100分）
第9回	ブログアプリケーションの作成－リンクの設定－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：再利用可能なアプリケーションの考え方を理解し、Djangoでの再利用可能なアプリケーションの作成ができるようにする（100分）
第10回	Webアプリケーションの作成－オリジナルモデルの設計－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：前回作成したアプリをもとに、典型的なWebアプリケーションのパターンを理解し、リリースされているアプリケーションの構造を調査する（100分）

第11回	Webアプリケーションの作成－オリジナルモデルのデータベース設定－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのデータベース設計を行うことができるようみする（100分）
第12回	Webアプリケーションの作成－オリジナルモデルの一覧画面の作成－ 予習：自分の作りたいWebアプリのデータベース設計を考えてまとめておく（100分） 復習： 前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するための一覧画面の作成を行うことができる（100分）
第13回	Webアプリケーションの作成－オリジナルモデルの詳細画面の作成－ 予習：自分の作りたいWebアプリのデータベース設計を考えてまとめておく（100分） 復習： 前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するための詳細画面の作成を行うことができる（100分）
第14回	制作したアプリケーションの発表 予習：自分の作りたいWebアプリの画面設計からフォームを考えてまとめておく（100分） 復習： プレゼンテーションでの指摘を受け、オリジナルのアプリケーションを完成させる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（60%） 最終課題（30%） 平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言）
-----------	--

参考書	現場で使える 基礎 Django akiyoko（著） 技術書典 Djangoドキュメント（ https://docs.djangoproject.com/ja/3.0/ ） Python3 + Django2.0入門 - Pythonで作るWebアプリケーション開発入門 1～3 ナカノヒトシ（著） Amazon Services International, Inc.（販売元） Djangoのツボとコツがゼッタイにわかる本 大橋亮太（著） 秀和システム
その他	パソコンを持参すること。 授業に関する質問は担当教員の廣田（hirota@edogawa-u.ac.jp）までご連絡ください。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103)、上西秀和			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	プログラミングI				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	Pythonによるプログラミングの学習						
授業の概要	近年広く利用されているプログラム言語であるPythonを用い、『プログラミング基礎』での学習をふまえ、Pythonプログラミングを本格的に学ぶ。『プログラミング基礎』を履修済みであるか、同等の知識と経験を有することを前提とする。プログラムの制御構造、データ構造から、Pythonにおける様々なパッケージを活用する方法まで学ぶ。毎回示されたサンプルに基づく小課題のプログラムを作りながら学習を進める。 中間の課題として、Pythonプログラミングの基礎を踏まえ、迷路ゲームの制作を行う。さらに、期末の課題として、画像処理を行うミニアプリを制作する。 迷路ゲーム制作やミニアプリ制作を通じて、関数や変数スコープ、GUIプログラムの基本（イベント処理など）を学ぶ。 この科目では、資料の配布にはGoogle Classroomを利用し、オンライン授業実施時にはGoogle Meetを利用する。初回授業で2クラスのクラス分けを行うため1回目から必ず出席すること。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングの知識及びソフトウェア開発の基礎知識の習得を目指す。具体的には、Pythonの文法の基礎知識を身につけ、プログラムを作成・実行することができ、また、問題解決のための適切な処理順序を考えることができるようになる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス：プログラミング学習の方法、クラス分け、プログラム開発環境の確認 予習：Pythonの基本プログラミング環境がインストール済みであることを確認すること。「プログラミング基礎」の授業（相当の内容）を復習しておくこと。(100分) 復習：Pythonプログラムの開発環境の使い方を理解し、プログラム作成に利用できるようにすること。(100分)
第2回	Pythonの基礎(1)：基本文法とデータ構造 予習：教科書Chapter3及びChapter4を見て、Pythonにおける基本データ型や演算、リスト、タプル、辞書について確認すること。(100分) 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの制御構造の文法を理解する(100分)
第3回	Pythonの基礎(2)：様々な制御構造 予習：教科書Chapter5を見て、Pythonにおける条件式の書き方、条件分岐 if、反復for、whileの方法について調べておくこと。(100分) 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの様々なデータ構造を理解する(100分)
第4回	CUIによる対話的なプログラム 予習：Classroomの資料を見て、不明点を調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。CUIでの対話的なプログラム作成を理解する(100分)
第5回	Pythonにおける関数の利用（１）：関数の基本 予習：教科書Chapter6-1を見て、Pythonの関数について調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonでの関数定義を理解する(100分)
第6回	Pythonにおける関数の利用（２）：変数のスコープ 予習：教科書Chapter6-2を見て、Pythonの関数（変数のスコープ）について調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonでの関数定義を理解する(100分)
第7回	tkinterを用いたプログラム（GUIの基礎） 予習：Classroomの資料を見て、tkinterの基礎的な利用方法を調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。tkinterを利用したGUIプログラム作成を理解する(100分)
第8回	tkinterを用いたプログラム（イベント処理） 予習：Classroomの資料を見て、tkinterのイベント処理を調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。tkinterを利用したGUIプログラム作成を理解する(100分)
第9回	課題制作(1)：GUIでの迷路ゲーム作成 予習：Classroomの資料を見て、作成するプログラムを予め調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。(100分)
第10回	オブジェクトとクラス 予習：教科書Chapter7-1, 7-2を見て、オブジェクトとクラスについて事前に調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。オブジェクトとクラスの作成、利用方法を知る。(100分)

第11回	モジュールとパッケージ 予習：教科書Chapter10をみて、Pythonライブラリについて事前に調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。モジュールとパッケージの作成方法を理解する(100分)
第12回	様々なパッケージと画像処理 予習：教科書Chapter11-2を見て、Pythonに標準で含まれるパッケージとPILライブラリについて調べる（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの標準パッケージとPILライブラリの利用方法を知る(100分)
第13回	PILを用いた画像処理 予習：Classroomの資料を見て、PILを用いた画像処理方法の手順を調べておく（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。PILでの画像加工方法を知る(100分)
第14回	課題作成(2)：総合的な課題に取り組む。画像処理を行うGUIアプリケーションを作成する 予習：Classroomの資料を見て、作成する課題の構成要素を調べておく（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。(100分)

成績評価方法・基準	学習意欲（課題提出により評価する）(25%)、プログラム練習課題（プログラムをエラー無く作成実行できること、プログラムの個々の文法についての理解を、対応する個別の練習課題により評価する）(45%)、学習したプログラミング知識の総合力を問うための最終プログラム課題により全体の理解を評価する（30%）。 この授業では、オンラインとオフラインで同じ評価基準を用いる。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Python[完全]入門	佐松浦健一郎/司ゆき	SB Creative	4815607648	他の授業で購入している場合はその本を継続して利用するため、別途購入する必要はない
参考書	「Pythonチュートリアル」, https://docs.python.org/ja/3/tutorial/			
その他	授業では、教科書を活用します。プログラミング基礎と同じものです。まだ持っていない人は用意してください。 科目についての質問は、履修登録前は八木（yagi@edogawa-u.ac.jp）まで。 履修登録後は、Google Classroomの質問用窓口を利用してください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	科目担当者の八木は、複数の企業における勤務を通じ、大規模計算機システムの構築サポートや各種シミュレーターの開発に従事。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹 (D-0103)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	プログラミングII				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	Pythonによるプログラミング：応用						
授業の概要	「プログラミングI」での学習内容をもとに、さらに高度な内容について学習を深める。 Pythonのデータ型、基本文法、標準モジュールを整理した上で、プログラム開発の流れを把握する。 Pygame Zeroを用いて、ゲーム制作に取り組む。ゲーム制作を通じて、GUIプログラミング、イベント処理、オブジェクト思考の概念を学ぶ。 「プログラミングI」を履修済みであるか、同等の知識・技能を有することを前提とする。 この科目では、資料の配布にはGoogle Classroomを利用し、オンライン授業実施時にはGoogle Meetを利用する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングの知識及びソフトウェア開発の基礎知識の習得を目指す。具体的には、設計からデバッグまでのプログラミングの流れを身につけ、適切なデータ型、制御文を利用してプログラムを作成できるようになり、多様なモジュールを目的に応じて利用できるようにする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	基礎を振り返ろう。『プログラミングI』の復習 予習：プログラミングIで学んだPythonの基本と、作成した課題プログラムを確認しておくこと。(100分) 復習：Pythonの基本プログラムが作成できることを確認する。(100分)
第2回	プログラミングの全体を理解しよう。設計からデバッグまでの流れを知る 予習：Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：仕様策定から設計、コーディング、デバッグ、テストという開発の流れを理解できるようにする。(100分)
第3回	ファイル进行操作しよう。ファイル入出力方法について学ぶ 予習：教科書Chapter11を読み、ファイル入出力について調べること。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、ファイル入出力について理解する。(100分)
第4回	正規表現1：正規表現の基礎 予習：教科書Chapter14-2を読み、正規表現について調べること。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、正規表現の基礎を知る。(100分)
第5回	正規表現1：正規表現を用いたテキスト処理 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、正規表現の基礎を知る。(100分)
第6回	エラーと例外：例外処理について学ぶ 予習：教科書Chapter8-1を読み、例外処理について調べること。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、例外処理の方法について理解する。(100分)
第7回	エラーと例外：エラーを調べ修正する方法を学ぶ 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、例外処理の方法について理解する。(100分)
第8回	Pythonの高度な文法：さまざまなPythonの文法について学ぶ 予習：教科書Chapter8-2から8-6を読み、内包表記、ジェネレータ式、ラムダ式などについて調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、Pythonのエラーとその対応方法について理解する。(100分)
第9回	ゲームプログラミング(1)：Pygame Zeroの利用 / フレーム処理 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、Pygame Zeroの基本操作を理解する(100分)
第10回	ゲームプログラミング(2)：クラスの派生と継承 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、フレーム処理の基本操作を理解する(100分)
第11回	ゲームプログラミング(3)：イベント処理 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、イベント処理を理解する(100分)

第12回	ゲームプログラミング(4)：アニメーション操作 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、アニメーション操作を理解する(100分)
第13回	ゲームプログラミング(5)：これまでの知識を統合したプログラムを完成させる。 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：プログラム作成に用いたモジュールやアルゴリズムを把握し、説明できるようにする。(100分)
第14回	Pythonによる問題解決：深さ優先探索と幅優先探索（スタックとキュー） 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、探索の実装方法を知る(100分)

成績評価方法・基準	Pythonプログラミングの理解を問うためのプログラム練習課題（毎回の練習課題）45%、総合的なプログラミングの理解と問題解決への応用力をとう最終課題により30%、及び、課題提出状況や授業参加への積極性をみる平常点25%を総合して評価する。 この授業ではオンラインとオフラインで同じ評価基準を用いる。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Python[完全]入門	松浦健一郎/司ゆき	SB Creative	4815607648	すでに別の授業で購入している人はその本を継続して利用するため購入する必要はない
参考書	「Pythonチュートリアル」, https://docs.python.org/ja/3/tutorial/			
その他	授業では、教科書を活用します。プログラミング基礎やプログラミングIと同じものです。まだ持っていない人は用意してください。 科目についての質問は、履修登録前は八木（yagi@edogawa-u.ac.jp）まで。 履修登録後は、Google Classroomの質問用窓口を利用してください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	科目担当者の八木は、複数の企業における勤務を通じ、大規模計算機システムの構築サポートや各種シミュレーターの開発に従事。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木 徹（D-0103）			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	情報処理概論/情報処理論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	コンピュータの仕組みや情報処理の基礎を理解する						
授業の概要	情報社会において必要となるコンピュータや情報処理の知識について、基礎的な事項を学習する。情報の表現方法やコンピュータのハードウェアの仕組み、ソフトウェアの役割について理解し、様々な情報システムの構成要素やネットワークの基礎について学ぶ。 授業の資料配布、小テストなどにはGoogle Classroomを用いる。毎回の授業で資料を確認すること。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」、「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」および情報文化学科の「進化するメディア環境の中で、溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」ことができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、コンピュータおよびソフトウェアの基礎知識を修得し、動作原理の基礎を理解する。 そのため、具体的には、以下の点を到達目標とする ①情報処理技術の基礎的な考えを説明できる ②コンピュータの仕組み、問題の解き方、情報の表現方法を理解する ③2進数の計算、基数変換ができる ④コンピュータにおけるソフトウェア・OSの基本的役割を理解する ⑤情報システムの構成要素、ネットワーク、セキュリティの基礎について理解する						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション（情報処理の概説と学習の進め方） 予習：教科書第1章 1.1 を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。（100分）
第2回	コンピュータとその利用（情報システム） 予習：教科書第1章 1.2 1.3 を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。身近な情報システムの例を示すことができる（100分）
第3回	コンピュータの誕生と情報社会 予習：教科書第3章を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。コンピュータ発展の経緯を説明できる（100分）
第4回	情報の表現（2進数と基数変換） 予習：教科書第4章4.1, 4.2を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。2進数と基数変換について説明できる（100分）
第5回	情報の表現（情報のコード化・文字コード） 予習：教科書第4章4.4を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。文字コードについて説明できる（100分）
第6回	情報の表現（画像・音声データのコード化） 予習：教科書第4章4.5, 4.6を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。画像と音声データのコード化について説明できる（100分）
第7回	中間まとめ（ここまでの情報の表現について振り返り、基礎を固め演習問題に取り組む） 予習：Classroomで指定する資料をあらかじめ確認しておく。（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。（100分）
第8回	ハードウェアの仕組み（コンピュータの構成要素とCPUの動作） 予習：教科書第5章5.1を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。5大装置とその役割について説明できる（100分）
第9回	ハードウェアの仕組み（記憶の仕組みとハードウェアの全体構成） 予習：教科書第5章5.2を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。記憶の仕組みとハードウェアの構成について説明できる（100分）
第10回	ハードウェアの仕組み（機械命令とCPUの動作） 予習：エドクラテスで指定する資料を読み不明な言葉を調べておく（100分） 復習：エドクラテスの練習問題を実施する。CPUの動作サイクルを理解する（100分）
第11回	ソフトウェアの役割（基本ソフトウェアOSの役割とファイルシステム） 予習：教科書第6章6.1, 6.2, 6.6を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。OSの役割とファイルについて説明できる（100分）

第12回	ソフトウェアの役割（プログラムとアルゴリズム、データ構造） 予習：教科書第6章6.4を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。プログラム処理の基本を説明できる（100分）
第13回	ネットワークと情報システム、情報倫理と情報セキュリティ（教科書第7章、第9章） 予習：教科書第7章7.1を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。ネットワークの基本を説明できる（100分）
第14回	情報システムの構築と維持（教科書第8章） 予習：教科書第8章を読み、不明な言葉を調べておく（100分） 復習：Classroomで指定する練習問題を実施する。情報システムの構築・維持方法を理解する（100分）

成績評価方法・基準	授業中に学ぶ情報処理の知識全般を含み、到達目標の②から③の理解度を問うテスト60%、個々の技術要素の個別理解を問う小テスト20%、到達目標の①を問う毎回の課題10%、毎回の授業内容の復習課題の取り組みによる学習意欲10%を合計して評価する。 オンライン・オフラインで評価基準は同じとする。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンピュータ概論	魚田 勝臣 編著・ 渥美 幸雄 著・ 植竹 朋文 著・ 大曾根 匡 著・ 森本 祥一 著・ 綿貫 理明 著	共立出版	9784320124981	
参考書	「痛快！コンピュータ学」 坂村 健、集英社 「コンピュータの仕組みを理解するための10章」 馬場 敬信、技術評論社			
その他	普段からパソコンを積極的に利用し、操作になれておくこと。 科目についての質問や問い合わせは、八木（yagi@edogawa-u.ac.jp）まで。 履修登録後の、授業についての質問はGoogle Classroom内の質問窓口も活用してください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	授業担当者の八木は、複数の企業における勤務を通じ、大規模計算機システムの構築サポートや各種シミュレーターの開発に従事。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2025年度）

学科	氏名	科目名	履修年次	単位	専門科目	実務経験	授業内容との関係性
こどもコミュニケーション	我謝 美左子	子ども家庭支援論	3	2	合計 14 単位	社会福祉法人母子生活支援施設母子指導員 子ども家庭支援センター 嘱託相談員	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		子ども家庭福祉	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
		社会福祉	1	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用
	吉岡 三貴	幼児と表現	2	2		国立小・中学校非常勤講師として勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
	守屋 志保	健康・スポーツ科学	1	2		第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイ	すべてのスケジュールで実務経験を活用
	蛸原 正貴	身体表現の技術	2	2		公立小学校教諭として勤務	すべてのスケジュールで実務経験を活用
		グループ体験	2	2			すべてのスケジュールで実務経験を活用

教員名	我謝 美左子(T-0305)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	子ども家庭支援論/家庭支援論				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	保育士が担う子育て家庭支援						
授業の概要	家庭養育の方向性が示される中、家庭で暮らすすべての子どもが第一義的養育者となる保護者によって適切に養育されるよう、子どもの最善の利益の視点から、子育て家庭支援の体制を整えることが求められている。そこで、この科目では、子どもの最善の利益の視点から、子育て家庭のニーズを軽減するための子育て支援の体制を理解し、子育て支援の中核として保育士が担う役割について説明できることを目的とする。適宜、ディスカッションを取り入れる。 対面授業の科目ではあるが、オンライン授業となった場合にはGoogle Meetを使用する。資料配布や課題の提出については、Google Classroomを使用する。						
到達目標	この科目は、「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」及び「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」という、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーに関連し、次の4点を到達目標としている。 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し説明することができる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本について説明することができる。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解し説明することができる。 4. 子育て家庭のニーズに応じ多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について討議することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス 授業の目標、進め方、評価方法 子ども家庭支援の意義と役割① 子ども家庭支援の意義と必要性（1章）、子ども家庭支援の目的と機能（2章） 予習：シラバスを見て授業の概要をつかむ（100分） 復習：子ども家庭支援の必要性と目的について考えをまとめる（100分）
第2回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本① 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義（3章） 予習：教科書を読み、保育の専門性について調べる（100分） 復習：子ども家庭支援における保育の専門性の要点をノートにまとめる（100分）
第3回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本② 子どもの育ちの喜びの共有（4章） 予習：教科書を読み、子どもの育ちの喜び共有について調べる（100分） 復習：子どもの育ちの喜びの共有について説明できるよう授業内容をノートにまとめる（100分）
第4回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本③ 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援（5章） 予習：教科書を読み、保護者及び地域の子育てする力の向上に資する支援について調べる（100分） 復習：関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第5回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本④ 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）（6章） 予習：教科書を読み、保育士に求められる基本的態度について調べる（100分） 復習：関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第6回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑤ 家庭の状況に応じた支援（7章） 予習：教科書を読み、家庭の状況に応じた支援について調べる（100分） 復習：家庭の状況に応じた支援について説明できるよう考えをまとめる（100分）
第7回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑥ 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力（8章） 予習：教科書を読み、地域の資源の活用・連携・協力について調べる（100分） 復習：関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第8回	子育て家庭に対する支援の体制① 子育て家庭の福祉を図るための社会資源（9章） 予習：教科書を読み、子ども家庭の福祉を図るための社会資源について調べる（100分） 復習：授業内容を振り返り、居住自治体の資源について調べる（100分）
第9回	子育て家庭に対する支援の体制② 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進（10章） 予習：教科書を読み、子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について調べる（100分） 復習：関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第10回	多様な支援の展開と関係機関との連携① 子ども家庭支援の内容と対象（11章） 予習：教科書を読み、子ども家庭支援の内容と対象について調べる（100分） 復習：子ども家庭支援の対象と内容について説明できるようノートにまとめる（100分）
第11回	多様な支援の展開と関係機関との連携② 保育所等を利用する子どもの家庭への支援（12章） 予習：教科書を読み、保育所等を利用する子どもの家庭の状況について調べる（100分）

	復習：保育所等を利用する子どもの家庭への具体的支援について説明できるよう授業内容をノートにまとめる（100分）
第12回	多様な支援の展開と関係機関との連携③ 地域の子育て家庭への支援（13章） 予習：教科書を読み、地域の子育て家庭の状況について調べる（100分） 復習：地域の子育て家庭への具体的支援について説明できるよう授業内容をノートにまとめる（100分）
第13回	多様な支援の展開と関係機関との連携④ 要保護児童及びその家庭に対する支援（14章） 予習：教科書を読み、要保護児童及びその家庭に対する支援について調べる（100分） 復習：関連科目の教科書等を参照し、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第14回	多様な支援の展開と関係機関との連携⑤ 子ども家庭支援に関する現状と課題（15章） 予習：子ども家庭支援の現状について調べる（100分） 復習：授業全体を総括し論点をまとめ、レポート作成に取り組む（100分）

成績評価方法・基準	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本や支援体制についての理解を問う課題レポート60％、子育て家庭のニーズに応じた多様な子ども家庭支援の現状と課題についての考えをまとめる授業課題（30％）、発言等の平常点(10％)を合計して評価する。課題は適宜解説する。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども家庭支援論 第2版	守巧編著	萌文書林	9784893474308	2025年発行
参考書	「保育所保育指針解説」 厚生労働省 フレーベル館			
その他	連絡先 gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	母子生活支援施設母子指導員、子ども家庭支援センター 嘱託相談員等として、20年余りにわたりソーシャルワーク実践に従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我謝 美左子(T-0305)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	子ども家庭福祉/児童家庭福祉				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	子どもの権利を具体化する子どもと家庭のサービス体系						
授業の概要	現代社会において、子どもの貧困や子ども虐待は、どの家庭にも陥りやすいというリスクを孕んでいる。そのため、子どもの最善の利益を保障する視点から、妊娠期からの包括的なサービス体系の中で、当事者である子どもにサービスが確実に届くことが求められている。そこで、この科目では、要支援児童等（要保護児童とその保護者・要支援児童・特定妊婦）を含むすべての子どもの生活を困難にする状況に対する支援の必要性を理解し、子ども家庭福祉制度に基づくサービスと実施体系について、説明できることを目的とする。適宜、子ども家庭福祉問題をとり上げ、ディスカッションを取り入れる。 対面授業の科目であるが、オンラインとなった場合にはGoogle Meetを使用する。資料配布や課題提出についてはGoogle Classroomを使用する。						
到達目標	この科目は、「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」及び「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」という、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーに関連し、次の5点を到達目標としている。 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。 2. 子どもの人権擁護について討議できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明できる。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について説明できる。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について説明できる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス 授業の目標、進め方、評価 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷① 子ども家庭福祉の理念と概念、現代社会と子ども家庭福祉（序章・1章・2章・3章-3） 予習：シラバスを見て授業の概要をつかむ（100分） 復習：授業内容をまとめ、子どもと家庭が直面する問題を書き出す（100分）
第2回	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷② 子ども家庭福祉の歴史の変遷（4章） 予習：教科書を読み、戦前の子ども家庭福祉に関する不明な語句や疑問点についてまとめる（100分） 復習：歴史上の人物と功績を説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）
第3回	子どもの人権擁護 子どもの人権擁護の歴史の変遷、児童の権利に関する条約、子どもの人権擁護と現代社会における課題（3章） 予習：教科書を読み、子どもの権利条約に関する不明な語句や疑問点について調べる（100分） 復習：子どもの権利の具体化について説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）
第4回	子ども家庭福祉の制度と実施体系① 子ども家庭福祉の制度と法体系（5章） 予習：教科書を読み、法体系に関する不明な語句や疑問点について調べる（100分） 復習：法律に関連付けて子ども家庭福祉制度について説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）
第5回	子ども家庭福祉の制度と実施体系② 子ども家庭福祉の実施体系、児童福祉施設、子ども家庭福祉の専門職（6章） 予習：教科書を読み、児童福祉施設に関する不明な語句や疑問点について調べる（100分） 復習：児童福祉施設のうち保育実習Ⅰに該当する施設について説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）
第6回	子ども家庭福祉の現状と課題① 少子化と地域子育て支援（7章） 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点について調べ少子化の流れを把握する（100分） 復習：子ども・子育て支援新制度による保育施策について説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）
第7回	子ども家庭福祉の現状と課題② 母子保健と子どもの健全育成、多様な保育ニーズへの対応（8章） 予習：教科書を読み、母子保健と子どもの健全育成に関する不明な語句や疑問点について調べる（100分） 復習：授業内容をノートにまとめ、居住地域の地域子ども・子育て支援事業について説明できるよう調べる（100分）
第8回	子ども家庭福祉の現状と課題③ 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止（9章） 予習：教科書を読み、子ども虐待とDVの現状に関する不明な語句や疑問点について調べる（100分） 復習：保育士の対応について説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）
第9回	子ども家庭福祉の現状と課題④ 社会的養護（10章） 予習：教科書を読み、社会的養護の意味と保育士が担う役割について調べる（100分） 復習：実習種別施設の社会的養護の役割を説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）

第10回	子ども家庭福祉の現状と課題⑤ 障害のある子どもへの対応（11章） 予習：教科書を読み、障害のある子どもへの支援に関する不明な語句や疑問点について調べる（100分） 復習：障害のある子どもへの支援について説明できるよう、授業内容をノートにまとめる（100分）
第11回	子ども家庭福祉の現状と課題⑥ 少年非行等への対応（12章） 予習：教科書を読み、少年非行等の現状に関する不明な語句や疑問点について調べる（100分） 復習：少年非行等の要因となる子どもの困難について説明できるよう、考えをまとめる（100分）
第12回	子ども家庭福祉の現状と課題⑦ ひとり親家庭への対応（13章） 予習：教科書を読み、ひとり親家庭の現状について調べる（100分） 復習：授業内容をまとめ、ひとり親家庭への対応について考えをまとめる（100分）
第13回	子ども家庭福祉の現状と課題⑧ 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応（14章） 予習：教科書を読み、支援を要する家庭の現状について調べる（100分） 復習：支援を要する家庭の子どもの困難について考えをまとめる（100分）
第14回	子ども家庭福祉の動向と展望 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進、地域における連動・協働とネットワークの推進、諸外国の動向 予習：授業全体をふり返り、疑問点をノートに書きだす（100分） 復習：授業全体を総括し論点をまとめ、レポート作成に取り組む（100分）

成績評価方法・基準	制度や実施体系に関わる仕組みや現状・課題への理解を問うレポート60％、子ども家庭福祉の意義や子どもの人権に関する考えをまとめる課題や振り返り30％、発言等の平常点10％を合計し評価する。課題は適宜解説する。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
輝くこどもたち 子ども家庭福祉論（第3版）	比嘉真人監修・石山直樹・岡本眞幸・田家英二編集	みらい		2025年発行
参考書	『社会福祉小六法』2024、ミネルヴァ書房、2024年			
その他	連絡先 gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	母子生活支援施設母子指導員、子ども家庭支援センター 嘱託相談員等として、20年余りにわたりソーシャルワーク実践に従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我謝 美左子(T-0305)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	社会福祉				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	社会福祉制度によるサービスと必要とする状況を知る						
授業の概要	少子高齢化に伴い、社会福祉制度によるサービスを必要とする人が拡大している背景を踏まえ、サービスの量の拡充や相談援助や権利擁護によるサービスの質の保障の必要性を理解し、社会福祉に基づく考え方や支援方法を応用して、保育士が担う子育て家庭支援について多面的に説明できることを目的とする。適宜、社会福祉問題に関するディスカッションを取り入れる。 対面授業科目ではあるが、オンラインとなった場合にGoogle Meetを使用する。資料の配布や課題の提出についてはGoogle Classroomを使用する。						
到達目標	この科目は、「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」及び「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」という、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーに関連し、次の5点を到達目標としている。 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について説明することができる。 2. 社会福祉の制度や実施体系について説明することができる。 3. 社会福祉における相談援助について理解し、子育て支援に応用することができる。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明することができる。 5. 社会福祉の動向と課題について討議することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス授業の目標、進め方、評価 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷① 社会福祉の理念と概念 社会福祉の歴史の変遷（第1講） 予習：シラバスを読み授業の概要をつかむ（100分） 復習：教科書を読みなおし、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第2回	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷② 子ども家庭支援と社会福祉（第2講） 予習：教科書を読み、社会福祉と子ども家庭支援の関連について調べる（100分） 復習：社会福祉と子ども家庭支援の関連について考えをまとめる（100分）
第3回	社会福祉の制度と実務体系① 社会福祉の制度と法体系（第3講） 予習：教科書を読み、社会福祉の制度と法体系について調べる（100分） 復習：社会福祉の制度と法体系について説明できるよう要点をまとめる（100分）
第4回	社会福祉制度と実施体系② 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設（第4講） 予習：教科書を読み、社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等について調べる（100分） 復習：教科書を読みなおし、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第5回	社会福祉制度と実施体系③ 社会福祉の専門職（第5講） 予習：教科書を読み、社会福祉の専門職について調べる（100分） 復習：社会福祉の専門職について説明できるよう授業内容をノートにまとめる（100分）
第6回	社会福祉の制度と実施体系④ 社会保障及び関連制度の概要（第6講） 予習：教科書を読み、社会保障及び関連制度の概要について調べる（100分） 復習：社会保障及び関連制度の概要について説明できるよう要点をまとめる（100分）
第7回	社会福祉における相談援助① 相談援助の理論（第7講）、相談援助の意義と機能（第8講） 予習：教科書を読み、相談援助の理論や意義と機能について調べる（100分） 復習：教科書を読みなおし、不明な語句を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第8回	社会福祉における相談援助② 相談援助の対象と過程（第9講） 予習：教科書を読み、相談援助の対象と過程について調べる（100分） 復習：授業内容を振り返り要点をノートにまとめる（100分）
第9回	社会福祉における相談援助③ 相談援助の方法と技術（第10講） 予習：教科書を読み、相談援助の方法と技術について調べる（100分） 復習：相談援助の方法と技術について説明できるよう考えをまとめる（100分）
第10回	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 情報提供と第三評価 利用者の権利擁護と苦情解決（第11講） 予習：教科書を読み、利用者の保護に関わる仕組みについて調べる（100分） 復習：教科書を読みなおし、不明な語句等を調べながら授業内容をノートにまとめる（100分）
第11回	社会福祉の動向と課題① 少子高齢化社会における子育て支援（第12講） 予習：教科書を読み、少子高齢化社会における子育て支援について調べる（100分）

	復習：少子高齢化社会における子育て支援について説明できるよう要点をノートにまとめる（100分）
第12回	社会福祉の動向と課題② 共生社会の実現と障害者施策（第13講） 予習：教科書を読み、共生社会の実現と障害者施策について調べる（100分） 復習：授業内容を振り返り、共生社会の実現について説明できるよう要点をノートにまとめる（100分）
第13回	社会福祉の動向と課題③ 在宅福祉・地域福祉の推進（第14講） 予習：教科書を読み、在宅福祉・地域福祉の推進について調べる（100分） 復習：在宅福祉・地域福祉の推進について説明できるよう考えをまとめる（100分）
第14回	社会福祉の動向と課題④ 諸外国の動向（第15講） 予習：教科書を読み、諸外国の動向と課題について調べる（100分） 復習：授業全体を総括し論点をまとめ、レポート作成に取り組む（100分）

成績評価方法・基準	社会福祉制度や実施体系、相談援助や利用者保護に関わる仕組みについての理解を問うレポート60%、社会福祉に関連付けて子ども家庭支援等について考えをまとめる課題や振り返り30%、発言等の平常点10%を合計して評価する。 課題は適宜解説する。
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ 社会福祉第2版	監修 児童育成協会 編集 松原康雄・坪洋一・金子充	中央法規	978-4-8058-8787-5	2023年発行
参考書	「社会福祉小六法」2024 ミネルヴァ書房 2024年			
その他	連絡先 gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	母子生活支援施設母子指導員、子ども家庭支援センター 嘱託相談員等として、20年余りにわたりソーシャルワーク実践に従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	吉岡 三貴(H-0069)、小日向真理			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	幼児と表現				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	幼児の豊かな表現を引き出す保育者をめざす						
授業の概要	乳幼児の表現を引き出すには、保育者自身の表現が幅広く、豊かであることが望ましい。そのために、実際に多様な表現活動を通して人間と社会との関わりを考える。また、小学校も含めた様々な実践を鑑賞するとともに、幼児に効果的なICTの活用を工夫し、理論と体験を通して、保育者としての力量を高める。						
到達目標	この科目は、こどもコミュニケーション学科（２）の「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」及び、メディアコミュニケーション学部（２）の「教養としての基礎知識及び先行する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の点を目標とする。 ・「幼稚園教育要領」の示す領域『表現』のねらいと内容を理解し、幼児の感性や創造性を豊かにする知識や技能、表現力を身につける。 ・幼児の表現を受け止め、共感的に理解することができる。 ・豊かな表現者となるため、身体の諸感覚を通してモノやヒトと対話し、豊かな感受性と想像力を身につける。 ・他者と協働し、より豊かな表現活動を目指して企画・運営・展開することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	授業ガイダンス 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と領域「表現」の概説 予習：幼稚園指導要領の「表現」をよく読んで、質問事項などをまとめておく。(100分) 復習：授業で学んだことをもとにそれぞれの園で求められている「表現」について、説明できる。(100分)
第2回	幼小連携とは アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム、子どもの権利条約から考える表現 予習：アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて、調べておく。(100分) 復習：幼小連携で今大切にされていることについてまとめる。(100分)
第3回	子どもを見るとはどういうことか 予習：子どもが表現していると思われる事例を集める。(100分) 復習：授業で話し合ったことをもとに、子どもを見るまなざしについて考えをまとめる。(100分)
第4回	アートの思考とは何か モノとの関わりを通して 手で感じる・手でつくる 予習：レッジョ・エミリアの教育について、特徴を調べる。(100分) 復習：モノとの関わりを通した学びについて整理する。(100分)
第5回	文化的実践とは何か わらべうたあそび、日本の伝統文化（歌舞伎（長唄）・祭り囃子） 予習：日本の伝統芸能の中から一つを選んでまとめる。(100分) 復習：歌舞伎と祭囃子、長唄の唱歌を唱え、特徴を説明できる。(100分)
第6回	ことば・動き・音に注目した表現活動 即興的な表現（オスティナートを用いて） コダーイ、オルフ、ダルクローズの考え方 実際の作品を通して 予習：それぞれの教育の特徴を調べる。(100分) 復習：音と言葉と動きの関係についてまとめ、幾つかの内容を繰り返して練習する。(100分)
第7回	身体で聴く・合わせる 全体で動きを感じ、身体から展開される表現 なわとび、なわくぐり、まりつき、お手玉、カップソング等の実践を通して 予習：自分がこれまでに体験した、身体全体を使った表現を振り返る。(100分) 復習：授業での活動をもとに、自分で幾つかの実践を考える。
第8回	自然環境を活かした表現活動 見る・聴く・触る マリー・シェーファーの考え方 予習：マリーシェーファーについて調べる。(100分) 復習：授業での活動をもとに、自分で幾つかの例を行ってみる。(100分)
第9回	ICTを活用した環境構成 イメージと表現 予習：ICTを活用した表現活動を構想する。(100分) 復習：授業で学んだICTを活用した保育について整理し、自分の考えを書く。(100分)

第10回	総合的な表現（１）グループでの作品作り 企画―練習―協議・批評―修正 ドキュメンテーションをつくる（１）自分たちの活動の記録 予習：子どもたちと行ってみたいプロジェクトの案を作成する。（100分） 復習：授業でのグループ活動を振り返り、見えてきた課題を整理する。（100分）
第11回	総合的な表現（２）グループでの作品作り 見直しと訂正 ドキュメンテーションをつくる（２）自分たちの活動の記録の表現方法を工夫、グループ発表と振り返り 予習：活動のドキュメンテーションづくりに必要なものを準備する。（100分） 復習：全体討議で得た意見を受け、ドキュメンテーションづくりに大切なことをまとめる。（100分）
第12回	指導計画作成と模擬保育（１） グループでの指導案検討 予習：これまで学んだことをもとに、6月の指導計画を立てる。（100分） 復習：グループで協議し、指導案を作成する。（100分）
第13回	指導計画作成と模擬保育（２）全体討議 指導案完成―模擬保育―批評―振り返り 予習：模擬保育に必要な道具を準備し、流れを確認する。（100分） 復習：全体討議で得た意見を受け、模擬保育を振り返る。（100分）
第14回	全体の振り返り 表現を大切にしたい保育実践の動向 予習：授業の総括をする。（100分） 復習：表現を大切にしたい保育のありかたについて考えをまとめる。（100分）

成績評価方法・基準	普段の授業への取り組み、発言など 20%、レポート等課題 50%、作品発表 30%
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	
『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	978-4577814482	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	内閣府、文部科学省、厚生労働省	フレーベル館	978-4577814499	
参考書	『小学校でチャレンジする！伝統音楽の授業プラン』川口明子・猶原和子/明治図書(2012) 『幼児教育へのいざない 一円熟した保育者になるために―』佐伯胖/東京大学出版会（2001） このほか、授業時に適宜紹介			
その他	連絡先：myosioka@edogawa-u.ac.jp（吉岡） 外部講師によるワークショップを行う場合がある。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	国立小・中学校非常勤講師として勤務
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	守屋 志保(D-0402)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	健康・スポーツ科学/健康・スポーツ科学I				
学期※2	2025年度前期			学校区分	大学		
科目群	1群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	スポーツを通じてコミュニケーション能力を身につける。						
授業の概要	スポーツを文化としてとらえ、その魅力を探るとともに、現代社会の現状と課題をあげ、コミュニケーション、チームワークなどスポーツを切り口に問題解決する方法を検討する。また、スポーツを健康・体力作りの視点でとらえ、運動生理学やスポーツ医学、栄養学的な知見を手がかりに私たちの生活の中でスポーツや身体運動とどのように関わっていったらいいのかを考察する。						
到達目標	メディアコミュニケーション学部のディプロマポリシーである「自分の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」を到達目標とし、自分の意見を適切に表現するために、基礎的・専門的知識を身につける必要がある。そのため、スポーツを健康・体力づくりの視点でとらえ、身体に対しての気づき、健康に対して適切な知識を身につける。また、グループで活動していく中で、周囲の状況を的確に捉え、コミュニケーション能力、協調性などのスキルを身につける。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	文化としてのスポーツのとらえ方 スポーツの価値について考え、理解する。 予習：自身が行ってきたスポーツからどのようなことが得られたかについて、論議できるように準備をする。(100分) 復習：他の学生が述べたスポーツの価値について自身の考えと比較検討を行う。(100分)
第2回	現代社会とスポーツ 現代社会におけるスポーツの役割について理解する。 予習：現代社会におけるスポーツの役割について調べておく。(100分) 復習：現代社会におけるスポーツの役割について説明できる。(100分)
第3回	運動生理学とスポーツ 運動生理学の考え方 運動生理学についての理解 予習：運動生理学について調べておく。(100分) 復習：授業内での学習をノートに整理する。(100分)
第4回	運動生理学とスポーツ 運動生理学を活かした健康・体力づくり 体力についての理解 予習：体力の定義について調べておく。(100分) 復習：授業内での学習をノートに整理する。(100分)
第5回	運動生理学とスポーツ ウォーミングアップ、クーリングダウンの重要性を知り、実際に行う。 予習：ウォーミングアップ、クーリングダウンの重要性について調べる。(100分) 復習：授業内に行った内容をノートに整理する。(100分)
第6回	運動生理学とスポーツ ウォーミングアップとクーリングダウンをグループごとに組み立て、実際に行う。 予習：ウォーミングアップ、クーリングダウンを実際に指導できるよう指導案を作成する。(100分) 復習：授業の振り返りを行い、課題を明確にする。(100分)
第7回	球技の理論と実技 基本技術の習得 バスケットボール競技を通じて、基本技術の習得を行う。 予習：バスケットボール競技の基本技術の映像などを見る。(100分) 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。(100分)
第8回	球技の理論と実技 基本技術の習得と組み合わせ バスケットボール競技を通じて、基本技術を複合的に使用することを学ぶ。 予習：バスケットボール競技の基本技術の映像などを見る。(100分) 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。(100分)
第9回	球技の理論と実技 ゲーム運営の基本 グループに分かれ、ウォーミングアップ、ゲーム運営、クールダウンなどを行う。 予習：バスケットボールのルールについて調べる。(100分) 復習：グループで行った内容について振り返る。(100分)

第10回	球技の理論と実技 ゲーム運営 グループごとにコミュニケーションをとり、ゲーム運営を行う。 予習：前回のゲーム運営について振り返り課題をどう対処するか考え、ノートに書く。(100分) 復習：ゲームの内容について振り返る。(100分)
第11回	球技の理論と実技 ゲーム運営と評価 コミュニケーションをとり、ゲームの内容を改善するための方法を考え、チームで修正を行う。 予習：以前に行ったゲームについて振り返る。(100分) 復習：修正した内容が適切であったか考える。(100分)
第12回	栄養とスポーツ 栄養の考え方 栄養とスポーツとの関係について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる(100分) 復習：スポーツとの関連性について説明できる。(100分)
第13回	栄養とスポーツ 栄養を活かした健康・体力づくり 栄養の重要性について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる。健康・体力づくりには、栄養が重要だということを理解する。(100分) 復習：スポーツとの関連性について説明できる。(100分)
第14回	医学とスポーツ 人体の基礎 スポーツ医学の基礎を理解する。 予習：スポーツ医学の基礎知識を調べる。スポーツによって起こりうる怪我について調べる。(100分) 復習：授業内容をノートに整理する。(100分)

成績評価方法・基準	実技試験（30%）、授業における小レポート（50%） 実技への取り組みとチームワークを高めるためのコミュニケーション・リーダーシップ能力（20%） 小レポートにおいては、基礎知識が理解されているかを主に評価し、実技においては、周囲の状況を的確に捉え、コミュニケーションがとれているか、またチームワークを高めるための行動がとれているのかを評価の対象とする。 また授業のフィードバックに関しては、Google class room を用いて行います。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのスポーツ科学	早稲田大学スポーツ科学学術院	大修館書店		
参考書				
その他	授業の連絡等は、Class room で行います。また、質問などある場合は、moriya@edogawa-u.ac.jp お願いします。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験を全ての授業で活用する。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(3)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	蛸原正貴(D-0903)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	身体表現の技術				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	簡単な表現遊びから集団での創作演技についての指導法を学ぶ						
授業の概要	表現遊びを中心とした体験活動を通して、乳幼児の心身の発達に有効な身体表現活動を理解することを目的とする。具体的には、ヒトやモノのまねをしてみたり、リズムに合わせて体を動かしたりと、まずは受講者自身が表現遊びの楽しさに触れ、発達段階、人数、場所、道具の有無など、指導に必要な知識・技能を身につけていく。 授業は個人またはグループで行い、オンライン授業実施時には「Google Meet」「Google classroom」を使用する。						
到達目標	本科目はこどもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」というディプロマポリシーと関連しており、以下を到達目標とする。 １．表現遊びの特徴と活用方法について理解し、実践へとつなげることができる。 ２．発達段階に適した表現遊びを知り、各段階での道具の活用法等について理解する。 ３．道具を使った表現遊びについて理解し、個人またはグループで作品の創作をすることができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス（アイスブレイク） アイスブレイクを取り入れた遊びについて体験的に学ぶ。 予習：アイスブレイクについて調べておく（100分） 復習：授業で行ったアイスブレイクを振り返り、実施したアイスブレイクの遊び方を説明できる（100分）
第2回	ジェスチャーゲーム ジェスチャーを利用したペアや集団での遊びについて体験的に学ぶ。 予習：ジェスチャーの有効性について調べておく（100分） 復習：授業で行ったジェスチャーゲームを振り返り、実施したジェスチャーゲームの遊び方を説明できる（100分）
第3回	イメージカルタ イメージカルタの作成及びその遊び方について体験的に学ぶ。 予習：イメージカルタについて調べておく（100分） 復習：授業で行ったイメージカルタを振り返り、実施したイメージカルタの遊び方を説明できる（100分）
第4回	ミラーゲーム ペアや集団におけるミラーゲームの活用法を体験的に学ぶ。 予習：ミラーゲームについて調べておく（100分） 復習：授業で行ったミラーゲームを振り返り、実施したミラーゲームの遊び方を説明できる（100分）
第5回	新聞遊び 新聞を使った個人、ペア、集団での遊びについて体験的に学ぶ。 予習：新聞遊びについて調べておく（100分） 復習：授業で行った新聞遊びを振り返り、実施した新聞遊びの遊び方を説明できる（100分）
第6回	ボール・フープ遊び ボールやフープ遊びについて、道具を組み合わせながら体験的に学ぶ。 予習：ボールやフープを使った遊びについて調べておく（100分） 復習：授業で行ったボールやフープを使った遊びを振り返り、実施したボールやフープを使った遊びの遊び方を説明できる（100分）
第7回	模倣ダンス①（振付及び曲の選択） 既存のダンスについて、グループで振り付け及び曲の選定を行う。 予習：ダンスについてどのような種類があるのか調べておく（100分） 復習：学んだダンスの種類や幼児期に適したダンスについて振り返る（100分）
第8回	模倣ダンス②（個人及び集団での動きについて） 既存のダンスについて、振り付け及び隊形移動について考える。 予習：個人での振付や集団移動の種類について調べておく（100分） 復習：学んだダンスの種類や幼児期に適したダンスについて振り返る（100分）
第9回	模倣ダンス③（ダンスの発表） 各グループで練習してきたダンスを全体で共有する。 予習：選択したダンスの振付や集団移動について練習しておく（100分） 復習：他グループの発表を含めたダンス学習の振り返りを行う（100分）
第10回	グループ創作①（バラバルーンを使った創作演技の曲、動きの選定） バラバルーン演技について、グループで演技の検討及び曲の選定を行う。

	予習：パラバルーンについて調べておく（100分） 復習：実施した創作演技を振り返り、改善点を検討する（100分）
第11回	グループ創作②（パラバルーンの特性を活かした動きの検討） パラバルーン演技について、演技の組み合わせ、道具の使用について考える。 予習：発表に向けたパラバルーン演技の練習を行う（100分） 復習：実施した創作演技を振り返り、改善点を検討する（100分）
第12回	グループ創作③（振り付け及び隊形移動の検討） パラバルーン演技について、隊形移動について考える。 予習：発表に向けたパラバルーン演技の練習を行う（100分） 復習：実施した創作演技を振り返り、改善点を検討する（100分）
第13回	グループ創作④（グループ発表及び相互評価と自己評価） 練習してきた演技を発表し、全体で共有する。 予習：発表に向けたパラバルーン演技の練習を行う（100分） 復習：相互評価と自己評価の結果を考察し、改善点を検討する（100分）
第14回	身体表現技術に関する振り返り（Googleclassroomを利用したオンデマンド授業） これまでに学んだ身体表現に関する技術を振り返り、現場でどのように活用できるのかレポートにまとめる。 予習：これまでに学んだ授業内容について振り返っておく（100分） 復習：レポート作成によって整理された現場での活用法をまとめる（100分）

成績評価方法・基準	対面時の評価方法 身体表現に関する知識・技能及び現場での活用法を問うレポート：30％ 発達段階に適した表現遊びや道具の活用方法等に関する知識・技能を用いて創作するグループ発表：70％（構成：30％、実演の完成度：40％、） ※オンライン授業となった場合の評価方法 表現遊びの特徴や、道具の活用方法等に関する小レポート：30％ 表現力を問う課題：10％ 表現遊びに関する指導案の作成：30％ 発達段階に適した表現遊びや道具の活用方法等に関する知識・技能に関するレポートの提出：30％
-----------	---

参考書	「乳幼児のための豊かな感性を育む身体表現遊び」 青山優子他 ぎょうせい 978-4-324-10790-4
その他	・全回出席を原則とする。見学は不可、事情がある場合は相談のこと。 ・室内用シューズを準備するとともに、全ての回で運動に適した服装・身だしなみで受講すること。結べる人は髪の毛を必ずゴムで結ぶ。ピアス、ネックレス、ブレスレット等のアクセサリー着用不可。身だしなみに関する注意事項が守られていない場合は減点対象とする。 ・貴重品は自己管理すること。 ・運動時に必要となるタオル、水分などは各自で準備すること。 授業に関する質問等は「ebihara@edogawa-u.ac.jp」までメールにて連絡する、または、オフィスアワーの時間を活用して研究室までお越しください。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	公立小学校教諭として勤務。
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	蛸原正貴(D-0903)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2025年度	科目名	グループ体験				
学期※2	2025年度後期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	グループワークを重ねる中で、様々なコミュニケーション技法を身につける。						
授業の概要	様々なフィールドにおいてグループワークを体験することで、感受性を高め、自らのポジティブ感情への気づきを促し、興味や疑問を抽出する機会とする。興味や疑問の抽出方法、または言語化による表現方法についても、具体的な体験を通して学ぶ。また、同級生との体験の共有は、関係性の強化につながり、集団アイデンティティの形成へと発展し、意欲的に学び続ける素地を作り、実習時の相互扶助のベースづくりや、就職後の同職種同士のスムーズなコミュニケーションスキルの獲得にもつながる。またそれだけでなく、身につけたことをお互いに強化しながら学び続けることが可能となることを促す。 この授業では毎回異なるグループを編成するため、座席を指定する。授業開始前に座席を確認すること。 資料の配布、提出等は「Google classroom」を使用し、オンライン授業が必要となった場合は「Google meet」を使用する。						
到達目標	この科目は「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている。」という、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーに関連し、集団指導の基本的知識及び態度の獲得をめざし、グループ内での自らの体験において対人関係能力、言語・非言語コミュニケーション能力、適応行動能力を自己開発する。 具体的には、他者との協力関係と自己の貢献を視点に、活動への参加意欲の醸成を図り、活動への参加態度の積極性を促し、グループ指導の実践能力の獲得をめざす。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	アイスブレイクについての体験的理解 ジェスチャーゲームなどの少人数での遊びから、集団における遊びなどを体験する。 予習：アイスブレイクとは何か調べておく（100分） 復習：効果的なアイスブレイクについてまとめる（100分）
第2回	チームビルディングの基礎的理解 チームに与えられた課題を解決しながら、チーム力を向上させるための必要事項を理解する。 予習：チームビルディングとは何か調べておく（100分） 復習：チームビルディングの有効性についてまとめる（100分）
第3回	グループワークとファシリテーション ファシリテーターを体験しながら、スムーズなグループワークについて考える。 予習：ファシリテーションの意義と内容について事前に調べる（100分） 復習：ファシリテーションの効用について感想をまとめる（100分）
第4回	積極的傾聴法の基礎技法の理解 ペアを中心とした積極的傾聴法の体験を行う。 予習：積極的傾聴の意義と内容について事前に調べる（100分） 復習：積極的傾聴の効用について感想をまとめる（100分）
第5回	バーバルコミュニケーションの特色 言葉、文字といったバーバルコミュニケーションの意義について、日本の文化に触れながら体験する。 予習：バーバルコミュニケーションの意義と内容について事前に調べる（100分） 復習：バーバルコミュニケーションの留意事項に基づき会話をを行い、感想をまとめる（100分）
第6回	ノンバーバルコミュニケーションの特色 表情、目線などのノンバーバルコミュニケーションが与える影響について、グループワークを通して理解する。 予習：ノンバーバルコミュニケーションについて事前に調べる（100分） 復習：ノンバーバルコミュニケーションの特色に留意して会話をを行い、感想をまとめる（100分）
第7回	自己主張訓練の理解 自己の意見を主張しながらも、相手を不快にさせないための方法について、場面を設定したロールプレイングによって学ぶ。 予習：自己主張の意義と内容について事前に調べる（100分） 復習：自己主張の方法に留意して会話をを行い、感想をまとめる（100分）
第8回	プロジェクトアドベンチャー（チームワーク） グループで取り組むことの利点を意識しながら、課題解決を図る。 予習：プロジェクトアドベンチャーについて事前に調べる（100分） 復習：プロジェクトアドベンチャーの体験的効用について感想をまとめる（100分）
第9回	否定や反対意見の表現方法の理解と実践 否定や反対意見を伝える際の伝え方について、具体的な場面から体験的に学ぶ。 予習：否定や反対意見の表現方法について事前に調べる（100分） 復習：否定や反対意見の表現方法について感想をまとめる（100分）

第10回	ループ学習を活用したディスカッションの理解 シングルループ学習、ダブルループ学習を利用しながらディスカッションを行う。 予習：ループ学習について事前に調べる（100分） 復習：ループ学習を活かした考え方について感想をまとめる（100分）
第11回	グループで行う達成課題による集団の中の自己役割理解 予習：前回の授業に基づき、理想とする自己役割について事前にまとめる（100分） 復習：体験から実際の自己役割理解についての感想をまとめる（100分）
第12回	グループ体験を通じたコミュニケーションの重要性① これまでの学びを活用しながら、幼稚園、保育所、こども園の開園について考える。 予習：授業からの学びを文章にまとめる（100分） 復習：他者の学びと比較し、自己の学習成果を振り返る（100分）
第13回	グループ体験を通じたコミュニケーションの重要性②（オンデマンド型授業） 幼稚園、保育所、こども園を開園する際の環境構成についてディスカッションを行う。 予習：授業からの学びを文章にまとめる（100分） 復習：他者の学びと比較し、自己の学習成果を振り返る（100分）
第14回	グループ体験を通じたコミュニケーションの重要性③ 12回、13回で検討した内容を全体で共有する。 予習：授業からの学びを文章にまとめる（100分） 復習：他者の学びと比較し、自己の学習成果を振り返る（100分）

成績評価方法・基準	他者との協力関係と自己の貢献を視点に、活動への参加意欲（４０％）、活動への参加態度（４０％）、グループ指導の実践能力を把握するためのレポート（２０％）、から総合的に評価する。 なお、オンライン授業で実施した場合、授業のレジュメ（４０％）、活動への参加態度（４０％）、グループ指導の実践能力を把握するためのレポート（２０％）、から総合的に評価する。
-----------	---

参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館
その他	連絡先：蛸原（ebihara@edogawa-u.ac.jp） この授業では科目名の通り、グループ活動が基本となることから、グループ内でのコミュニケーションが必須となる。対面でのコミュニケーションを促進するという観点から、スマートフォンの使用は許可があった場合を除き原則禁止とする。スマートフォンの使用が確認された場合は、１度目の注意で５点減点とし、同一授業内で２度目の注意を受けた場合には退出指示を出すことがある。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	公立小学校教諭として勤務。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。